

駒木沢(2)遺跡

— 県営一般農道整備事業(過疎基幹)に伴う遺跡発掘調査報告 —

2013年3月

青森県教育委員会



遺跡遠景（北東から阿闍羅山側を望む）



調査区遠景（上が北）



基本層序②（南から）



第1号竪穴住居跡
完掘（南西から）



第7号竪穴住居跡
床面出土遺物

序

青森県埋蔵文化財調査センターでは、平成22年度から23年度にかけて県営一般農道整備事業予定地内に所在する駒木沢(2)遺跡の発掘調査を実施しました。

調査の結果、遺構では縄文時代の竪穴住居跡・掘立柱建物跡・土坑などが確認されました。遺物では多量の土器・石器のほか、人面が表現されたスタンプ形土製品が出土しました。これにより、該期の集落の構造や土地利用等に加え、縄文時代の精神文化を知るうえでも貴重な成果を得ることができました。

本報告書はこれらの調査成果をまとめたものです。この成果が、埋蔵文化財の保護等に広く活用され、地域の歴史を理解する一助となることを心から期待いたします。

最後に、日頃から埋蔵文化財の保護と活用に対してご理解をいただいている青森県農林水産部農村整備課に厚くお礼申し上げますとともに、発掘調査の実施と報告書の作成にあたり、ご指導・ご協力をいただきました関係各位に対し、心より感謝いたします。

平成25年3月

青森県埋蔵文化財調査センター

所 長 柿 崎 隆 司

例 言

- 1 本書は、青森県農林水産部農村整備課による県営一般農道整備事業（過疎基幹）に伴い、青森県埋蔵文化財調査センターが平成22年度及び平成23年度に発掘調査を実施した大鰐町駒木沢(2)遺跡の発掘調査報告書である。発掘調査面積は、1,400㎡である。
- 2 駒木沢(2)遺跡の所在地は、青森県南津軽郡大鰐町大字長峰字駒木沢地内で、青森県遺跡番号は362045である。
- 3 発掘調査及び整理・報告書作成の経費は発掘調査を委託した青森県農林水産部農村整備課が負担した。
- 4 発掘調査から整理・報告書作成までの期間は、以下のとおりである。

発掘調査期間	平成22年10月4日～同年10月29日
	平成23年8月9日～同年10月7日
整理・報告書作成期間	平成23年4月1日～平成24年3月31日（平成22年度調査分）
	平成24年4月1日～平成25年3月31日（平成23年度調査分）
- 5 本書は青森県埋蔵文化財調査センターが編集し、青森県教育委員会が作成した。執筆及び編集は、中嶋友文副参事、大平哲世文化財保護主査、荒谷伸郎文化財保護主事、成田滋彦文化財保護主幹が担当した。執筆分担は、第1章第1節を中嶋、第1章第2・3節と第2章を大平・成田、第3・5章を荒谷が担当し、編集は荒谷がおこなった。なお、依頼原稿については、文頭に執筆者名を記した。
- 6 発掘調査から整理・報告書作成にあたり、以下の業務については委託により実施した。

幅杭設置及び水準測量	株式会社常磐測量設計
空中写真撮影	株式会社シン技術コンサル
モザイク写真作成	株式会社シン技術コンサル
縄文土器の実測	株式会社アルカ
剥片石器の実測	株式会社アルカ
遺物の写真撮影	シルバーフォト、フォトショップいなみ
樹種同定	株式会社パレオ・ラボ
- 7 石質鑑定は調査員の山口義伸氏に依頼しておこなった。
- 8 本書は、発掘調査成果の正式報告として刊行するものである。発掘調査及び整理・報告書作成における出土品、実測図、写真等は、現在、青森県埋蔵文化財調査センターが保管している。
- 9 発掘調査成果の一部は、現地見学会、発掘調査報告会等において公表しているが、これらと本書の内容が異なる場合は、正式報告として刊行する本書がこれらに優先する。
- 10 本書に掲載した遺跡位置図等は、国土地理院発行の1/25,000地形図と1/50,000地形図を複写して使用した。
- 11 測量原点の座標値は、世界測地系に基づく平面直角座標第X系による。
- 12 挿図中の方位は、世界測地系の座標北を示している。

- 13 遺構図面の縮尺は原則 1/60とし、炉の拡大図を1/30とした。
- 14 遺構図面の各図には 4 mグリッド交点杭と杭名を記載したが、図上に 4 mグリッド交点杭が掲載されない場合には近隣の 4 mグリッド交点杭から任意に計測した点を掲載した。(図例：『H-22から 北に 2 m東に 1 m』→H-22グリッド交点杭から、北に 2 m、東に 1 mの点であることを示す)
- 15 遺構図面の土層断面図等には、水準点を基にした海拔標高を付した。
- 16 遺跡の基本土層の層順にはローマ数字、遺構の層順には算用数字を使用した。
- 17 土層の色調表記等には、『新版標準土色帖 2004・2005年度版』(小山正忠・竹原秀雄編 農林水産省農林水産技術会議事務局監修)を使用した。
- 18 遺構については、種別を示す略号を用い、検出順にそれぞれ通し番号を付した。略号は以下のとおりである。

S I - 竪穴住居跡、S B - 掘立柱建物跡、S K - 土坑、S N - 焼土遺構、S V - 溝状土坑

- 19 遺構図面に使用した網掛けの指示は以下のとおりである。これ以外は個別に説明を付した。



焼土

- 20 遺物実測図に使用した網掛けの指示は以下のとおりである。



磨り範囲

- 21 整理時に遺構名を変更したもの及び欠番としたものは、観察表の項で示した。
- 22 遺物に使用した略号には、「P - 土器」、「S - 石器・自然礫」がある。
- 23 遺物実測図の縮尺は、原則として土器・礫石器は 1/3、小形の土器・剥片石器は 1/2 としたが、大形の土器や石器については 1/4 もしくは 1/5 とし、各図にはスケールと縮尺率を置いた。
- 24 遺物写真は縮尺不同で、個々の番号は遺物実測図の番号と一致する。
- 25 遺物観察表には、出土地点・法量・諸特徴等を記載した。計測値の内、残存値については ()、推定値については < > 表記とした。
- 26 引用文献は巻末に収めたが、依頼原稿については文末に付した。
- 27 発掘調査および整理・報告書作成に際して、下記の方々と機関からご協力・ご指導を得た。
大鰐町教育委員会、丸山 浩治 (順不同・敬称略)

目 次

序
例言
目次

第1章 調査の概要	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の方法	1
1 発掘作業の方法	1
2 整理作業の方法	2
第3節 調査の経過	3
1 発掘作業の経過	3
2 整理作業の経過	4
第2章 遺跡の環境	6
第1節 遺跡の位置と周辺の遺跡	6
第2節 遺跡周辺の地形及び地質について	8
第3節 基本層序	11
第3章 検出遺構と出土遺物	12
第1節 概要	12
第2節 遺構	12
1 盛土遺構	12
2 竪穴住居跡	14
3 掘立柱建物跡	22
4 土坑	23
5 焼土遺構	24
6 溝状土坑	24
7 ピット	25
第3節 遺構外出土遺物	25
1 土器	25
2 土製品	27
3 石器	27
4 石製品	29
第4章 自然科学分析	66
第1節 樹種同定	66
第5章 まとめ	69
引用・参考文献	70
遺構計測表	71
遺物観察表	73
写真図版	81
報告書抄録	

挿図目次

図1	遺跡周辺の地形	6	図22	土器・土製品(5)	46
図2	遺跡の位置と周辺の縄文時代遺跡	7	図23	土器・土製品(6)	47
図3	遺跡周辺の地質図	10	図24	土器・土製品(7)	48
図4	基本層序	11	図25	土器・土製品(8)	49
図5	遺構配置図	13	図26	土器・土製品(9)	50
図6	竪穴住居跡(1)	30	図27	土器・土製品(10)	51
図7	竪穴住居跡(2)	31	図28	土器・土製品(11)	52
図8	竪穴住居跡(3)	32	図29	土器・土製品(12)	53
図9	竪穴住居跡(4)	33	図30	土器・土製品(13)	54
図10	竪穴住居跡(5)	34	図31	土器・土製品(14)	55
図11	竪穴住居跡(6)	35	図32	土器・土製品(15)	56
図12	竪穴住居跡(7)	36	図33	土器・土製品(16)	57
図13	竪穴住居跡(8)	37	図34	土器・土製品(17)	58
図14	掘立柱建物跡	38	図35	石器・石製品(1)	59
図15	土坑(1)	39	図36	石器・石製品(2)	60
図16	土坑(2)	40	図37	石器・石製品(3)	61
図17	焼土遺構/溝状土坑/ピット	41	図38	石器・石製品(4)	62
図18	土器・土製品(1)	42	図39	石器・石製品(5)	63
図19	土器・土製品(2)	43	図40	石器・石製品(6)	64
図20	土器・土製品(3)	44	図41	石器・石製品(7)	65
図21	土器・土製品(4)	45			

写真図版目次

写真1	第1号竪穴住居跡	81	写真14	第1号焼土遺構/第1号溝状土坑	
写真2	第2号竪穴住居跡	82		/盛土範囲	94
写真3	第3・9号竪穴住居跡		写真15	土器・土製品(1)	95
	/第23号土坑	83	写真16	土器・土製品(2)	96
写真4	第4号竪穴住居跡	84	写真17	土器・土製品(3)	97
写真5	第5・8号竪穴住居跡	85	写真18	土器・土製品(4)	98
写真6	第6号竪穴住居跡(1)	86	写真19	土器・土製品(5)	99
写真7	第6号竪穴住居跡(2)	87	写真20	土器・土製品(6)	100
写真8	第7号竪穴住居跡	88	写真21	土器・土製品(7)	101
写真9	第1号掘立柱建物跡/第3号土坑		写真22	土器・土製品(8)	102
	/第2号焼土遺構	89	写真23	土器・土製品(9)	103
写真10	土坑(1)	90	写真24	土器・土製品(10)	
写真11	土坑(2)	91		/石器・石製品(1)	104
写真12	土坑(3)	92	写真25	石器・石製品(2)	105
写真13	土坑(4)	93	写真26	石器・石製品(3)	106

第1章 調査の概要

第1節 調査に至る経緯

県営一般農道整備事業（駒木沢地区）に係る周知の埋蔵文化財包蔵地の取り扱いについては、農村整備課から青森県教育庁文化財保護課（以下「文化財保護課」）に平成19年度に照会があった。これを受け、同課が中南地域県民局とともに現地踏査をおこなった結果、駒木(1)遺跡は周知の埋蔵文化財包蔵地内の工事であるため試掘調査が必要とされた。また、駒木沢地区については、畑地で縄文土器片を確認したことから、杉浦地区を含め地形的に遺跡が連続する可能性のある区域の試掘調査が必要であると判断された。

平成21年8月に文化財保護課が試掘調査を実施した結果、駒木(1)遺跡と杉浦地区の発掘調査は不要となり、駒木沢(2)遺跡の発掘調査が必要とされた。

事業者側から土木工事等のための発掘に関する通知は、平成22年3月に提出され、当該区域の発掘調査が実施されることとなった。

第2節 調査の方法

1 発掘作業の方法

試掘調査で縄文時代の遺構・遺物が確認されていたことから、本調査では集落構造等の把握を目的に、遺構調査に重点をおいて調査にあたった。

〔測量基準点・水準点の設置とグリッドの設定〕 測量基準点と水準点については、業務委託により設置した基準杭を基に、調査区周辺に任意杭を増設して使用した。グリッドは公共座標値 $X = 58080.000$ 、 $Y = -17660.000$ を基準点（A-0）とし1辺4mで設定した。各グリッドは南から北にアルファベット、西から東に算用数字を付し、その組み合わせによる南西隅の杭名を用いて「H-14」や「K-28」のように表記した。

〔基本層序〕 基本層序は、任意の地点を深く掘り下げて確認し、上位から層順ごとにローマ数字を付けて呼称した。

〔表土等の調査〕 表土除去作業は、人力の他に重機を併用した。掘削土中から出土した遺物は、グリッド単位で取り上げた。

〔遺構の調査〕 検出遺構は、原則として確認順に種類別の番号を付けて精査した。堆積土層観察用のセクションベルトは、遺構の形態と大きさに応じて、基本的には4分割または2分割で設定したが、重複や付属施設等がある場合は適宜追加した。遺構内の堆積土層は算用数字を付して調査をおこなった。各遺構の堆積土層断面図は、主に簡易遣り方測量等で縮尺1/20・1/10の実測図を作成した。また、各遺構の平面図、遺構配置図・地形測量図は、(株)CUBIC製「遺構実測支援システム」を用いてトータルステーションによる測量で作成した。遺構内の出土遺物は基本的に遺構単位で層位ごと、または堆積土一括として取り上げたが、必要に応じて簡易遣り方等で出土遺物の形状実測図等やドット

マップ図を縮尺1/20・1/10で作成した。

〔遺物包含層の調査〕 上層から層位ごとに人力での掘削を基本としたが、遺物及び遺構に影響しない部分については表土除去作業から連続して重機を用いた。出土遺物は原則として、グリッド単位で層位ごとに取り上げたが、特異な遺物や復元可能土器については、簡易遣り方や「遺構実測支援システム」を適宜使用して図化した。

〔写真撮影〕 写真撮影には、原則として35mmモノクローム、35mmカラーリバーサルの各フィルムおよびデジタルカメラを併用し、発掘作業状況、土層の堆積状態、遺物の出土状態、遺構の精査状況・完掘後の全景について記録した。

2 整理作業の方法

2カ年の調査により、縄文時代の竪穴住居跡9棟、掘立柱建物跡1棟、土坑22基、焼土遺構2基、溝状土坑1基、ピット6基を検出した。遺物は段ボール箱で24箱分出土した。整理・報告書作成にあたっては、縄文時代集落の時期・構造等を解明するため、竪穴住居跡をはじめとする各遺構の構築時期と集落の変遷、遺物包含層の形成過程等の検討に重点をおいて作業を進めた。

〔図面類の整理〕 図面整理では、簡易遣り方測量や(株)CUBIC製「遺構実測支援システム」で作成した各遺構の平面図と堆積土層断面図、形状実測図等の調整をおこなった。また遺構一覧表を作成して、発掘調査時の所見等を整理したほか、(株)CUBIC製「遺構実測支援システム」を使用した図面の測量点等については、遺構ごとにエクセルファイル(.xlsx形式及び.csv形式)でHDD及びDVD-Rに保存した。

〔写真類の整理〕 35mmモノクロームフィルムは撮影順にネガアルバムに整理収納し、35mmカラーリバーサルフィルムは発掘作業状況や遺構ごとに整理して、スライドファイルに収納した。デジタルカメラのデータも、遺構ごとのフォルダに整理してタイトルを付け、HDD及びDVD-Rに保存した。

〔遺物の洗浄・注記と接合・復元〕 遺構内出土遺物を優先して洗浄し、次いで遺構外出土遺物を洗浄した。遺物の注記は、遺物取り上げ時の遺物カードをもとに、調査年度、遺跡名、出土区、遺構名、層位、取り上げ番号を略記したが、土器細片や剥片石器等直接注記できない遺物は、収納袋に注記した。接合・復元にあたっては、同一個体の出土地点・出土層名等の整理を怠らないようにした。

〔報告書掲載遺物の選別〕 遺構に伴って使用または廃棄された資料、遺構の構築および廃絶の時期を示す資料、遺存状態が良く時期・型式・器種が分かる代表的な資料のほか、希少な資料や特異で不明点のある資料を選別した。

〔遺物の観察・図化〕 図化にあたっては、個々の遺物を目視およびルーペで観察し、特徴を適切に分かりやすく表現するように努めた。掲載用に選別した遺物については、観察表を作成した。

〔遺物の写真撮影〕 実測図では表現しづらい、質感・雰囲気・製作技法・文様表現等を伝えられるように留意して、土器はシルバーフォト、石器はフォトショップいなみに委託して撮影した。

〔自然科学分析〕 炭化材の樹種同定を(株)パレオ・ラボに委託しておこなった。また、石器の石質鑑定は、調査員の山口義伸氏に依頼しておこなった。

〔遺構と遺物のトレース・版下作成〕 実測図のトレースは、(株)CUBIC製「遺構実測支援システム」と同「トレースくん」を用いてデジタルトレースを行い、版下は、Adobe社製 CreativeSuite2,3,4

を用いて作成した。写真図版についても、デジタルデータを主として用いて作成した。

〔遺構の検討・分類・整理〕 遺構ごとに種類と構造的特徴に分け、出土遺物の種類と数量、重複関係等に関するデータと調査時の所見を整理して、構築時期や同時性・性格等について検討を加えた。

〔遺物の検討・分類・整理〕 土器類・石器類・土製品・石製品に分け、これらを時期・種類ごとに整理して、出土遺物全体の分類と器種構成や個体数等について検討した。

〔調査成果の検討〕 遺構と遺物の検討結果を踏まえて、遺跡の時期・種別・構造・変遷・特徴等について検討整理した。

第3節 調査の経過

1 発掘作業の経過

平成22年度の調査は期間が短かったこともあり、遺構確認と一部遺構の精査に留めた。竪穴住居跡の調査を含む本格的な遺構精査は、翌平成23年度におこなった。

発掘調査体制は、以下のとおりである。

(平成22年度)

調査主体 青森県埋蔵文化財調査センター

所長	新岡 嗣浩 (平成24年3月退職)
次長	畠山 昇 (平成23年3月退職、現文化財保護主幹)
総務GM	木村 繁博 (平成24年3月退職)
調査第一GM	成田 滋彦 (平成24年3月退職、現文化財保護主幹)
文化財保護主査	鈴木 和子 (発掘調査担当者、現文化財保護主幹)
文化財保護主査	佐藤 智生 (発掘調査担当者、現青森県環境生活部 県民生活文化課)
調査補助員	阿保 るみ (平成22年12月退職)
	金子 正伸 (平成23年3月退職)
	岡本 裕平

(平成23年度)

調査主体 青森県埋蔵文化財調査センター

所長	松田 守正 (平成24年3月退職)
次長	成田 滋彦 (平成24年3月退職、現文化財保護主幹)
総務GM	木村 繁博 (平成24年3月退職)
調査第二GM	川口 潤
文化財保護主査	神 昌樹 (発掘調査担当者、現教育庁文化財保護課)
文化財保護主事	荒谷 伸郎 (発掘調査担当者)
調査補助員	最上 泰代 (平成24年3月退職)
	對馬 綾子 箕輪 匠太
	三上祐賀子 (平成24年3月退職)

専門的事項に関する指導・助言（平成22・23年度）

調査指導員 村越 潔 国立大学法人弘前大学名誉教授・故人（考古学）
調査員 関根 達人 国立大学法人弘前大学人文学部教授（考古学）
山口 義伸 青森県立浪岡高等学校教諭（地質学）（現第四紀学会会員）

発掘作業の経過は、以下のとおりである。

（平成22年度）

- 10月5日 発掘器材等を調査事務所、器材庫に搬入し、調査を開始した。
- 10月上旬 表土除去を開始した。
- 10月下旬 縄文時代の遺構を検出し、一部を精査した。
- 10月23日 調査器材・出土遺物・調査記録類を搬出して調査を終了した。

（平成23年度）

- 8月9日 発掘器材等を調査事務所、器材庫に搬入し、調査を開始した。
- 8月上旬 表土除去を開始した。
- 8月中旬 縄文時代の遺構を検出し、これと平行して一部の精査を開始する。
- 8月下旬 作業の主体を遺構精査に移す。
- 9月1日 一度目の空中写真撮影を委託し、実施した。
- 9月26日 大鱗町立蔵館小学校5・6年生（児童22名、教員4名）が調査を見学する。
- 10月1日 現地見学会をおこなう（参加者80名）。
- 10月4日 山口調査員が来跡し、指導・助言をおこなう。
- 10月5日 関根調査員が来跡し、指導・助言をおこなう。
- 10月6日 二度目の空中写真撮影を委託し、実施した。
- 10月7日 調査器材・出土遺物・調査記録類を搬出して調査を終了した。

2 整理作業の経過

平成23年度は主に図面整理、写真整理等をおこなった。平成24年度は、図面整理、写真整理、遺物実測等を経て、報告書の編集作業をおこなった。

整理体制は、以下のとおりである。

（平成23年度）

整理主体 青森県埋蔵文化財調査センター

調査第一GM	中嶋 友文
文化財保護主査	鈴木 和子（報告書作成担当者、現文化財保護主幹）
文化財保護主査	佐藤 智生（報告書作成担当者、現青森県環境生活部 県民生活文化課）
文化財保護主査	水谷 真由美（報告書作成担当者、平成24年3月退職）
調査補助員	今村 圭佑 工藤 将陽

(平成24年度)

整理主体 青森県埋蔵文化財調査センター

所 長	柿崎 隆司
次 長兼総務GM	高橋 雅人
調査第二GM	川口 潤
文化財保護主査	大平 哲世 (報告書作成担当者)
文化財保護主事	荒谷 伸郎 (報告書作成担当者)
文化財保護主幹	成田 滋彦 (報告書作成担当者)
調査補助員	對馬 綾子 箕輪 匠太
整理作業員等	福澤 理恵 山口 真由美

整理作業の経過は、以下のとおりである。

(平成23年度)

4月～ 図面整理、写真整理等をおこなう。

3月下旬 記録類・出土品を整理して平成23年度の整理作業を終了した。

(平成24年度)

4月～ 図面整理、写真整理、遺物実測等をおこなう。

6月下旬 縄文土器の実測を委託した。

6月下旬 剥片石器の実測を委託した。

6月下旬 樹種同定を委託した。

7月上旬 モザイク写真作成を委託した。

11月下旬 報告書掲載遺物の写真撮影を委託した。

12月上旬 報告書掲載遺物のトレースをおこなう。

1月上旬 遺構・遺物の図版を作成し、原稿を執筆した。

1月下旬 原稿・版下が揃ったので、報告書の割付・編集をおこない、印刷業者に入稿した。

3月27日 3回の校正を経て報告書を刊行し、記録類・出土品を整理して収納した。

第2章 遺跡の環境

第1節 遺跡の位置と周辺の遺跡

遺跡は大鰐町の中心部から東に約5km、平川市との市町境界にある阿蘇ヶ岳（標高494m）の南斜面、標高180～190mの丘陵端部に位置する。遺跡の南側には駒木沢が西に向かって流れており、遺跡との比高差は約20～30mである(図1)。周辺一帯は現在、主に畑として利用されており、遺跡の周囲はリンゴ畑に囲まれている。

駒木沢沿いの縄文時代遺跡には、駒木沢遺跡、駒木平遺跡（前期）、駒木(1)遺跡（後期）がある。また、駒木沢の対岸、前田ノ沢地区には前田ノ沢(1)・(2)・(3)・(4)遺跡（後期）、前田ノ沢(5)遺跡（後・晩期）がある。

周辺での縄文時代集落の調査例は、数は限られているものの、前期初頭の竪穴住居跡2軒を確認した砂沢平遺跡があり、前期の岩偶が7点出土したことで知られる大平遺跡でも、大形住居跡を伴う集落が調査されている。

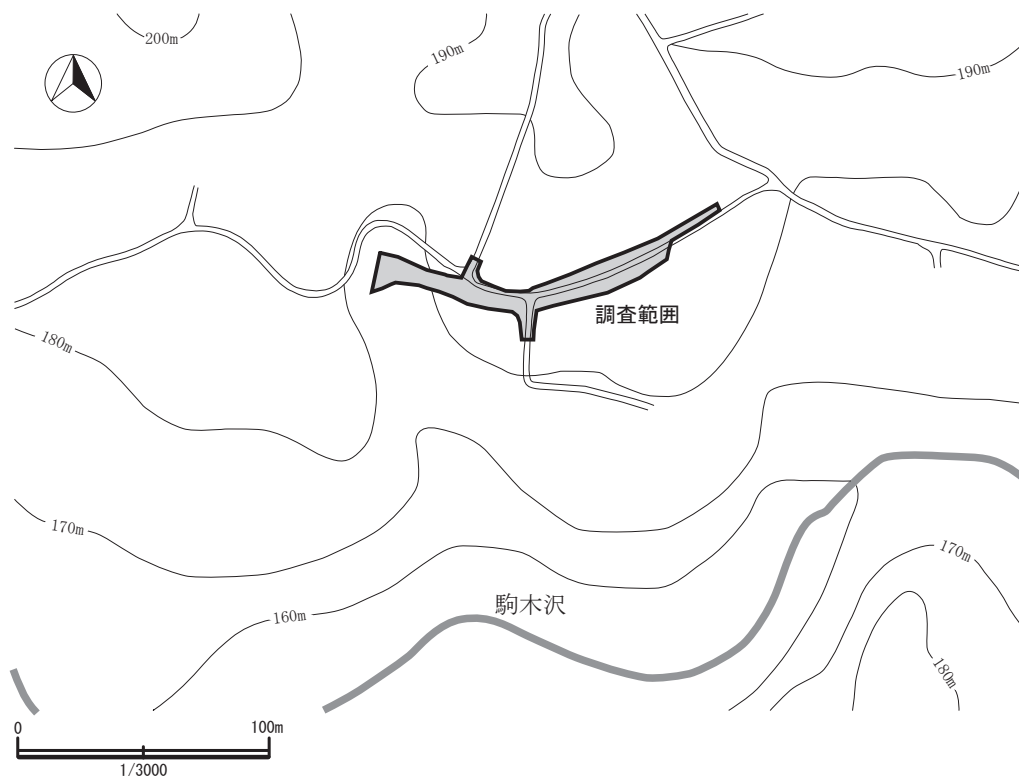
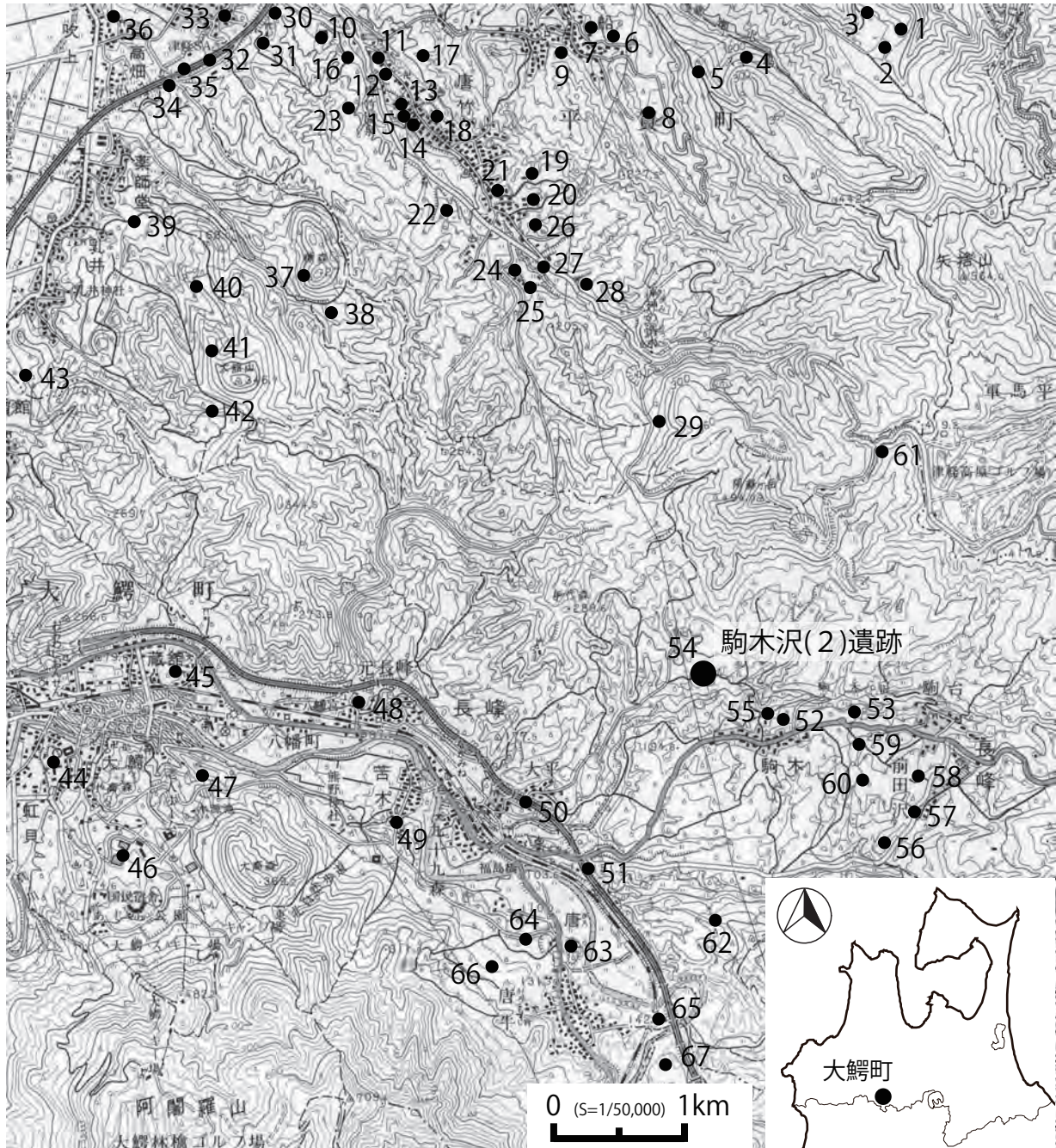


図1 遺跡周辺の地形



番号	遺跡番号	遺跡名	時代	種別	番号	遺跡番号	遺跡名	時代	種別	番号	遺跡番号	遺跡名	時代	種別
1	210065	福崎平(1)遺跡	縄文(中)	散布地	24	210031	井沢(1)遺跡	縄文(前・中・後・晩),弥生,平安	散布地	47	362043	蜂ヶ峰遺跡	縄文	散布地
2	210066	福崎平(2)遺跡	縄文,平安	散布地	25	210145	井沢(2)遺跡	縄文(前・後・晩)	散布地	48	362016	元長峰遺跡	縄文(中・後),平安,中世	散布地
3	210067	福崎平(3)遺跡	縄文(中)	集落跡	26	210030	唐竹神社遺跡	縄文(後),平安	散布地	49	362030	野尻館遺跡	縄文,平安	散布地
4	210196	嘉瀬沢(3)遺跡	縄文(後)	散布地	27	210032	小金森遺跡	縄文(後)	散布地	50	362018	大平遺跡	縄文(前・中),平安	集落跡
5	210195	志賀坊遺跡	縄文,平安,中世	散布地	28	210034	葉師沢(2)遺跡	縄文(後)	集落跡	51	362019	砂沢平遺跡	縄文,平安,中世	集落跡,城館跡
6	210048	広船(1)遺跡	縄文(中・後)	集落跡	29	210035	阿蘇(1)遺跡	縄文(後),平安	集落跡	52	362020	駒木(1)遺跡	縄文(後),平安	散布地
7	210049	広船(2)遺跡	縄文(後)	散布地	30	210113	院坂遺跡	縄文(後),平安	散布地,集落跡	53	362042	駒木沢遺跡	縄文	散布地
8	210050	広船(3)遺跡	縄文(中・後)	散布地	31	210112	沖館神社遺跡	縄文(中・晩)	散布地	54	362045	駒木沢(2)遺跡	縄文(後)	散布地
9	210200	広船(5)遺跡	縄文(前・中・後)	散布地	32	210111	鳥海山遺跡	縄文(早・前・中・後・晩),弥生,平安	城館跡,集落跡	55	362044	駒木平遺跡	縄文(前)	散布地
10	210022	唐竹遺跡	縄文(後・晩)	散布地	33	210107	沖館城跡	縄文(後),平安	城館跡	56	362037	前田ノ沢(1)遺跡	縄文(後)	散布地
11	210023	堀合(1)遺跡	縄文(前・中・後・晩),平安	散布地	34	210108	沖館(1)遺跡	縄文(後)	集落跡	57	362038	前田ノ沢(2)遺跡	縄文(後)	散布地
12	210024	堀合(2)遺跡	縄文(前・中・後・晩),平安	散布地	35	210109	沖館(2)遺跡	縄文(後・晩)	散布地,集落跡	58	362039	前田ノ沢(3)遺跡	縄文(後)	散布地
13	210025	堀合(3)遺跡	縄文(後),平安	集落跡	36	210172	高畑城(2)遺跡	縄文(後),平安,中世,近世	城館跡	59	362040	前田ノ沢(4)遺跡	縄文	散布地
14	210026	堀合(4)遺跡	縄文(前・中・後・晩),平安	散布地	37	202047	糠森遺跡	縄文	散布地	60	362041	前田ノ沢(5)遺跡	縄文(後・晩)	散布地
15	210143	堀合(5)遺跡	縄文(前・中・後・晩),平安	散布地	38	202309	南熊沢遺跡	縄文	散布地	61	362036	阿曾遺跡	縄文(前・後)	散布地
16	210163	堀合(6)遺跡	縄文(前・中)	散布地	39	202310	狹館遺跡	縄文,平安	散布地	62	362022	富森遺跡	縄文(後),平安	散布地
17	210191	駒泊遺跡	縄文(前・中・後・晩),弥生,奈良,平安	集落跡	40	202053	天池遺跡	縄文(後)	散布地	63	362025	唐牛城(1)遺跡	縄文(後),平安	散布地
18	210027	葛原遺跡	縄文(後・晩),平安	散布地	41	202052	大館山遺跡	縄文(後),平安	散布地,城館跡	64	362026	唐牛城(2)遺跡	縄文(後)	散布地
19	210028	水上(1)遺跡	縄文(後・晩)	散布地	42	202311	乳井沢田遺跡	縄文	散布地	65	362028	唐牛城(4)遺跡	縄文(後),平安	散布地
20	210029	水上(2)遺跡	縄文(晩)	散布地	43	202051	八幡館(2)遺跡	縄文(後)	散布地	66	362029	坊屋敷遺跡	縄文(後),弥生,平安	散布地
21	210171	水上(3)遺跡	縄文(後)	散布地	44	362011	羽黒館遺跡	縄文(前・後)	散布地,城館跡	67	210209	程森遺跡	縄文(後・晩)	散布地
22	210167	高田(1)遺跡	縄文(早・中・後・晩),弥生,平安	集落跡	45	362014	古館遺跡	縄文(前・後),平安,中世	散布地					
23	210170	高田(4)遺跡	縄文(後・晩),平安,中世	集落跡	46	362034	上牡丹遺跡	縄文(中・後・晩),平安	集落跡					

図2 遺跡の位置と周辺の縄文時代遺跡

第2節 遺跡周辺の地形及び地質について

調査員 山口 義伸

駒木沢(2)遺跡は南津軽郡大鰐町大字長峰字駒木沢にあって、大鰐町中心街より東方約5kmの、西流する駒木沢流域沿いに立地している。

本遺跡の所在する大鰐町は奥羽脊梁山脈西縁の大鰐山地にあって、北には緩やかな平賀丘陵が隣接し、さらに北方には広大な津軽平野が展開している。奥羽山脈には田代平カルデラや十和田カルデラを含め、いくつかのカルデラが存在することは知られており、この大鰐山地内にもLandsat画像の判読から地形的なカルデラ壁が認められ、盆状地形を成している。大鰐町から平川市碓ヶ関にかけて分布する、この盆状地形を碓ヶ関カルデラと呼称され(村岡・長谷, 1990)、その大きさは東西約12km、南北約8kmの楕円形をなしている。カルデラ中央部には後カルデラ丘である阿闍羅山(標高709m)が存在し、北側には溶岩ドームである大高森(369m)が隣接している。カルデラ内を流れる主要河川として平川及び虹貝川があげられるが、阿闍羅山火山体を取り囲むように発達している。なお、碓ヶ関カルデラの北東方には沖浦カルデラが存在し、カルデラ壁の内側を浅瀬石川が流れている。

村岡・長谷(1990)によると、大鰐地域には下位から順に、新第三紀中新世の板留層、温湯層、鮮新世の尾開山凝灰岩、三ツ森安山岩、碓ヶ関カルデラ期の虹貝凝灰岩・碓ヶ関層と阿闍羅山安山岩、そして第四紀更新世の沖浦カルデラ期の青荷凝灰岩、八甲田第2期火砕流堆積物(デイサイト質軽石凝灰岩)、十和田大不動火砕流堆積物・十和田八戸火砕流堆積物(デイサイト質軽石凝灰岩)などが堆積している(図3)。

本地域の基盤岩は新第三紀中新世の板留層及び温湯層であって、板留層は硬質頁岩、デイサイト質軽石凝灰岩が主体であり、上位の温湯層は頁岩・シルト岩などが主体となっている。鮮新世になって、約350万年前には尾開山を形成する火山活動が発生し、尾開山凝灰岩として成層した流紋岩質凝灰岩や陸成の溶結凝灰岩が堆積している。また、約300万年前には普通輝石安山岩を噴出する火山活動が活発化し、三ツ森安山岩として碓ヶ関カルデラ周縁の阿蘇ヶ岳(494m)、矢捨山(564m)などの独立峰を形成している。

約200～150万年前には碓ヶ関カルデラを形成する火砕流堆積物が放出され、虹貝凝灰岩として確認されている。その後、カルデラ湖にはシルト岩、砂岩などを主体とする碓ヶ関層が堆積する。層厚は約120mもあり、層理面には炭化木や樹木の葉片が挟まれること多く、また植物化石としてCarpinus sp., Metasequia sp. などが報告されている。そして碓ヶ関層の堆積中に、後カルデラ丘としての阿闍羅山安山岩が貫入及び流出し、側火山である大高森も形成される。

第四紀更新世に入り、碓ヶ関カルデラ北東方において沖浦カルデラが形成され、その発生時期は約160～90万年前と推定される。このとき放出された青荷凝灰岩は、沖浦カルデラ内では塊状のデイサイト質軽石凝灰岩であって水底火砕流堆積相を示すが、カルデラ外に流出した青荷凝灰岩に関しては砂質凝灰岩中に軽石凝灰岩の団塊が多量に混入し、乱流堆積相を示している。その後、田代平カルデラに由来する八甲田第2期火砕流堆積物(約40万前)、十和田カルデラに由来する十和田大不動火砕流堆積物(約3.2万年前)と十和田八戸火砕流堆積物(約1.2万年前)が碓ヶ関カルデラ内に流入してくる。

次に、遺跡周辺の地形・地質について述べることとする。

本遺跡の調査区域は平川との合流点から駒木沢上流の約2.5km地点の開析された火砕流堆積面上にあって、この谷地形に臨む標高180～190mの急傾斜面に立地している。流域に分布する地層として、カルデラ内に堆積した碓ヶ関層と、これを不整合に覆う沖浦カルデラ起源の青荷凝灰岩が認められ、この地域の基盤をなしている。さらに、約3.2万年前の十和田大不動火砕流堆積物が南東方から流下してカルデラ内を埋積している。その後、駒木沢及び枝流によって大きく浸食され、平頂な丘陵ではあるが、やや起伏に富む地形となっている。なお、北方約1.5kmには安山岩質溶岩からなる阿蘇ヶ岳(標高494m)が位置しており、本遺跡に向かって緩やかな裾野が展開するような地形となっている。

本調査区域内の東西両端には駒木沢の枝流が発達し、このため全体的に南側へのやや急傾斜地となっている。また調査区域内がりんご園地であって、基本層序からみて少なくとも2度にわたる削平工事が行われている。

ここで、調査区域内の基本層序について、図4に図示した基本層序①及びI-19グリッドでの観察をもとに各層の層相を記述する。基本的には、傾斜地である園地を削平していることから基本層序が欠如することが多く、耕作土(I層)直下にIV層が位置している。

I a層 褐灰色土(10YR5/1) 耕作土で、園地造成による盛り土からなる。第IV層以下の各層がブロック状に混入している。このため固さはあるが、締まりに欠け全体的に脆い。

I b層 黒色土(10YR1.7/1) I a層(盛り土)形成前の耕作土である。固さはあるが締まりに欠ける。全体的に粘性・湿性が多少認められる。なお園地造成により、下位層とはシャープな面で接している。

間層 黒褐色土(10YR2/3) 粘性・湿性があり、I b層よりもソフトな感じがある。全体的に表層水の影響を受けてやや粘土質であったり砂礫質であったり、またローム粒や軽石粒を多少混入したりしている。なお、苫小牧火山灰B-Tmや十和田a降下火山灰To-aが風倒木痕及び地形的な凹地内にレンズ状に挟在している。

II層 黒褐色土(10YR2/2) 凹地内では粘性・湿性のある腐植質土である。軽石粒、焼土粒、炭化粒がかなり多く包含されている。凹地以外では下位層が粒子状やブロック状に多量に混入して、色調の明るい暗褐色を呈する。本層は縄文時代の遺物包含層である。

III層 暗褐色土(10YR3/3) 漸移層である。粘性・湿性が多少あり、締まりに欠けややソフトな感じがする。本層はローム粒や軽石粒の混入状況により2層に細分される。上位のIII a層は粒子状の混入が目立ち、下位のIII b層はブロック状の混入が目立ち色調の明るい暗黄褐色を呈している。本層は縄文時代の遺物包含層である。

IV a層 黄褐色土(10YR5/8) 緻密堅固な軽石質火山灰で、千曳浮石(東北地方第四紀研究グループ、1969)、碓ヶ関浮石(山口、1993)に相当する。工藤(2005)によれば、本軽石火山灰は十和田-八戸火砕流堆積物の係る降下相の八戸軽石に相当する。黄色軽石片(径5～30mm大)を多量に含み、また本質岩片(径2～5mm大)や異質礫(径5～20mm大)を少量含んでいる。

IV b層 黄褐色土(10YR5/1) IV a層と同質の、ラピリ質軽石である。なお本層下半部には、陸水の影響を受けた水成堆積物が認められる。厚さ20～40cmの黄褐色～黄灰色を呈するシルト質砂で、軽石粒の粘土化が進み、またくされ礫(径2～5cm大)も含まれている。

V層 明黄褐色土(10YR6/8) 固く締まったローム質粘土で、下半部は酸化の染みにより黄橙色を

呈している。本層最上部は酸化帯となっており、上位の第V b層とはシャープな面で接している。なお本層下位には、第VI層としてにぶい黄褐色軽石質砂が堆積している。第6号竪穴住居跡で確認したところでは、白色軽石粒(径5~10mm大)や本質礫・異質礫(径10~30mm大)を多量に含み、また炭化粒も多く含まれている。これらの層相から、碓ヶ関カルデラ内を埋積した十和田一大不動火砕流堆積物と考えられる。

引用・参考文献

東北地方第四紀研究グループ(1969)東北地方における第四紀海水準変化, 日本の第四系, 地団研専報No. 15
 青森県教育委員会(1988)鶴ヶ鼻遺跡, 青森県埋蔵文化財調査報告書No. 122.
 村岡洋文・長谷紘和(1990)地域地質研究報告(5万分の1地質図幅), 黒石地域の地質, 地質調査所
 山口義伸(1993)平川流域の十和田火山起源の浮石流凝灰岩について, 年報市史ひろさきNo. 2, 弘前市.
 大鰐町教育委員会(2003)砂沢平遺跡, 大鰐町文化財調査報告書No. 4.
 工藤 崇(2005)地域地質研究報告(5万分の1地質図幅), 十和田地域の地質, 独立行政法人産業技術総合研究所地質調査総合センター.

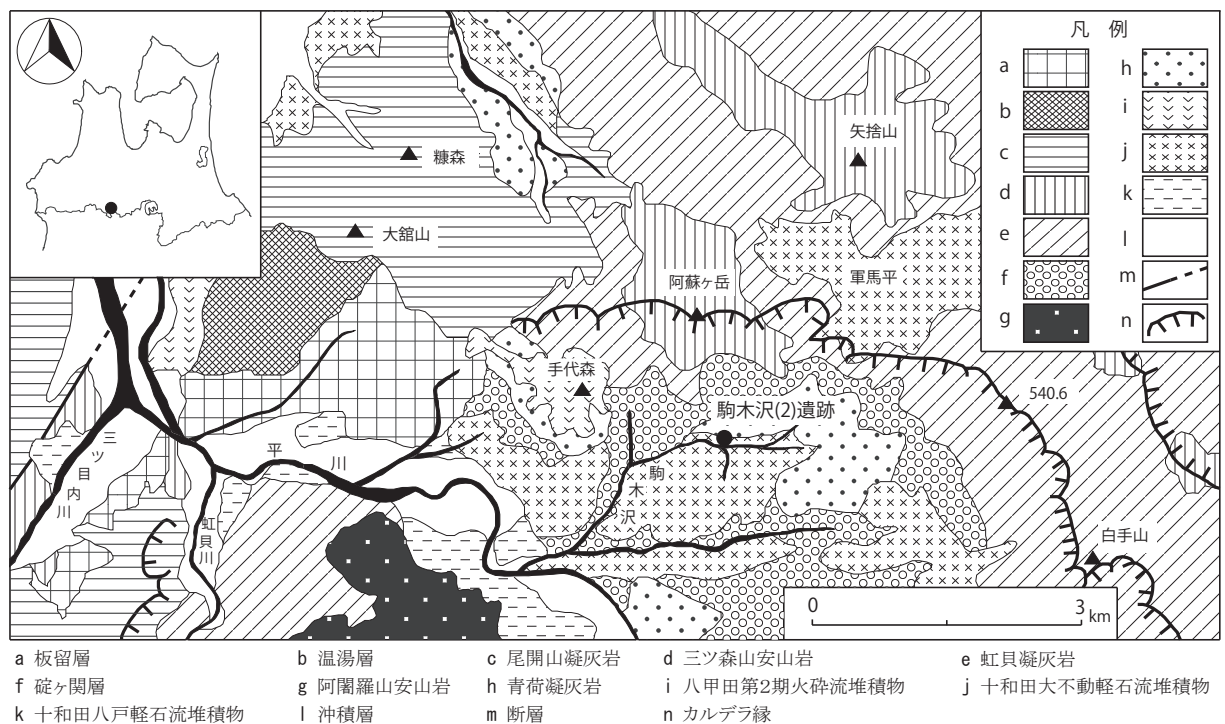


図3 遺跡周辺の地質図(村岡・長谷、1990の簡略化)

第3節 基本層序

基本層序については2カ所を図示し、位置は図5中に示した。各層の層相についての記載は前節に示した。ここでは調査における各層の位置付けと年代観について整理しておく。

基本層序はⅠ～Ⅴ層に区分した。堆積状況は調査範囲内で大きな違いは認められなかったが、畑地の造成等に伴い、表土であるⅠ層の直下がⅢ、Ⅳ層となる地点がある。

Ⅰ層は表土で、現代の耕作や造成により人為的な影響を受けた層である。内、Ⅰa層は客土、Ⅰb層は自然堆積土と理解された。なお、調査ではa、b層の細分は考慮していない。また、場所が限られるが、Ⅰ層とⅡ層の間に間層が形成されているところがある。間層の一部では、苫小牧火山灰層B-Tmと十和田a降下火山灰To-aの混入が認められ、堆積年代も火山灰降下以降でも比較的これに近いことが推定される。なお、降下火山灰は第3号竪穴住居跡を壊している風倒木(図8)、第7号竪穴住居跡の堆積土上位(図11)でも確認されている。

Ⅱ・Ⅲ層は縄文時代の遺物包含層である。Ⅱ層は黒褐色土、Ⅲ層はⅡ層とⅣ層との漸移層であり、分層は色調や混入物といった層相に基づいている。Ⅱ、Ⅲ層の細別時期であるが、出土遺物からはこれを明確にすることができなかつた。そのため、遺構の構築もⅢ層上面からと考えられるもの(第4号竪穴住居ほか)とⅡ層中と考えられるもの(第9号竪穴住居ほか)があるが、両者に確認層位の違いから時期差を与えることができなかつた。このような遺構構築層位の違いは、構築する場所のⅡ層の堆積状況に起因すると考えられる。つまり、斜面下で比較的傾斜の緩い第9号竪穴住居跡周辺には、遺構構築時にすでにⅡ層が厚く堆積していたために、遺構もⅡ層中に構築された。一方、斜面に構築された第4号竪穴住居跡周辺では、遺構構築時においてはⅡ層の堆積が弱く、結果、Ⅲ層上面から遺構が構築されたものと理解できる。

Ⅳ・Ⅴ層は地山である。黄褐色～明黄褐色のローム質土で、竪穴住居跡はここまで掘りこんで床面を構築するものが多い。

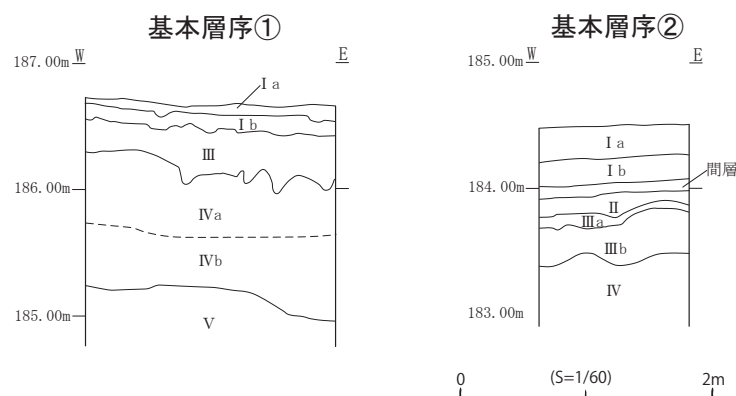


図4 基本層序

第3章 検出遺構と出土遺物

第1節 概要

遺物は段ボール箱で24箱出土した。時期は縄文時代のものに限られる。

土器は、前期・後期・晩期のものが出土している。このなかでも主体となって出土するのは、これまで主に十腰内Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ群とされていたものの内、関根達人氏によって「十腰内Ⅳ群段階」と後続する「馬場瀬段階」（関根2005）と位置付けられたものである。また、「十腰内2式」（鈴木2001）とされるものも定量出土している。

土製品は、スタンプ形土製品1点、円盤状土製品1点の計2点が出土した。

石器は剥片類、石核を除くと146点出土した。剥片石器が114点、礫石器が32点である。なお、遺構内からは76点、遺構外からは70点の出土であった。

石製品は、石棒1点、石刀1点、板状を呈するもの1点の計3点が出土した。

遺物の報告番号は、「土器と土製品」及び「石器と石製品」でそれぞれ通し番号を付した。また、第2節における【出土遺物】の項において、本報告書の土器分類（「Ⅲ群c類」など）を用いて記載した部分がある。この土器分類については、第3節に記載してある。

遺構は竪穴住居跡9棟、掘立柱建物跡1棟、土坑22基、焼土遺構2基、溝状土坑1基、ピット6基および人為的に盛土されたと考えられる範囲3カ所を確認した（図5）。時期を断定できるものは、いずれも主体となって土器が出土した「十腰内Ⅳ群段階」と「馬場瀬段階」のものである。遺構には整理作業時に検討した結果、欠番とした遺構及び種別を変更したものがある。これらは遺構計測表の項に表で示した。

第2節 遺構

1 盛土範囲

人為的に盛土されたと考えられる範囲を3カ所で確認した。それぞれ「盛土範囲1～3」の名称で、遺構として報告する（図5・拡大図）。

いずれも、Ⅱ層中に盛土したものと考えられる。盛土には黒色土に加え、黄色のⅣ層地山土がブロック状に混入しているため包含層中でも識別することができた。確認した平面形は不整形で、規模は盛土範囲1で約6.2×1.4m、盛土範囲2で約6.0×5.4m、盛土範囲3で約4.2×3.2mである。なお、平面では捉えられなかったが、盛土範囲1の南側は調査区外にまで及んでいた可能性がある。盛土の厚さは一定しないが、厚いところでは約20cmに及んでいた。遺物は、明確に盛土中から出土したとできるものは出土していない。盛土と遺構の新旧関係については明らかにできない部分も多いが、盛土範囲2・3については、盛土下で確認した第17・18号土坑、ピット12より新しい可能性が高い。盛土範囲1については、第24号土坑を覆い隠していたほか、前述のように南側に広がっていたと仮定すれば、第9号竪穴住居跡はこれを切って構築された可能性を土層断面図（図8、A-A'）から指摘できる。

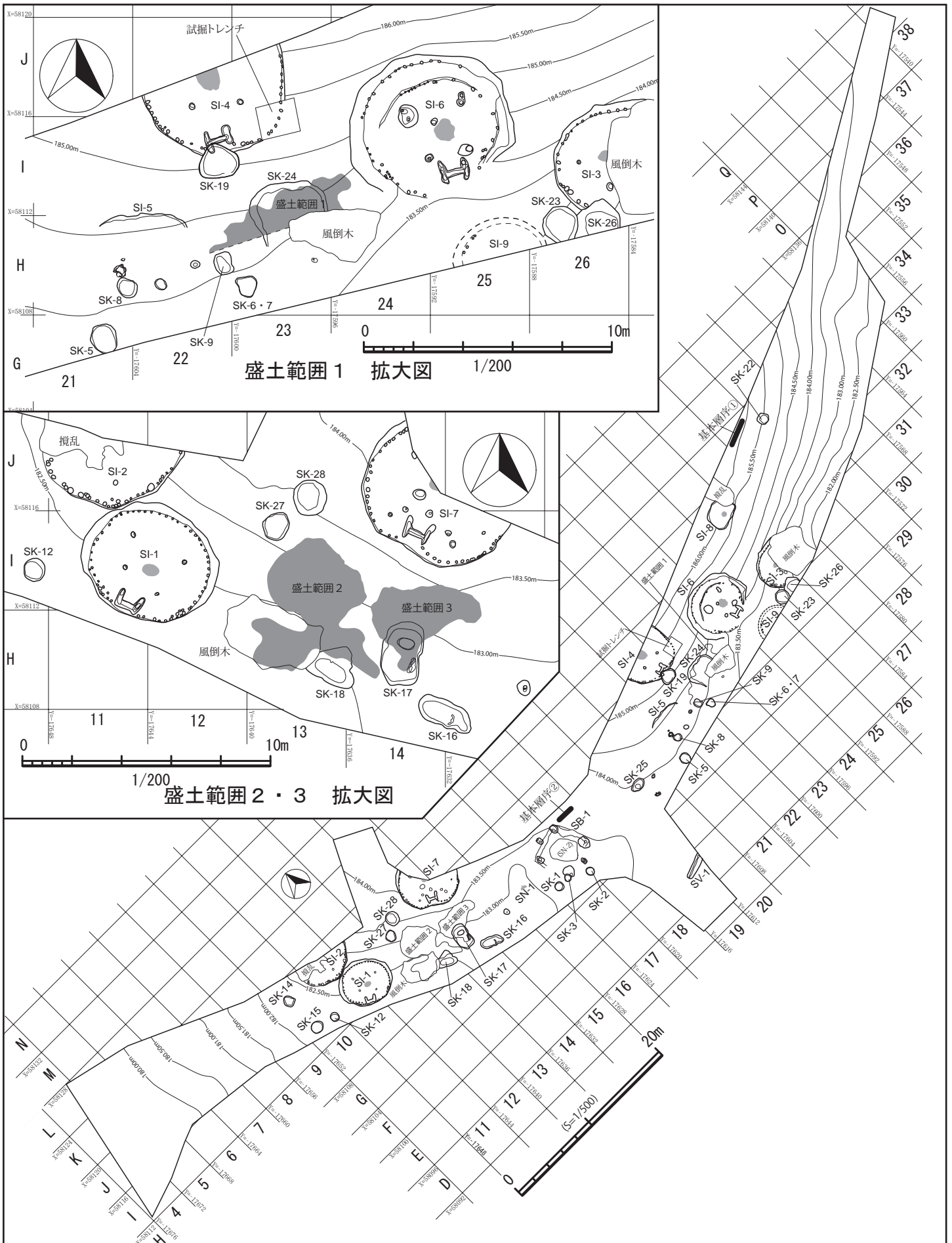


図5 遺構配置図

2 竪穴住居跡

第1号竪穴住居跡 (SI-1) (図6・7・18・19・35)

【位置・確認】H-11・12、I-11・12、J-11・12グリッドに位置する。IV層上面で確認したが、III層中から掘りこまれたものと考えられる。

【重複】重複として捉えられなかったが、北側に隣接して第2号竪穴住居跡が位置する。本来は新旧の重複関係にあったと考えられる。

【規模・形状】規模は、開口部で長軸5.56m、短軸4.74mを測り、平面形は楕円形である。

【堆積土】24層に分層した。堆積土は黒褐色～黄褐色土を主体とし、ロームブロックを混入する層も多い。各層の境は明瞭に捉えられるところが多く、混入物も比較的均質に混入している。このことから、各層単位では比較的短期間で堆積が想定され、人為堆積による可能性も高いと考えられる。

【壁・床】壁は、西壁では床面から40cmほどは垂直に立ち上がり、これより上部は角度を変え、やや開きながら開口部に至る部分がある。また土層断面図B-B'のように床面からハングしながら立ち上がる部分もある。一方、壁高の低い南東～南壁では、なだらかに立ち上がっている。床はIV層中にほぼ平坦に作られるが、南西側に向かってわずかに傾斜している。

【柱穴】支柱穴を4基(Pit1～4)、壁柱穴を61基確認した。支柱穴とした4基は深さが38.9～55.4cmで、台形状に配置されている。壁柱穴は深さが3.2～22.7cmで、出入口施設部分を除いて約10～30cm間隔で全周する。また、出入口施設を挟んで一部、2重に配置されている部分もある。

【炉】地床炉1基を確認した。掘方は伴わず、床面としたIV層をそのまま火床面としている。平面形は楕円形で、規模は長軸68cm、短軸46cmである。焼土は最も厚いところで約8cm形成されていた。また、炉の周囲では床面の硬化が顕著な範囲を確認できた。この範囲では、黒色土の混入がみられる(炉2層)。

【付帯施設】出入口施設を南西壁際で確認した。形態はH字状である。深さは、横棒部分に比べ、縦棒部分が段状に深く掘りこまれている。また、縦棒部分の底面は内側にやや傾いている。

【出土遺物】出土は床面からは少なく、3層及び5層のものが多いことから、堆積途中に意図的に廃棄された可能性がある。

土器は2564.1g出土した。1・2は注口で、II群c類の「十腰内IV群段階」のものである。1は台が付くもので、胴部下半は地縄文上に格子目状に沈線が施される。2は器壁の一部と貼瘤2カ所が剥落している。3の刻目は細かく、刺突に近い。8は鉢である。沈線が施されるが、整形と合わせて粗雑な印象を受ける。12は壺もしくは注口と考えられる。無文だが、器形からII群b類の可能性もある。また、器面にはわずかだが赤彩の痕跡が残る。13は晩期の土器で、埋没途中に混入したと考えられる。

石器・石製品は、石鏃2点、石錐1点、石匙1点、スクレイパー7点、二次加工剥片5点、微細剥離痕のある剥片1点、磨製石斧3点、石皿・台石類1点、石棒1点、剥片類310.4gが出土し、この内12点を図示した。1・2は石鏃で、無茎尖基鏃である。3は石錐である。全体が棒状で、つまみ部は作り出されない。4は石匙である。つまみ部に対して横長の身部をもつ。5～7はスクレイパーである。8～10は磨製石斧である。9は長さ32mmの小形のもので、石材には粘板岩を用いている。10は二次利用を意図してか、欠損部の縁辺に敲打痕が認められる。11は石皿・台石類である。4面で敲打に

よる凹みが形成されている。12は石棒である。棒状の粘板岩を敲打整形後、研磨したものと考えられる。頭部は明瞭に作り出され、ここに短軸と平行に約半周、幅1mmに満たない微細な線刻が施される。

【小結】「十腰内IV段階」とできる土器が堆積土中の下位から上位にかけて出土することから、同段階には埋没過程にあったといえる。よって、住居が構築、使用されたのも同じ「十腰内IV群段階」であった可能性が高い。

第2号竪穴住居跡 (SI-2) (図7・19・35・36)

【位置・確認】J-10~12グリッドに位置し、北半は調査区外に延びる。また、攪乱のため遺存状態も不良であった。IV層上面で確認したが、III層中から掘りこまれたものと考えられる。

【重複】重複として捉えられなかったが、南側に隣接して第1号竪穴住居跡が位置する。本来は新旧の重複関係にあったと考えられる。

【規模・形状】残存部でおよそ5.7m×3.1mの範囲を調査した。平面形は不明である。

【堆積土】2層に分層した。堆積土は暗褐色土を主体とし、遺存状態が不良のため断定できないが、自然堆積によるものと考えられる。

【壁・床】壁は、残存部分では緩やかに立ち上がる。床は、IV層中にほぼ平坦に作られる。

【柱穴】支柱穴は明確に捉えられなかったが、深さ41.1cmのPit1が相当するものと考えられる。壁柱穴は32基確認した。深さは4.0~29.3cmで、一部は間隔を置かずに構築されている。

【炉】地床炉と考えられる焼土を確認したが、攪乱によりわずかな痕跡を捉えるに留まり、全容は不明である。残存部の長軸は64cm、短軸は31cmである。

【付帯施設】残存部分には存在しない。

【出土遺物】土器は87.5g出土した。24は底径が3.6cmと小さく、ミニチュア土器の可能性はある。

石器は、スクレイパー1点、磨製石斧3点、敲磨石類1点、石皿・台石類1点、剥片類6.4gが出土し、この内6点を図示した。出土状況では、床面に置かれた石皿・台石類(18)の上に敲磨石類(17)が置かれた状態で出土した点が特筆される。13はスクレイパーである。14~16は磨製石斧である。14は1層と覆土上層から出土したものが接合した。刃部形状が左右でやや異なる。16は二次利用を意図してか、欠損部の縁辺に敲打痕が認められる。17は敲磨石類である。楕円形の礫の広範囲に顕著な磨り面が形成される。18は石皿・台石類である。使用部分以外に広く自然面を残している。

【小結】時期を断定できる遺物に乏しく、「十腰内IV群段階から馬場瀬段階」の住居としておく。

第3号竪穴住居跡 (SI-3) (図8・9・19・36)

【位置・確認】I-26、J-26・27グリッドに位置し、東半は風倒木により失われている。南側はIV層上面で確認したが、北側はIII層中から掘りこまれている。

【重複】南側で第26号土坑と重複し、本遺構が古い。

【規模・形状】残存部でおよそ4.7m×2.3mの範囲を調査した。全形を捉えることはできなかったが、平面形は楕円形となる可能性が高い。

【堆積土】11層に分層した。堆積土は黒褐色土を主体とするが、第9層のように壁崩落土と考えられる褐色ローム層を主体とする層もある。堆積は、自然堆積によるものと考えられる。

【壁・床】壁は、北壁では床面から70cmほどは垂直に立ち上がり、これより上部は角度を変え、やや開きながら開口部に至る。床は、IV層中にほぼ平坦に作られる。

【柱穴】支柱穴を2基（Pit1・2）、壁柱穴を21基確認した。支柱穴とした2基の深さはPit1が65.6cm、Pit2が36.6cmである。壁柱穴は深さが6.5～26.8cmで、約10～50cmの間隔で構築されている。

【炉】地床炉1基を確認したが、東半は風倒木により失われている。掘方は伴わず、床面としたIV層をそのまま火床面としている。残存部の長軸は44cm、短軸は37cmである。焼土は最も厚いところで約4cm形成されていた。

【付帯施設】残存部分には存在しない。

【出土遺物】土器は439.1g出土した。26は器面が丁寧に磨かれており、黒色となる。

石器は、石錐1点、スクレイパー4点、剥片類4.7gが出土し、この内4点を図示した。19は石錐である。整形されたつまみ部を持つものである。20～22はスクレイパーである。22は今回出土した石器の中で唯一、石材に黒曜石を用いるものである。

【小結】第9号竪穴住居跡より古い第26号土坑に切られている。時期は第9号竪穴住居跡と同じ「十腰内IV群段階」と考えられる。

また、本遺構と重複している風倒木の第2層で白頭山苦小牧火山灰、第3層で十和田a火山灰を確認した。このことから、風倒木が両火山灰の降灰以前のものであることがわかる。

第4号竪穴住居跡（SI-4）（図10・20・21・37）

【位置・確認】I-22・23、J-22・23グリッドに位置し、北半は調査区外に延びる。また、南東壁の一部が試掘トレンチにより失われている。IV層上面で確認したが、土層断面図A-A'では、東壁がIII層上面から掘りこまれていることがわかる。

【重複】南側で第19号土坑と重複し、本遺構が古い。

【規模・形状】残存部でおよそ5.9m×3.3mの範囲を調査した。平面形は不明である。

【堆積土】14層に分層した。堆積土は黒色土～暗褐色土を主体とするが、第6層のように壁崩落土と考えられる褐色ローム層を主体とする層もある。堆積は、自然堆積によるものと考えられる。

【壁・床】壁は、土層断面図A-A'の東壁では床面から70cmほどは垂直に立ち上がり、これより上部は角度を変え、やや開きながら開口部に至る。一方、壁高の低い南壁では、なだらかに立ち上がっている。床は、IV層中にほぼ平坦に作られる。

【柱穴】支柱穴を2基（Pit1～2）、壁柱穴を33基確認した。支柱穴とした2基の深さはPit1が49.6cm、Pit2が44.8cmである。壁柱穴は深さが4.3～18.6cmで、約10～40cmの間隔で構築されている。

【炉】地床炉1基を確認したが、北半は調査区外に延びる。掘方は伴わず、床面としたIV層をそのまま火床面としている。残存部の長軸は88cm、短軸は63cmである。焼土は最も厚いところで約14cm形成されていた。

【付帯施設】出入口施設を南壁際で確認した。形態はH字状である。深さは、縦棒部分に比べ、横棒部分が段状に深く掘りこまれている。

【出土遺物】土器は4061.5g出土した。出土状況では、床面に置かれた状態で出土した3点の土器（30～32）が特筆される。31は略完形の台付鉢で、30と32は壺もしくは注口の頸部を故意に打ち割つ

たとえられるものである。特に、30については割れ口を下にして床面に直立した状態で出土していることから、意図的に置かれた状態を保持したまま出土した可能性を指摘できる。30・32は壺もしくは注口の口縁部である。共に割れ口が水平である。31は台付鉢である。口縁端部が2カ所、打ち剥がされたように欠損するが、ここにも炭化物が付着している。33は壺もしくは注口と考えられる。沈線は太く、縄文は施されない。57は小片であるが、頂部を持つ断面形状から香炉形と考えた。62・63は底径が小さく、ミニチュア土器の底部の可能性もある。また、61は貼瘤が密に施され、いわゆる瘤付土器でも本遺跡から主体的に出土する「十腰内Ⅳ群段階」、「馬場瀬段階」より新しい段階のものである。本遺跡からの出土はこの1点のみであることから、埋没途中に混入したものと考えられる。

石器は、石鏃2点、石槍1点、石篋1点、スクレイパー4点、二次加工剥片1点、剥片類114.1gが出土し、この内5点を図示した。23・24は石鏃で、有茎鏃である。25は、基部が欠損するものの、全長が5cm以上のため便宜的に石鏃から分離して石槍と考えた。26は柄状の基部を作り出した石篋で、いわゆる「大石平型石篋」とされるものである。27はスクレイパーである。

【小結】床面から良好な状態で土器が出土しているものの、いずれも細別時期までは判断できなかった。そのため、「十腰内Ⅳ群段階から馬場瀬段階」の住居としておく。

第5号竪穴住居跡 (SI-5) (図9・21・37)

【位置・確認】H-21・22グリッドに位置する。Ⅲ層中で確認したが、壁は北側の一部でしか捉えることができなかった。

【重複】石囲炉が第8号土坑と重複し、本遺構が新しい。

【規模・形状】規模は、壁を一部でしか捉えることができなかったため明確にできないが、石囲炉を含む3.5m×3.1mの範囲を調査した。平面形は不明である。

【堆積土】黒褐色土による単層である。

【壁・床】壁は、残存する北半ではなだらかに立ち上がる。床はⅢ層中にほぼ平坦に作られるが、南側に向かってわずかに傾斜している。

【柱穴】深さ13.1cmの柱穴を1基確認した。

【炉】石囲炉1基を確認した。形態から炉と考えたが、ほかの住居の炉に比べて焼土の形成は弱く、炉であれば火床面となる炉1層でもほとんど認識できなかった。長軸78cm、短軸61cmの掘方に据えられた礫は6点で、平面形は不整形である。なお、礫についても被熱痕跡は確認できなかった。

【付帯施設】残存部分には存在しない。

【出土遺物】土器は445.4g出土した。64は第24号土坑の2層から出土した破片と接合したものである。深鉢で、残存率は高くないが、口縁部は大きく波状するものと考えられる。70は第6号竪穴住居跡の覆土から出土した破片と接合したものである。67はⅡ群c・d類とは異質で、晩期の可能性がある。

石器は、スクレイパー2点、剥片類47.8gが出土し、この内1点を図示した。28はスクレイパーである。急角度に調整された刃部を持つもので、いわゆる「搔器」とされるものである。

【小結】今回調査した竪穴住居跡の中では唯一石囲炉を有するものである。土器は「十腰内Ⅳ群段階から馬場瀬段階」のものが出土しているが、ほかの竪穴住居に比べて掘りこみが浅く、遺物の帰属に

は不確定要素が大きい。そのため時期は不明としておく。

第6号竪穴住居跡 (SI-6) (図12・13・21・22・37)

【位置・確認】I-24・25、J-24・25グリッドに位置する、いわゆる焼失住居である。Ⅲ層掘削中に黒色土の落ちこみとして確認した。しかし、覆土の上位はⅡ層とした黒色土に近似しており、確認当初は沢のような自然地形を想定して掘削を進めた。その後、炭化材を確認して遺構と認識を改めた。なお、南側では壁の立ち上がりを捉えることができなかった。掘りこみはⅢ層中からと考えられる。

【重複】調査の進展に伴い、拡張を伴う新旧2段階の住居と認識したが、床や炉、出入口施設など多くを共用しているため同一の遺構番号のまま、それぞれを「新段階」、「旧段階」として調査した。以下、調査順に新段階から記載する。

〈新段階〉

【規模・形状】規模は、開口部で長軸6.72m、短軸5.71mを測り、平面形は楕円形である。

【堆積土】35層に分層した。焼失に伴う炭化材は、第13層と第15層中から出土した。この2層に接する第12・17・18層でも、焼土と考えられる赤褐色土が多く含まれており、焼失に由来すると考えられる堆積土が床面を広く覆ったものと考えられる。

炭化材は、床面から5～20cmの高さで面的な広がりをつえられた。また、一部の壁柱穴上で比較的大きな炭化物が出土するところがあり、一部は焼失時に壁柱穴内に材が残っていた可能性もうかがえた。炭化材の形状は径10cm前後の柱状のものが多く、これらは住居の中央部に向かって倒れ込むような状態で出土した。このように、ある程度の焼失の様相は捉えられたが、個々の炭化材の遺存状態は不良で、柱、梁、垂木などの部材名までは特定できなかった。なお、炭化材の樹種同定では、カエデ属・エノキ属・ニレ属が用いられていたとの結果が得られた(第4章)。

焼失後の堆積は、自然堆積による比較的ゆっくりしたものであったと考えられる。また、焼失に先立っては、壁の崩落(第16層)が認められる。

【壁・床】壁は、北壁では床面から約150cmを急角度のまま立ち上がる。一方西壁では、床面から50cmほどまでは急角度で立ち上がるが、ここから角度を緩めてなだらかに立ち上がっている。床はⅣ層中にほぼ平坦に作られるほか、東側では壁際がテラス状に一段高くなっているところがある。また、一部では貼床が施される。貼床はPit1と3の間から北側、およそ2.7m×1.8mの範囲に10cm弱の厚さで、旧段階に属すると考えられる壁柱穴を隠すようにして施されている。貼床に用いられたのは、黒褐色～黄褐色土で、床と同じⅣ層土を多く混入させたものと考えられる。

【柱穴】新段階に伴う可能性のある支柱穴として5基(Pit1・3・5～7)を確認した。Pit1・3・5・6が台形状に配置され、このほぼ中央部に9.7cmと浅いPit7がある。深さは北辺の2基(Pit1は66.7cm、Pit3は35.2cm)に比べ、南辺の2基(Pit5は19.6cm、Pit6は22.5cm)はやや浅い。壁柱穴は新旧の合計で51基確認した内、25基を新段階に伴う可能性のあるものとした。深さは0.6～12.6cmで、出入口施設部分以外でも、確認できなかったところがあり、全周しない。

【炉】地床炉1基を確認した。掘方は伴わず、床面としたⅣ層をそのまま火床面としている。平面形は不整形で、規模は長軸92cm、短軸80cmである。焼土は最も厚いところで約10cm形成されていた。

【付帯施設】出入口施設を床面の南西際で確認した。形態はH字状で、新旧2段階のものが重なって

いると考えられるが、それぞれを分離して認識することはできなかった。

【出土遺物】土器は2162.9g出土した。層位別で取り上げた土器では、半数以上の1367.9gが1層からの出土であった。71は第3号竪穴住居跡の覆土から出土した破片と接合したものである。壺もしくは注口と考えられる。75はミニチュア土器で、注口部の先端が欠損している。作りは粗雑な印象を受ける。また、78も底径が小さく、ミニチュア土器と考えられる。79は注口部分で器面の一部が剥落している。80～83は晩期の土器で、埋没途中に混入したと考えられる。80～82は同一個体の可能性が高い。台付鉢で、雲形文が施されている。

石器は、二次加工剥片1点、磨製石斧1点、敲磨石類1点が出土し、この内2点を図示した。29は磨製石斧である。側縁に整形時の敲打痕を残す。30は敲磨石類である。

【小結】床面から出土した遺物はなく、堆積土中から出土した土器についても時期の細別ができなかった。そのため「十腰内IV群段階から馬場瀬段階」の住居としておく。

〈旧段階〉

【規模・形状】旧段階は、壁柱穴列とわずかに捉えられた壁の立ち上がりにより範囲を推定した。この推定範囲の規模は、長軸5.14m、短軸4.35mを測り、平面形は楕円形であったと考えられる。

【堆積土】旧段階に伴う堆積土は確認できなかった。

【壁・床】壁は、北側から東側にかけてわずかに床からの立ち上がり部分が残る。これにより、新段階で拡張した部分より一段低い床が認識できた。なお、新段階ではこの段差は東側ではテラス状として残ったまま、北側は貼床によって段差が解消された状態で使用されたと考えられる。

【柱穴】旧段階に伴う可能性のある支柱穴として5基（Pit2・4～7）を確認した。配置は新段階と同じ台形状で、南辺の2基（Pit5・6）は新段階と共用していたと考えられる。北辺の2基は新段階のものに隣接した、やや中央寄りに位置する。壁柱穴は30基を旧段階に伴う可能性のあるものとした。深さは0.6～24.3cmで、出入口施設部分と西側の一部では確認できなかった。

【炉】旧段階とできる炉は確認できなかった。そのため、拡張に際しても炉の位置は変えずに、そのまま使用を継続したものと考えられる。

【付帯施設】新旧2段階のものが重なっていると考えられるが、それぞれを分離して認識することはできなかった。

【出土遺物】旧段階に伴う遺物は出土していない。

【小結】旧段階の住居だが、拡張に際しても床や炉、出入口施設など多くを共用するなど、居住の連続性がうかがえる。時期も新段階と同じ「十腰内IV群段階から馬場瀬段階」としておく。

第7号竪穴住居跡（SI-7）（図11・23～25・37・38）

【位置・確認】I-14・15、J-14・15グリッドに位置し、北東半は調査区外に延びる。IV層上面で確認したが、III層中から掘りこまれたものと考えられる。

【重複】なし。

【規模・形状】残存部でおよそ6.1m×4.6mの範囲を調査した。全形を捉えることはできなかったが、平面形は楕円形となる可能性が高い。

【堆積土】16層に分層した。堆積土は黒褐色～褐色土を主体とし、ロームを混入する層も多い。混入

物も比較的均質に混入しており、確証を欠くものの人為堆積の可能性が高いと考えた。

【壁・床】壁は、南東壁では床面から30cmほどは垂直に立ち上がり、これより上部は角度を変え、開きながら開口部に至る。一方、壁高の低い南西壁では、なだらかに立ち上がっている。床はIV層中にほぼ平坦に作られるが、南壁近くではわずかに窪んでいる。

【柱穴】支柱穴を8基(Pit1~8)、壁柱穴を38基確認した。支柱穴とした8基は深さが6.8~44.2cmである。配置はPit1~3に調査区外にある1基を加えた4基で、第1号竪穴住居跡と同じ台形状となる組み合わせが想定される。壁柱穴は深さが3.7~21.6cmで、出入口施設部分を除いて約10~40cm間隔で構築されている。また、出入口施設部分では、壁際を離れ施設の南端に向かって湾曲して配置されている。

【炉】地床炉1基を確認したが、東半は調査区外に延びる。掘方は伴わず、床面としたIV層をそのまま火床面としている。残存部の長軸は55cm、短軸は19cmである。焼土は最も厚いところで約5cm形成されていた。

【付帯施設】出入口施設を南西壁際で確認した。形態はH字状である。深さは、横棒部分に比べ、縦棒部分が段状に深く掘りこまれている。

【出土遺物】出土状況では、床面から出土した土器4点(89~92)と人面が表現されたスタンプ形土製品1点(88)が特筆される。いずれも床面レベルで出土したものであるが、89と90については出入口施設上にあり、同施設が埋められてから置かれたものと考えられる。なお、残存率の高い土器3点(89~91)は、いずれも横倒しになった状態での出土であった。88は人面が表現されるスタンプ形土製品で、つまみ部の欠損側を床面に接した状態で出土した。人面はつまみ部に表現されている。高さは62mmで、つまみ部の一部を欠損するほか、分銅状の版部も一部器面が剥落している。人面は表裏両面に施されており、両面とも同様の表現で描出されている。顔の輪郭は横に長く、顎の周囲には刺突が並んでいるほか、頭部中央部はドーム状に盛り上がっており、ここにも刺突が施されている。鼻は眉毛とつながる微隆帯で表現され、鼻孔は刺突で表現されている。目と口は楕円形の粘土紐を貼り付けた後に沈線が施され、口には刺突も加えられる。顔から下の版部は、沈線で刻目列を隆帯状に作り出し、これより下は異原体によって羽状縄文が施されている。底面部分では縄文は浅く、まばらである。なお、底面に研磨や磨りの痕跡は認められなかった。

土器は6791.3g出土した。89は、焼成前に穿孔が施される単孔土器である。文様構成からII群d1類の「馬場瀬段階」と考えた。90は台付鉢で、31と同様に口縁端部が2カ所欠損し、炭化物の付着も認められる。91はII群d2類の「堂林式古段階」の深鉢である。薄手に作られた器壁には無節Lの地縄文が施され、その上には幅1mm前後と細密な沈線で、鋸歯状や曲線のモチーフが施文される。また、口縁部には4単位で突起が施されていたと考えられるが、残存する3つ全てで先端が削り取られるように欠損している。なお、「堂林式古段階」とできるものは破片も含め、この1点のみの出土である。96は台付深鉢である。口縁部は5単位の波状口縁であったと考えられる。122は鉢とした。底部は丸底で、異原羽状縄文が施される。123~133はII群e類である。羽状縄文は、異なる原体によるもの同一の原体を用いるものの双方がある。134は異質な印象を受け、分類は見送った。縄文は節が細かいLR単節の原体を縦方向に施文している。また、96は第24号土坑の2層とピット12の覆土から出土した破片と接合した。なお、120は「十腰内2式」で、110もその可能性がある。どちらも埋没途中に混

入したと考えられる。

石器は、石鏃1点、石錐1点、石匙3点、スクレイパー9点、二次加工剥片2点、微細剥離痕のある剥片1点、敲磨石類5点、剥片類412.3gが出土し、この内13点を図示した。31は上半を欠損するが、円基無茎鏃と考えた。32・33は石匙で、共につまみ部に対して縦長の身部をもつ。34～38はスクレイパーである。39～43は敲磨石類である。

【小結】「馬場瀬段階」とこれに併行する「堂林式古段階」の土器が床面から出土することから、同段階には埋没過程にあったといえる。よって、住居が構築、使用されたのも同じ「馬場瀬段階」であった可能性が高い。

第8号竪穴住居跡 (SI-8) (図11・22)

【位置・確認】K-26・27グリッドに位置する。また、北東壁の一部が攪乱により失われている。IV層上面で確認した。

【重複】なし。

【規模・形状】規模は、開口部で長軸2.93m、短軸2.39mを測り、平面形は隅丸方形に近い楕円形と考えられる。

【堆積土】4層に分層した。堆積土は黒褐色土を主体とし、自然堆積によるものと考えられる。

【壁・床】壁は、北壁では垂直に立ち上がっている。一方、壁高の低い南壁では、なだらかに立ち上がるものと考えられる。床はIV層中にほぼ平坦に作られるが、南半ではやや低くなっている。

【柱穴】柱穴は確認できなかった。

【炉】地床炉1基を確認した。掘方は伴わず、床面としたIV層をそのまま火床面とし、中央部はやや窪んでいる。平面形は円形で、規模は長軸49cm、短軸47cmである。焼土は最も厚いところで約4cm形成されていた。

【付帯施設】なし。

【出土遺物】土器は30.6g出土した。84・85はII群c・d類で、共に注口の可能性がある。

石器は出土していない。

【小結】時期を断定できる遺物に乏しく、「十腰内IV群段階から馬場瀬段階」の住居としておく。

第9号竪穴住居跡 (SI-9) (図8・9・22)

【位置・確認】H-25・26グリッドに位置するが、その大半は調査区外にある。そのため、確認は調査区南壁でおこない、平面ではわずかに壁柱穴の一部を捉えられたに留まる。土層断面図A-A'では、西壁がII層の上にある人為的な盛土層(盛土範囲1か)を切って掘りこまれていることがわかる。

【重複】東側で第23号土坑と重複し、本遺構が新しい。西壁で本遺構が切っている人為的な盛土層は、平面的には連続を捉えられなかったが、土質や混合物の特徴から、第24号土坑を覆っている盛土範囲1である可能性が高い。

【規模・形状】規模は、土層断面図A-A'の開口部間で3.86m、下端間で3.28mである。平面形は不明である。

【堆積土】6層に分層した。堆積土は黒褐色～暗褐色土を主体としている。

【壁・床】壁は、西壁では床面に近いところから外湾しながら開口部に至る。床は、Ⅱ層中にほぼ平坦に作られる。

【柱穴】床面を捉えられなかったが、壁柱穴の一部と考えられるものを4基確認した。本来であれば、ほかの竪穴住居跡と同様に壁際を巡っていた可能性が高い。なお、確認した4基の最下点標高は182.96～183.07mで床面の高さを土層断面図A-A'から183.24mと仮定した場合、深さは17～28cmとなり、ほかの竪穴住居跡で確認した壁柱穴の値とも近い。

【炉】残存部分には存在しない。

【付帯施設】残存部分には存在しない。

【出土遺物】土器は966.4g出土した。無文の深鉢である86とⅡ群c類の注口である87は、床面から2個体が寄り添うようにして出土したものである。

石器は出土していない。

【小結】「十腰内Ⅳ群段階」の注口が床面から出土することから、同段階には埋没過程にあったといえる。よって、住居が構築、使用されたのも同じ「十腰内Ⅳ群段階」であった可能性が高い。

3 掘立柱建物跡

第1号掘立柱建物跡 (SB-1) (図14・26・27・38)

【位置・確認】G-17・18、H-17・18グリッドに位置し、掘立柱建物跡とこの上部で確認した配石遺構により構成される。当初、両者は別遺構の重複と認識していたが、配石遺構が掘立柱建物跡の柱穴配置に沿うように構築されていることから、同一遺構として報告することとした。また、本遺構に関連すると考えられる遺構に第2号焼土遺構があり、これもあわせて報告する。以下、「配石遺構」と「掘立柱建物跡」にわけて記載する。

〈配石遺構〉

【確認】Ⅲ層掘削中に、礫の露出で確認した。Ⅲ層中に構築されたものと考えられる。

【規模・形状】南西側の約半分を欠くものの、方形に掘方を設けて礫を埋置したものと考えられる。礫を埋置する間隔は不規則で、規模は残存する北辺で4.17m、東辺で4.10mを測る。掘方の深さは一定しないが、概ね5～10cm前後であった。用いられる礫の形状に共通性は認められない。長径20～30cm前後のものが多く、最も大きいものでは50cmを超えるものがある。

【出土遺物】配石遺構に伴う遺物は出土していない。また、配石に用いられる礫にも、石器から転用されたものは皆無であった。

〈掘立柱建物跡〉

【確認】配石遺構の調査後、Ⅳ層上面で確認した。当初は存在を認識しておらず、検出順にそれぞれにピット番号を付して調査した。しかし、調査が進むにつれ、ピットが縄文時代後期にみられる亀甲形の配置であることがわかり、掘立柱建物跡として認識した。なお、報告にあたって、各柱穴の番号は調査時のままとし、ピット13・17・22・23・24・25・26の7基で構成される建物跡とした。また、この建物跡のほぼ中央部から第2号焼土遺構を確認した。遺構としたが、風倒木により原位置を維持していない。しかし、焼土遺構としての痕跡を留めており、建物跡との関連もうかがえる。そのため、

以下に【焼土遺構】の項を設け、あわせてここで報告する。

【重複】ピット22は第3号土坑と重複し、これより古い。

【規模・形状】ピットは亀甲形に7基配置されている。棟持柱は重複するピット13・17とピット24と考えた。なお、下端を2カ所で確認したピット24についても、本来2基のピットであった可能性が高く、棟持柱の移設を伴う建て替えが行われた可能性を指摘できる。規模は、各ピットの下端の中央部間で計測し、ピット22と25の間で3.61m、ピット25と26の間で3.47m、ピット17とピット24の北側の下端間で5.25mであった。

【柱穴】平面形は、不整形だが楕円基調である。深さは72.0～105.7cmである。壁は、底面からほぼ垂直に立ち上がるが、ピット22と25は共に北側へ浅い中端が張り出している。また、ピット22の確認時に粘土が張られていたと考えられる範囲（第1層が相当）を確認した。

【焼土遺構】建物中央部で第2号焼土遺構（SN-2）を確認した。当初から、焼土と建物跡との関連はうかがえたが、断ち割ってみたところ、縦に長い焼土（第6層）が確認された。しかし、これは確認面を火床面として形成したものとは考え難いものであった。周囲の堆積土とあわせて検討した結果、これは第6層と第2層の層境が本来の火床面で、これが風倒木によって地山ごとほぼ直角に横転したものと考えた。そのように考えた場合、第7～9層は横転した地山のIV層で、第2～4層は風倒木によって生じた窪地に堆積した黒褐色土と理解できる。また、第6層の下にある礫の存在からはこの炉が石囲炉であった可能性も指摘できる。

【出土遺物】土器はピット22から46.0g、ピット23から249.3g、ピット25から357.6g、ピット26から105.2g出土した。157はII群c類の「十腰内IV群段階」の注口である。また、156は、同一個体の口縁部と考えられる。

石器は、ピット22から磨製石斧が1点と剥片類60.8g、ピット23から剥片類6.9g出土し、この内1点を図示した。44は磨製石斧である。

なお、風倒木であるが、第2号焼土遺構として取り上げた遺物も参考までに掲載した。土器は2234.3g出土した。163は無節Lの原体を、165・166はLR単節の原体をを用いている。石器は、敲磨石類1点、石皿・台石類1点、石核2点、剥片類4.1gが出土し、この内2点を図示した。45は敲磨石類である。46は石皿・台石類である。窪みに磨り痕が認められるが、その形成は非常に弱い。

【小結】掘立柱建物跡は6基の柱穴で構築される亀甲形の柱穴配置となるもので、配石遺構はこの内、ピット22・23・25・26上に方形に配置される。

時期は「十腰内IV段階」とできる土器がピット25から出土することから、同段階には埋没過程にあったといえる。よって、建物が構築、使用されたのも同じ「十腰内IV群段階」であった可能性が高い。

4 土坑

22基確認した（図8・9・14・15・16）。個別の記載は観察表に譲り、ここでは特記事項の記載に留める。

【平面形・規模】平面形には円形・楕円形・方形のほか不整形としたものがある。円形となるものが10基と多く、長軸は0.76～1.43mである。堆積はいずれも自然堆積と考えられるものであった。平面

形が楕円形となるものは4基で、この内第16～18号土坑の3基はH-14グリッドを中心とした範囲に近接して位置する。長軸は1.61～2.67mで、底面はいずれも平坦ではない。平面形が方形となる第24号土坑は、盛土範囲1の下で確認した。南東側を風倒木により欠くものの、残存部から推定する平面形と規模、平坦な底面などは第8号竪穴住居跡に近いといえる。

【出土遺物】掲載遺物（図26・38）について記載する。

土器は、第6号土坑からはⅡ群c・d類の深鉢（136）が出土している。第12号土坑からはⅡ群b類の深鉢（138）が出土している。第18号土坑からはⅡ群b類の深鉢（139）が出土している。第24号土坑からはⅡ群c・d類（141～144）が出土している。第27号土坑からは比較的多くの土器が出土した。146はⅡ群b類の可能性はある。152はⅡ群b類の注口で、「宝ヶ峯型注口土器」（鈴木2006）とされるものである。器面の外面は研磨されて黒色となる。内外面にはわずかに赤彩の痕跡が残り、本来は広く赤色顔料が塗布されていたものと考えられる。150・151の注口部も黒色で、Ⅱ群b類と考えられる。148は沈線が施文されており、Ⅱ群b類に伴う粗製土器の可能性はある。

石器は剥片類を除くと、第24号土坑からスクレイパー1点、二次加工剥片1点、石皿・台石類1点が第27号土坑から二次加工剥片1点が出土している。この内、2点を図示した。47はスクレイパーである。急角度に調整された刃部を持つもので、いわゆる「搔器」とされるものである。48は石皿・台石類である。石材に頁岩を用い、平坦な使用面は明確な縁を作り出している。また、表面は広範囲が被熱により黒く変色している。

【時期】遺物が出土せず、時期を明確にできないものが多い。しかし、その内の大半は竪穴住居跡が構築される「十腰内Ⅳ群段階から馬場瀬段階」に帰属するものと考えられる。

なお、第12・18・27号土坑に関してはⅡ群b類が出土し、特に第27号土坑に関しては、出土土器の大半を占めている。同類は周囲の包含層からも多く出土するため混入を否定できないが、第27号土坑は「十腰内2式」を主体とする後期中葉に帰属する可能性を指摘しておく。

5 焼土遺構

2基確認した。第2号焼土遺構については掘立柱建物跡の項で記載したので、ここでは記載しない。

第1号焼土遺構（SN-1）（図17）

H-16グリッドに位置する。Ⅲ層中に形成されており、南半は平面で捉えることができなかった。残存長軸は0.65m、残存短軸は0.47m、焼土は最も厚いところで約18cm形成されていた。遺物は出土していない。

6 溝状遺構

第1号溝状土坑（SV-1）（図17）

E-19・20グリッドに位置し、東半は調査区外に延びる。Ⅰ層直下のⅢ層中から掘りこまれている。平面形は長楕円形で、規模は開口部で残存長軸2.71m、短軸0.71m、深さは1.61mを測る。断面形状はY

字状で、堆積土は9層に分層した。遺物は出土していない。

7 ピット

Ⅲ層からⅣ層の上面にかけて6基（掘立柱建物跡として抽出した7基を除く）を確認した（図17）。遺物はピット12から土器14g、二次加工剥片1点が出土したのみで時期を明確にできないが、いずれも遺構が多く構築される「十腰内Ⅳ群段階から馬場瀬段階」のものと考えられる。

第3節 遺構外出土遺物

1 土器（図27～34）

土器は約40.8kg出土し、そのうち遺構外からの出土は約18.3kgである。ここでは、まず遺構内出土土器も含めた本報告書での分類を示した上で、遺構外出土土器の特記事項を分類ごとに記載する。

分類は時期ごとにⅠ～Ⅲ群に大別した。この内、出土量の多いⅡ群については器形、文様、胎土等からa～d類に細分し、型式あるいは先行研究との対比を試みた。e類は、地文のみもしくは無文の土器で、いわゆる粗製土器を含むものである。

器形の復元ができないものについては、傾きや文様・調整等を勘案して可能性の高い器種を観察表に記載した。なお、「ミニチュア土器」（菅野2008）とされるものもここで報告する。

Ⅰ群・・・縄文時代前期の土器。

Ⅱ群・・・縄文時代後期の土器。

a類 前葉の土器で、沈線で文様を描出するもの。出土量が少ないものの、いずれも「十腰内Ⅰ式」（榎本2008）の範疇にあると考えられる。

b類 中葉の土器で、平行沈線で区画される文様帯を持つものや曲線のモチーフを描くものなどがある。先行研究との対比では、「十腰内Ⅱ式」（鈴木2001）を含む土器群である。

c類 中葉～後葉の土器で、主に磨消縄文によって文様を描出される一群である。磨消縄文による文様には木葉文や襷掛状文がある。また、文様描出には刻目、貼瘤が用いられるものもある。先行研究との対比では「十腰内Ⅳ群段階」（関根2005）とできる土器群である。

d1類 中葉～後葉の土器である。器種・器形・文様施文などにc類との共通項を多く認めながらも、モチーフの描出に代表される文様施文や器面調整がやや粗雑化あるいは弛緩すると捉えられるものである。先行研究との対比では「馬場瀬段階」とできる土器群で、時期はc類に後続するとされている（関根2005）。

d2類 中葉～後葉の土器で、細密な沈線で鋸歯状や曲線のモチーフを施すものである。先行研究との対比では、北海道を中心に分布する「堂林式古段階」（阿部2003）とできる土器で、d1類

とは併行関係にあるとされる（関根2005）。

e類 後期に帰属すると考えられる地文のみもしくは無文の土器である。いわゆる粗製土器のほか、残存範囲が小さいために本類とされたものを含む。粗製土器は、羽状縄文のみが施されるものが多く、縄文原体は0段多条に加えて単節を用いていると考えられるものがある。

Ⅲ群・・・縄文時代晩期の土器。

出土の主体となる中葉～後葉の土器は、これまで主に十腰内Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ群とされていたもので、これについてはc類とd1類に細分した。文様描出には、磨消縄文が多用される。羽状縄文は異なる原体を用いるもの（これについては、本文及び観察表中で「異原羽状縄文」と表記した箇所がある。）で、原体は0段多条が大半を占める。なお、文様・器形などの構成要素に共通項が多いことから、破片については一括して「Ⅱ群c・d類」とした。

遺構外からの出土量は、遺構内同様、「十腰内Ⅳ群段階」と「馬場瀬段階」のものが主体となり、これに加え「十腰内2式」も定量出土している。これ以外のものは、いずれも少ない。遺構外から出土したものについては、その大半が19列（Y=17616）より西側からであり、出土の偏りが著しい。また「十腰内2式」については、H-13、I-13グリッドを中心とした範囲に出土の集中を見出せる。

以下、遺構外出土土器について、分類ごとに特記事項を記載する。

167～170はⅠ群である。167は器壁が厚く、前期初頭の可能性がある。169は結束羽状縄文が施され、円筒下層d式と考えられる。

171～174はⅡ群a類である。いずれも沈線で文様を描出している。

175～220はⅡ群b類である。175～185、187～199は平行沈線で区画される文様帯を持つと考えられるものである。器形を明らかにできるものは出土していないが、口縁部では平縁（175ほか）と波状口縁（189ほか）がある。200～204は曲線のモチーフを描くものである。201・204は、胴部が「く」の字状に強く屈曲する。203は底に内容物と考えられる黒色の付着物が残る。205～210は縄文を主体とするものである。205～207は口唇部に縄文を施文している。211・212は「華燭土器」（鈴木2004）とされるものである。212は口縁部に大形の突起が施される。213～215は、平行沈線間に縄文に加えて刺突が施されている。216～220は「宝ヶ峯型注口土器」とされるものである。器面の外面は研磨されて黒色となる。216の外面にはわずかに赤彩の痕跡が残り、本来は広く赤色顔料が塗布されていたものと考えられる。

221・222は同一個体で、後期と考えた。厚い器壁と縦走する沈線はⅡ群b類、0段多条による羽状縄文はⅡ群c・d類の要素といえる。

223～289はⅡ群c・d類である。223～259は深鉢と考えられるものである。223は、Ⅱ群c類と考えた。器面の内外面に炭化物が付着している。224は、Ⅱ群c・d類としたが、平行沈線で区画される文様帯はⅡ群b類に近いといえる。235はⅡ群c類としたものより、文様モチーフの粗雑化と貼瘤の多用が認められることからⅡ群d1類と考えた。251・252は器面がほかにみられない褐色で、異質な印象を受ける。257はⅡ群c・d類としたが、LR単節の使用などから時期が異なる可能性もある。

260～283は注口と考えられるもので、一部壺の可能性のあるものを含む。267は刻目が狭い間隔で密に施されている。264・275は文様構成からⅡ群d 1類と考えた。また、279・281もⅡ群d 1類の可能性はある。276は、Ⅱ群c類と考えた。283は、口縁部から頸部にかけて刻目と貼瘤を主体とした文様が施されている。284・285は鉢である。287・288は台が付くもので、ミニチュア土器の可能性はある。289は香炉形である。

290～292は後期と考えた。290・291は同一個体で、0段多条による縄文はⅡ群c・d類の要素といえる。292は、Ⅱ群c・d類の深鉢の可能性はある。

293～301はⅢ群である。293～295、297～299は平行沈線を用い、大洞A式と考えられる。

302～335はⅡ群e類である。302・303は鉢である。304・305は原体に単軸絡条体5類を用い、Ⅱ群a類に伴う粗製土器の可能性はある。また、条痕文の施される306もⅡ群a類に伴う可能性はある。羽状縄文が施されるものは、使用する原体や胎土・調整などにⅡ群c・d類との共通性がうかがえることから、これに伴う粗製土器である可能性が高い。

2 土製品 (図34)

遺構外からは円盤状土製品1点が出土した。336はⅡ群c・d類の土器片の周囲を打ち欠いて円形に整形している。周縁に明確な研磨や磨りの痕跡は認められなかった。

3 石器 (図35～41)

遺構外からは剥片類、石核を除くと70点の石器が出土した。土器の様相と同じく遺構の構築される時期、「十腰内Ⅳ群段階から馬場瀬段階」に帰属するものが多数を占めると考えられる。ここでは、遺構外出土石器について、剥片石器と礫石器に大別して記載する。

剥片石器は、遺構外から58点（剥片類、石核を除く）出土した。この内33点がI-13グリッドを中心とした範囲（J-12～14、I-12～14、H-12～14の9グリッド）からの出土であり、集中が見出せる。なお、分類にあたっては『砂子瀬遺跡Ⅲ』（青森県教委2012）を参考とした。

石鏃

遺構外からの出土は5点で、この内3点（49～51）を図示した。

49～51は凹基無茎石鏃である。

石錐

遺構外からの出土は2点で、この内1点（52）を図示した。

52は棒状で、明瞭なつまみ部を持たないものである。

石篋

遺構外からの出土は2点で、全て(53・54)図示した。

53・54は平面形が撥形で、刃部は下端に直線的に作り出されている。

スクレイパー

上述の定形石器には属さないが、縁辺に連続する二次加工が施され、意図的な刃部が作り出された石器である。

遺構外からの出土は14点で、この内9点(55～63)を図示した。これを刃部の角度から細分すると、急角度に調整された刃部を持つもの(58)がいわゆる「搔器」、これ以外の8点がいわゆる「削器」(55～57・59～63)とできる。

二次加工剥片

剥片の一部に二次加工が施されるものである。器種を判断できない石器の破片や未成品と思われるものも含む。

遺構外からの出土は17点で、この内3点(64～66)を図示した。65と66は石鏃の未成品の可能性がある。64も両面の広い範囲に二次加工が及んでおり、何らかの石器の未成品である可能性が高い。

微細剥離痕のある剥片

剥片の一部に微細な剥離が認められるものである。

遺構外からの出土は18点で、この内1点(67)を図示した。67は、剥片の2辺に使用によると考えられる剥離が認められる。

石核

剥片を剥離した残核である。

遺構外からの出土は3点で、この内1点(68)を図示した。

剥片類

二次加工の施されない剥片である。遺構内から1011.6g、遺構外から1121.6g出土した。

礫石器は遺構外から12点出土した。出土数が少ないため、分類は大別に留め、細分は行わなかった。

磨製石斧

遺構外からの出土は2点で、全て(69・70)図示した。

69は石材に安山岩を用いるもので、整形時の敲打痕を残している。70は緑色片岩を用いるものである。やや小振りで、平面形は側縁が直線的である。

敲磨石類

「磨石」、「敲石」、「凹石」とされるものを一括した。

遺構外からは8点出土し、全て(71~78)図示した。敲打痕の累積による凹みが全てで認められ、この内5点(71~75)はあわせて磨り痕も認められた。いわゆる「磨石」とできるものには71があり、楕円形の礫の広範囲に顕著な磨り面が形成される。一方で、使用痕が凹みのみのもの(76~78)は、平面形が不整な礫を用いている。

石皿・台石類

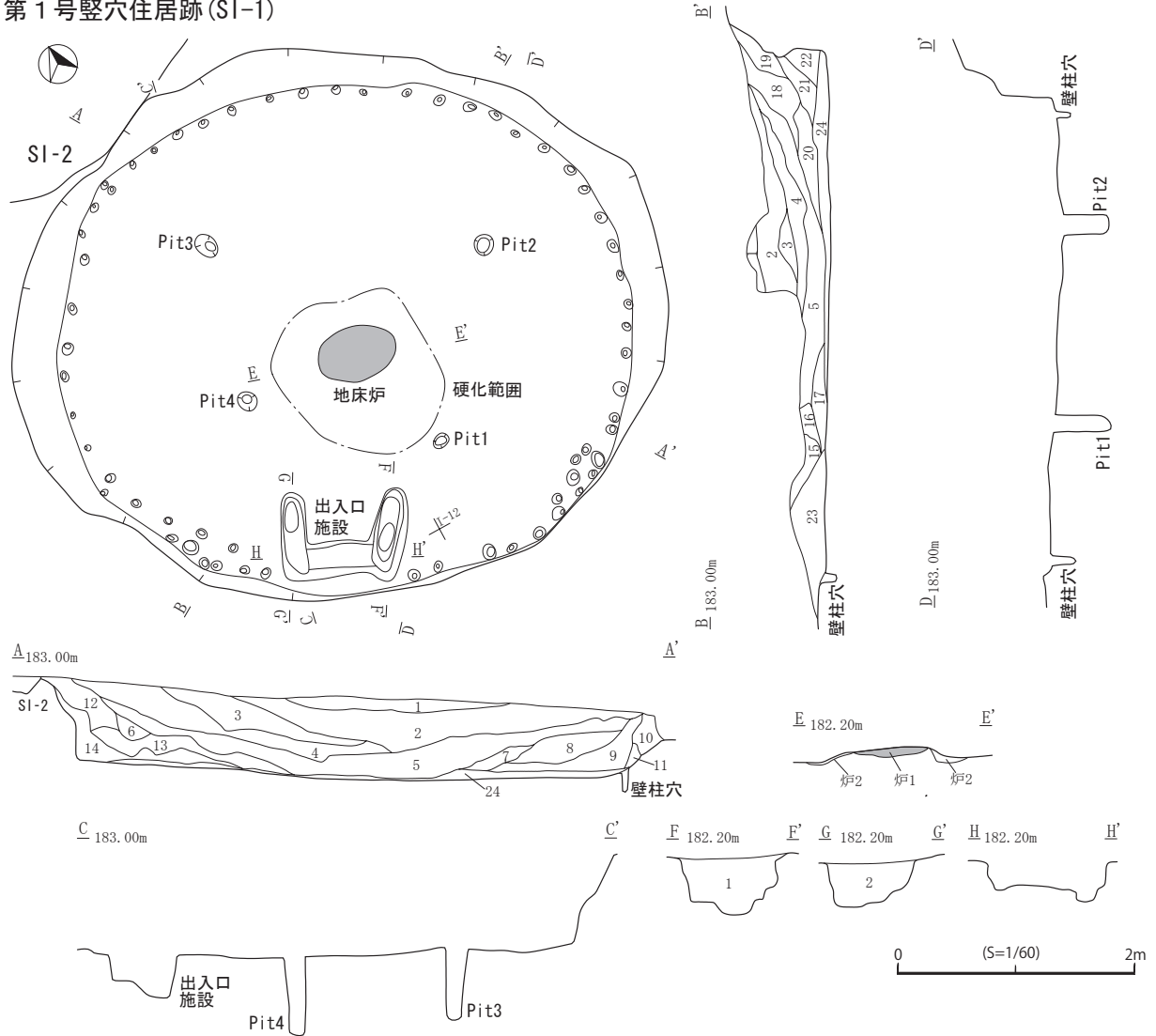
「石皿」、「台石」とされるものを一括した。

遺構外からは2点出土し、この内1点(79)を図示した。79は、いわゆる「石皿」とできるもので、使用部分以外に広く自然面を残している。

4 石製品 (図41)

遺構外からは石刀1点、板状を呈するもの1点の計2点が出土した。80は頭部を欠損するが、石刀と考えた。棒状の粘板岩を研磨して整形している。端部には間隔を置いて6条の線刻を巡らし、この間に斜方向の線刻を施すことで文様を描出している。81は、欠損により全形は不明であるが、細粒凝灰岩を研磨して作り出した厚さ8mmの板状の石製品である。

第1号竖穴住居跡(SI-1)



第1号竖穴住居跡(SI-1)(A-A'・B-B')

第1層	10YR2/2 黒褐色土	軽石(φ10mm)2%。
第2層	10YR2/1 黒色土	10YR3/3暗褐色土5%、軽石(φ5~50mm)5%。
第3層	10YR3/4 暗褐色土	10YR2/3黒褐色土5%、軽石(φ5~70mm)10%。
第4層	10YR3/4 暗褐色土	10YR3/3暗褐色土10%、炭化物(φ1mm)1%未満、軽石(φ1~30mm)5%。
第5層	10YR4/4 褐色土	10YR2/3黒褐色土5%、ロームブロック(φ10~100mm)2%、軽石(φ5~70mm)7%。
第6層	10YR3/4 暗褐色土	軽石(φ1~30mm)5%。
第7層	10YR3/3 暗褐色土	軽石(φ30mm)2%。
第8層	10YR4/6 褐色土	10YR3/3暗褐色土5%、ロームブロック(φ10~100mm)2%。
第9層	10YR3/4 暗褐色土	10YR3/2黒褐色土5%、ローム粒(φ1~10mm)1%、軽石(φ1~10mm)3%。
第10層	10YR3/3 暗褐色土	軽石(φ1~2mm)2%。
第11層	10YR5/6 黄褐色土	10YR3/4暗褐色土5%、軽石(φ1mm)1%。
第12層	10YR3/2 黒褐色土	ロームブロック(φ100mm)2%、軽石(φ1~10mm)1%。
第13層	10YR3/3 暗褐色土	10YR2/2黒褐色土5%、軽石(φ1~10mm)1%。
第14層	10YR5/6 黄褐色土	10YR4/6褐色土5%、10YR2/3黒褐色土3%、軽石(φ1~30mm)2%。
第15層	10YR3/4 暗褐色土	炭化物(φ1mm)1%未満、軽石(φ1~10mm)3%。
第16層	10YR3/3 暗褐色土	軽石(φ1~5mm)5%。
第17層	10YR4/4 褐色土	ローム粒(φ2mm)1%、軽石(φ3mm)1%。
第18層	10YR3/3 暗褐色土	10YR2/2黒褐色土5%、炭化物(φ1mm以下)1%未満、軽石(φ1~10mm)3%。
第19層	10YR3/3 暗褐色土	ロームブロック(φ70mm)3%、軽石(φ1~10mm)2%。
第20層	10YR3/4 暗褐色土	炭化物(φ1mm)1%未満、軽石(φ1~20mm)3%。
第21層	10YR3/3 暗褐色土	10YR4/4褐色土5%、軽石(φ1~15mm)3%。
第22層	10YR4/4 褐色土	10YR4/6褐色土30%、10YR3/2黒褐色土2%、軽石(φ1~70mm)3%。
第23層	10YR4/3 にぶい黄褐色土	10YR3/4暗褐色土10%、炭化物(φ20mm)1%、軽石(φ1~30mm)5%。
第24層	10YR4/4 褐色土	10YR2/2黒褐色土5%、炭化物(φ1mm)1%未満、軽石(φ1~20mm)3%。

第1号竖穴住居跡(SI-1)炉(E-E')

炉1層	7.5YR5/8 明褐色焼土	10YR5/6黄褐色土3%、10YR3/4暗褐色土2%、炭化物(φ~1mm)1%未満、軽石(φ1~50mm)20%。
炉2層	10YR4/6 褐色土	10YR3/4暗褐色土3%、炭化物(φ1~5mm)1%、軽石(φ1~5mm)5%。

第1号竖穴住居跡(SI-1)出入口施設(F-F')

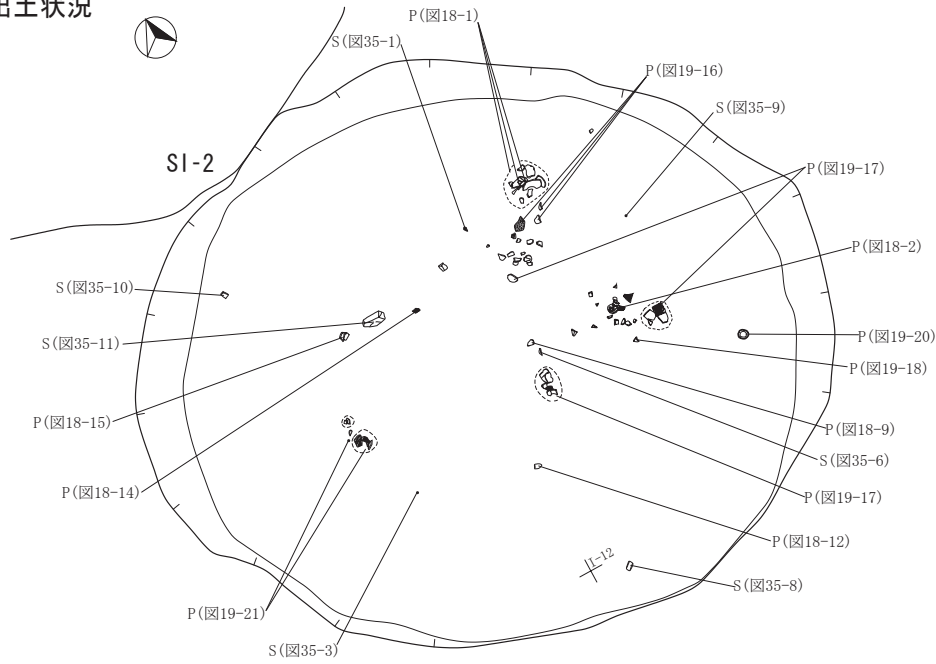
第1層	10YR4/6 褐色土	軽石(φ1~50mm)15%。
-----	-------------	-----------------

第1号竖穴住居跡(SI-1)出入口施設(G-G')

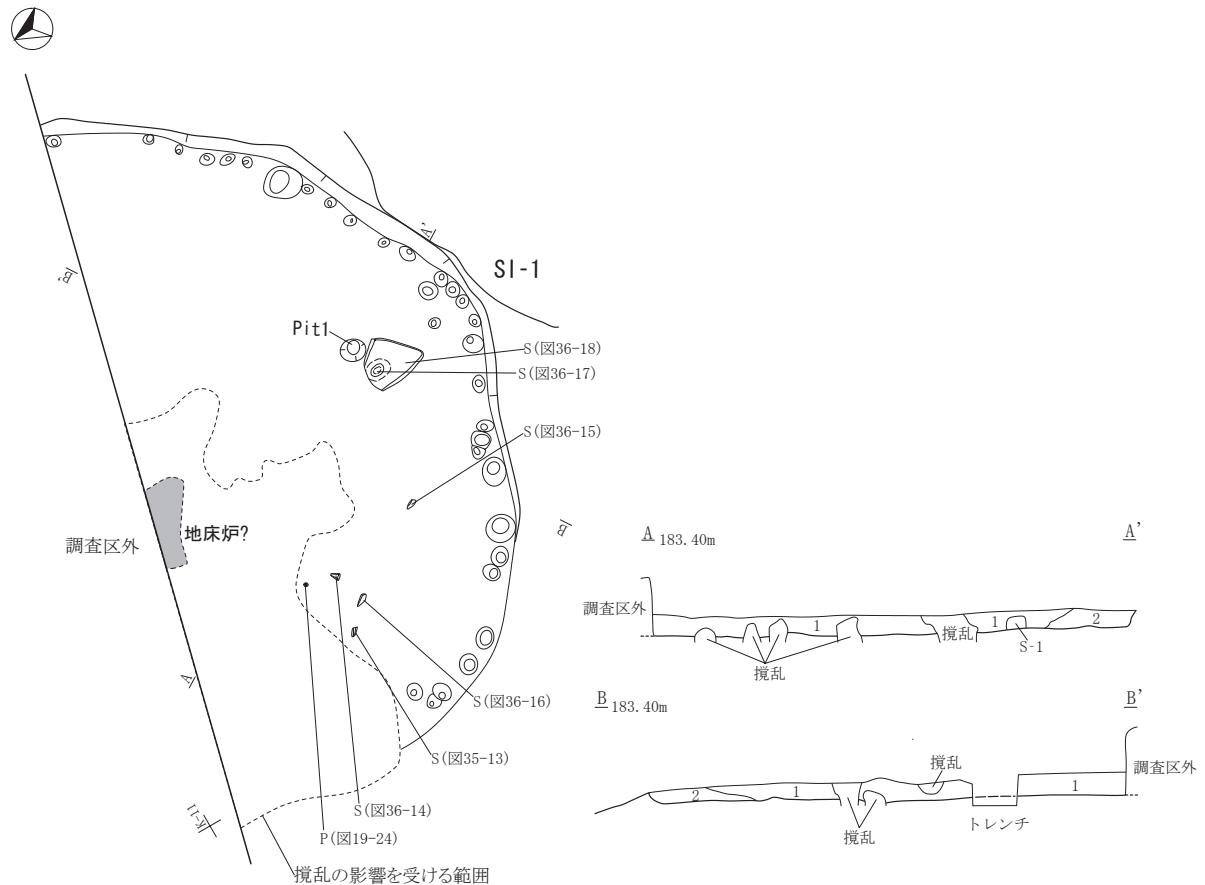
第2層	10YR4/6 褐色土	10YR5/6黄褐色土2%、軽石(φ1~50mm)7%。
-----	-------------	------------------------------

図6 竖穴住居跡(1)

SI-1遺物出土状況



第2号竪穴住居跡(SI-2)



第2号竪穴住居跡(SI-2)

第1層 10YR3/4 暗褐色土 10YR5/8黄褐色土5%、10YR2/2黒褐色土3%、10YR4/6褐色土3%、5YR4/8赤褐色焼土(φ1~1mm)1%未満、炭化物(φ1~5mm)2%、軽石(φ1~50mm)40%。

第2層 10YR3/4 暗褐色土 10YR4/6褐色土20%、炭化物(φ1~5mm)1%、軽石(φ1~30mm)10%。

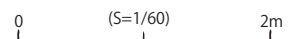


図7 竪穴住居跡(2)

第3号竪穴住居跡(SI-3)・第9号竪穴住居跡(SI-9)/第23号土坑(SK-23)・第26号土坑(SK-26)

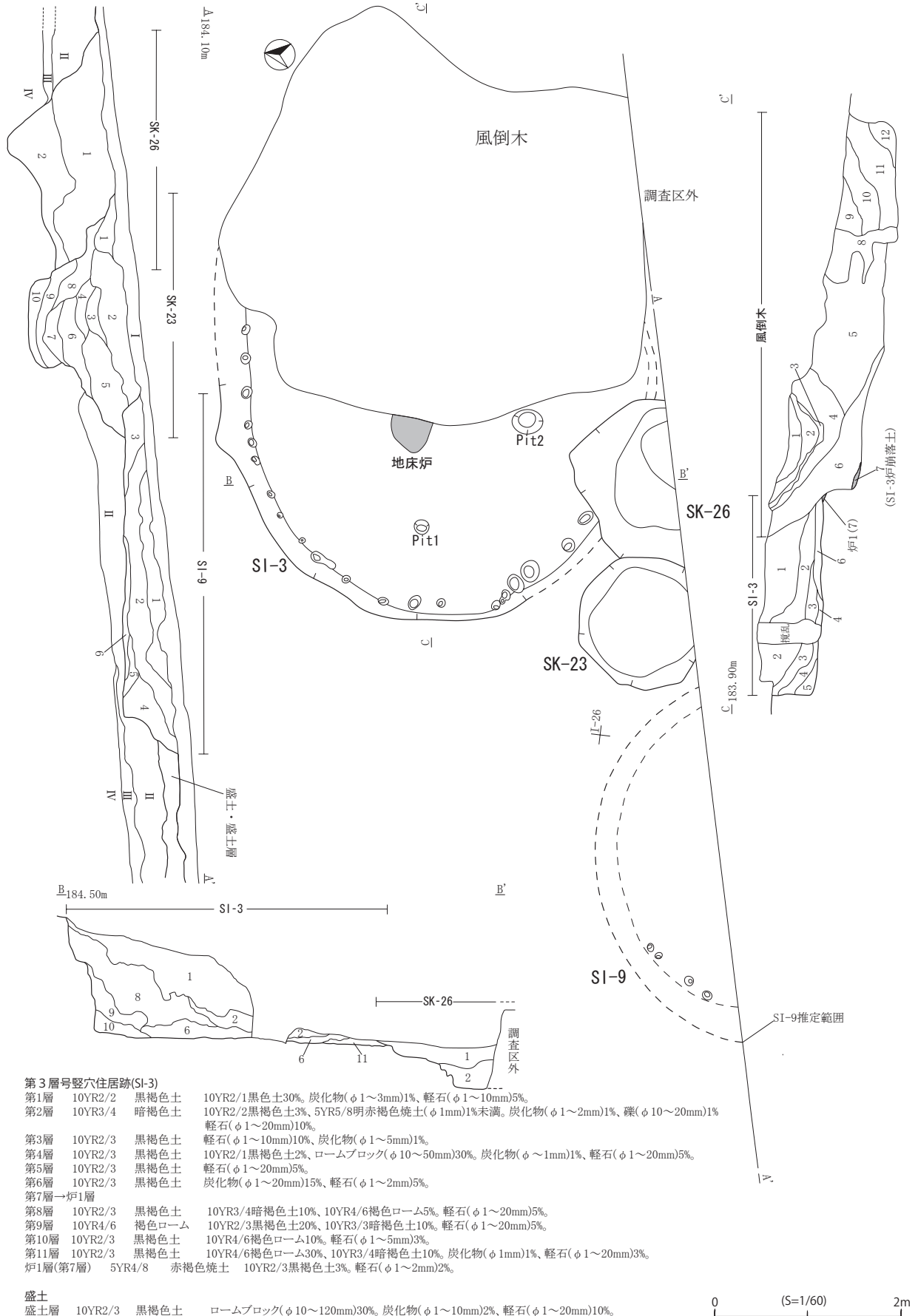


図8 竪穴住居跡(3)

第9号竪穴住居跡(SI-9)

第1層	10YR2/1	黒色土	10YR2/2黒褐色土30%、炭化物(φ1~3mm)2%、軽石(φ1~10mm)5%。
第2層	10YR2/2	黒褐色土	10YR3/4暗褐色土5%、5YR4/8赤褐色焼土粒(φ~1mm)1%未満、炭化物(φ1~10mm)3%、軽石(φ1~30mm)8%。
第3層	10YR3/4	暗褐色土	10YR2/2黒褐色土10%、10YR4/6褐色ローム10%、軽石(φ1~30mm)5%。
第4層	10YR3/4	暗褐色土	10YR2/3黒褐色土20%、10YR4/6褐色ローム10%、炭化物(φ1~5mm)5%、礫(φ10~30mm)1%、軽石(φ1~20mm)10%。
第5層	10YR2/2	黒褐色土	ローム粒(φ~1mm)2%、炭化物(φ~1mm)1%、礫(φ20~40mm)1%、軽石(φ1~2mm)3%。
第6層	10YR2/3	黒褐色土	炭化物(φ1~20mm)1%、軽石(φ1~2mm)5%。

第23号土坑(SK-23)

第1層	10YR3/3	暗褐色土	10YR2/2黒褐色土20%、10YR5/6黄褐色ローム2%、炭化物(φ1~2mm)1%、軽石(φ1~3mm)10%。
第2層	10YR3/4	暗褐色土	10YR2/2黒褐色土3%、10YR5/6黄褐色ローム20%、炭化物(φ1~2mm)1%、軽石(φ1~10mm)20%。
第3層	10YR3/4	暗褐色土	10YR1.7/1黒色土3%、ロームブロック(φ1~30mm)1%、5YR4/8赤褐色焼土粒(φ~1mm)1%未満、炭化物(φ~1mm)1%未満、軽石(φ1~5mm)30%。
第4層	10YR2/3	黒褐色土	ローム粒(φ1~20mm)3%、炭化物(φ~1mm)1%、軽石(φ1~5mm)10%。
第5層	10YR1.7/1	黒色土	10YR3/4暗褐色土5%、5YR4/8赤褐色焼土粒(φ~1mm)1%未満、炭化物(φ1~2mm)1%、軽石(φ1~20mm)5%。
第6層	10YR3/4	暗褐色土	10YR2/1黒色土5%、10YR5/6黄褐色ローム5%、炭化物(φ~1mm)1%、軽石(φ1~20mm)20%。
第7層	10YR2/2	黒褐色土	10YR2/1黒色土5%、10YR5/6黄褐色ローム5%、炭化物(φ1~10mm)2%、軽石(φ1~10mm)15%。
第8層	10YR2/2	黒褐色土	10YR3/3暗褐色土3%、10YR5/4こぶい黄褐色粘土1%、炭化物(φ1~10mm)1%、軽石(φ1~10mm)5%。
第9層	10YR2/3	黒褐色土	10YR3/4暗褐色土5%、10YR5/6黄褐色ローム15%、5YR4/8赤褐色焼土粒(φ~1mm)1%未満、炭化物(φ1~5mm)1%、礫(φ5~30mm)2%、軽石(φ1~10mm)10%。
第10層	10YR2/3	黒褐色土	10YR2/1黒色土3%、10YR5/6黄褐色ローム3%、炭化物(φ1~5mm)1%、軽石(φ1~20mm)20%。

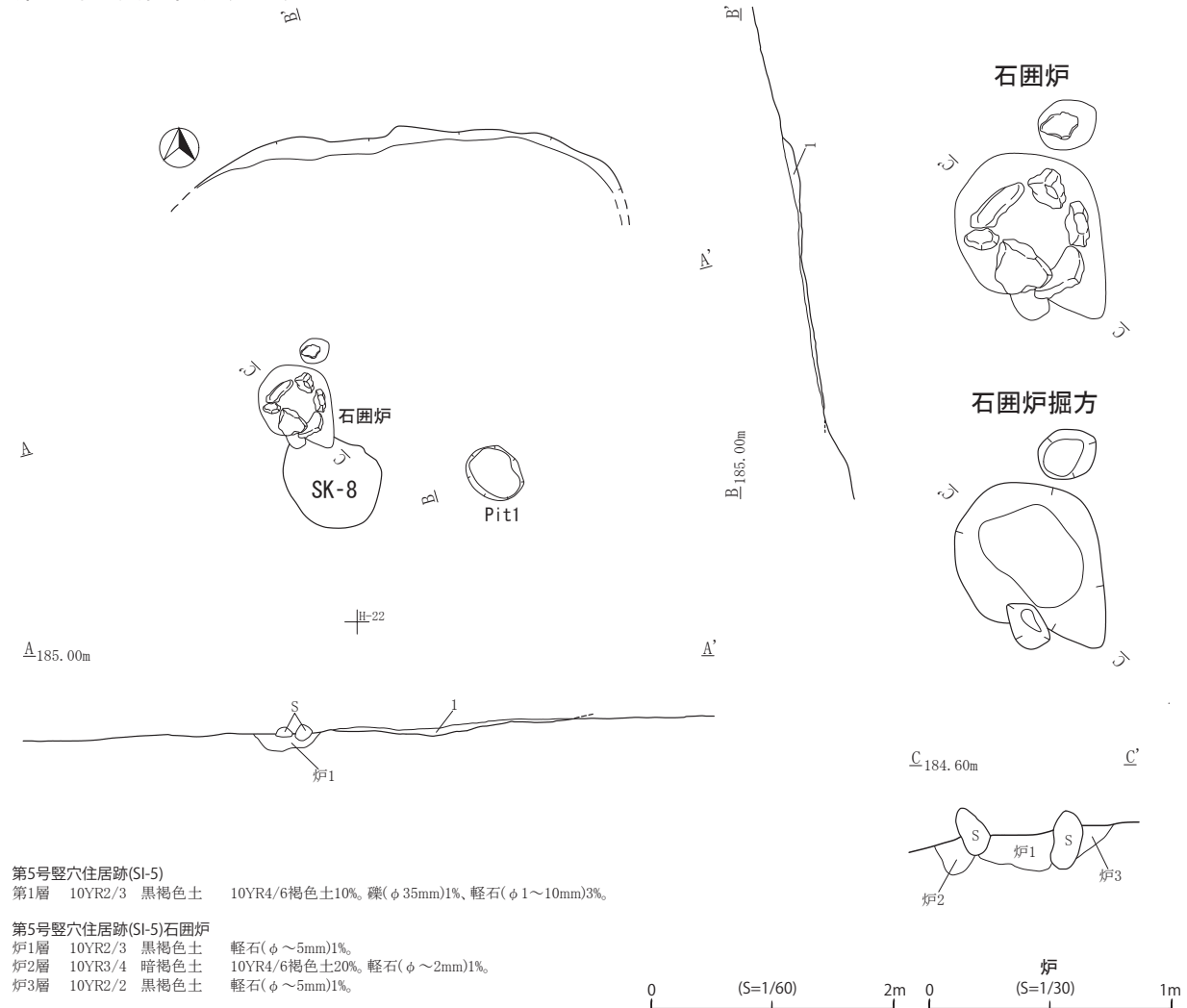
第26号土坑(SK-26)

第1層	10YR2/2	黒褐色土	10YR3/4暗褐色土30%、10YR2/1黒色土3%、炭化物(φ1~5mm)1%、軽石(φ1~50mm)3%。
第2層	10YR2/2	黒褐色土	10YR3/4暗褐色土20%、10YR4/6褐色ローム5%、炭化物(φ1mm)1%、軽石(φ1~10mm)5%。

風倒木

第1層	10YR2/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~5mm)3%、炭化物(φ1~3mm)2%、軽石(φ1~3mm)1%。
第2層	10YR8/4	浅黄橙色	火山灰(B-Tm)、10YR4/6褐色土10%、10YR2/3黒褐色土10%、10YR2/1黒色土3%、軽石(φ~1mm)1%。
第3層	10YR7/2	こぶい黄橙色	火山灰(To-a)、10YR2/3黒褐色土15%、10YR2/1黒色土1%、ローム粒(φ1~2mm)1%。
第4層	10YR3/3	暗褐色土	10YR2/1黒色土35%、炭化物(φ1~2mm)1%、軽石(φ1~10mm)10%。
第5層	10YR5/8	黄褐色土	10YR3/3暗褐色土8%、10YR2/3黒褐色土5%、軽石(φ1~30mm)20%。
第6層	10YR1.7/1	黒色土	10YR2/3黒褐色土10%、5YR4/8赤褐色焼土(φ1~20mm)2%、ローム粒(φ1~30mm)10%、炭化物(φ1~10mm)2%、軽石(φ1~2mm)2%。
第7層	5YR4/8	赤褐色焼土	10YR2/3黒褐色土20%、ローム粒(φ1~20mm)10%、炭化物(φ1~2mm)1%、炉崩落土。
第8層	10YR2/2	黒褐色土	10YR1.7/1黒色土10%、ロームブロック(φ20~50mm)5%、炭化物(φ~1mm)1%、軽石(φ1~5mm)10%。
第9層	10YR1.7/1	黒色土	10YR2/2黒褐色土5%、炭化物(φ1~2mm)1%、軽石(φ1~3mm)5%。
第10層	10YR3/3	暗褐色土	10YR2/2黒褐色土15%、ローム粒(φ1~20mm)2%、炭化物(φ1~20mm)5%、軽石(φ1~20mm)15%。
第11層	10YR2/2	黒褐色土	10YR3/4暗褐色土5%、ローム粒(φ1~20mm)3%、炭化物(φ1~30mm)10%、軽石(φ1~30mm)15%。
第12層	10YR2/3	暗褐色土	ロームブロック(φ20~50mm)5%、軽石(φ1~10mm)5%、炭化物(φ1~20mm)2%。

第5号竪穴住居跡(SI-5)



第5号竪穴住居跡(SI-5)

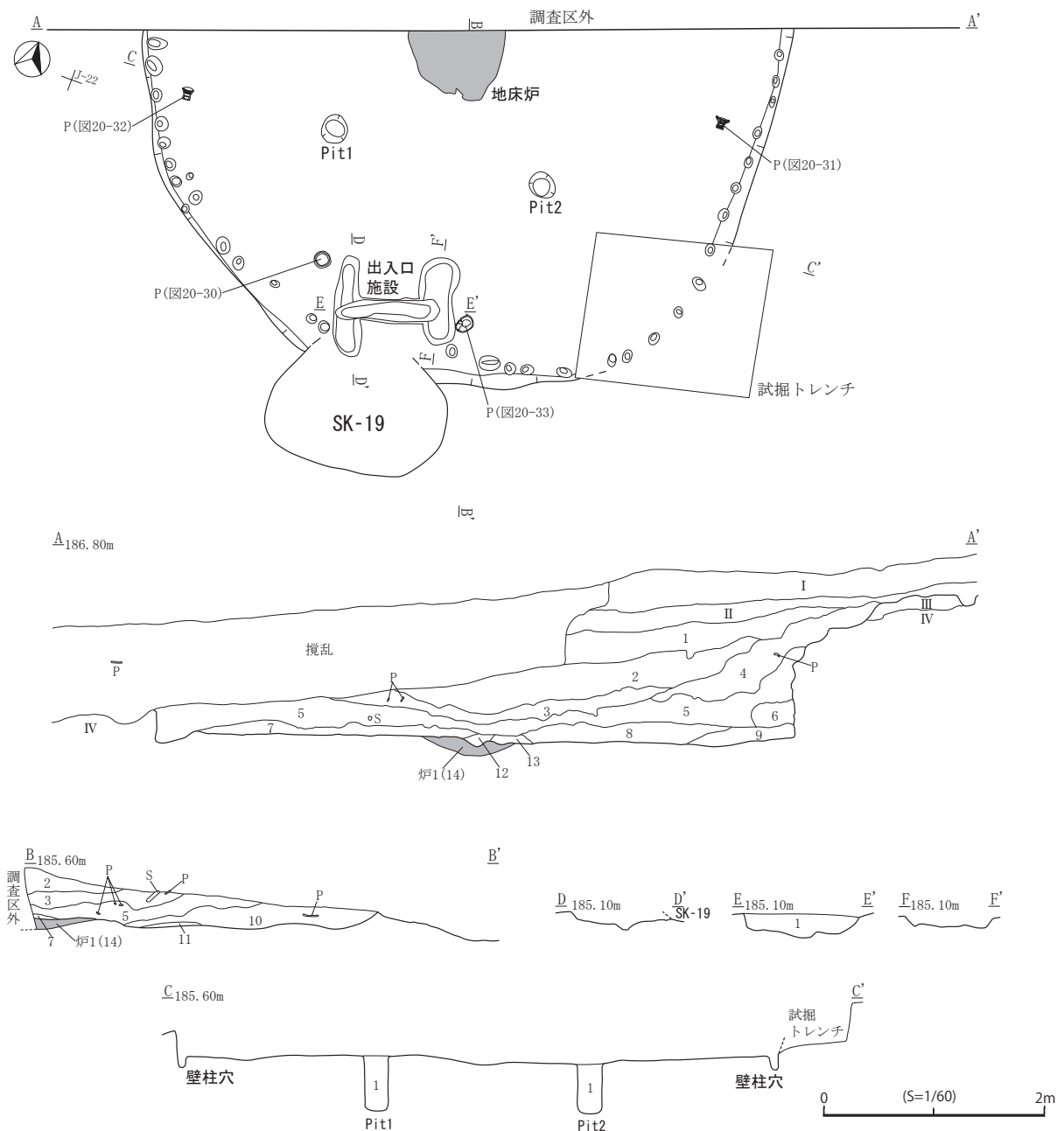
第1層	10YR2/3	黒褐色土	10YR4/6褐色土10%、礫(φ35mm)1%、軽石(φ1~10mm)3%。
-----	---------	------	---

第5号竪穴住居跡(SI-5)石囲炉

炉1層	10YR2/3	黒褐色土	軽石(φ~5mm)1%。
炉2層	10YR3/4	暗褐色土	10YR4/6褐色土20%、軽石(φ~2mm)1%。
炉3層	10YR2/2	黒褐色土	軽石(φ~5mm)1%。

図9 竪穴住居跡(4)

第4号竖穴住居跡(SI-4)



第4号竖穴住居跡(SI-4)(A-A'・B-B')

第1層	10YR2/2	黒褐色土	10YR1.7/1	黒色土5%、軽石(φ1~20mm)2%。
第2層	10YR1.7/1	黒色土	10YR2/2	黒褐色土40%、ローム粒(φ1~20mm)1%、礫(φ~30mm)1%、軽石(φ1~25mm)5%。
第3層	10YR1.7/1	黒色土		ローム粒(φ1~5mm)1%、礫(φ1~10mm)1%、軽石(φ1~30mm)5%。
第4層	10YR2/2	黒褐色土	10YR3/4	暗褐色土5%、礫(φ1~10mm)1%、軽石(φ1~20mm)2%。
第5層	10YR2/3	黒褐色土	10YR3/3	暗褐色土10%、ロームブロック(φ20~40mm)1%、礫(φ50mm)1%、軽石(φ1~25mm)8%。
第6層	10YR5/6	黄褐色土	10YR3/4	暗褐色土10%、軽石(φ1~15mm)1%。
第7層	10YR2/3	黒褐色土		ロームブロック(φ1~30mm)1%、軽石(φ1~20mm)3%。
第8層	10YR3/3	暗褐色土		礫(φ20mm)1%、軽石(φ1~30mm)5%。
第9層	10YR3/3	暗褐色土	10YR5/8	黄褐色土8%、ローム粒(φ1~20mm)3%。
第10層	10YR3/4	暗褐色土	10YR2/3	黒褐色土10%、ロームブロック(φ1~50mm)2%、ローム粒(φ1~10mm)1%、礫(φ50mm)1%、軽石(φ1~15mm)5%。
第11層	10YR4/6	褐色土	10YR3/4	暗褐色土5%、軽石(φ1~10mm)2%。
第12層	10YR2/3	黒褐色土		軽石(φ1~5mm)10%。
第13層	10YR3/4	暗褐色土	7.5YR4/4	褐色土10%、ロームブロック(φ40mm)2%、2.5YR4/6
第14層→炉1層			赤褐色土粒(φ10mm)1%、軽石(φ1~3mm)1%。	
炉1層(第14層)	5YR5/8	明赤褐色土	7.5YR5/6	明褐色土30%、礫(φ15~20mm)1%、軽石(φ1~20mm)2%。

第4号竖穴住居跡(SI-4)Pit1(C-C')

第1層	10YR3/4	暗褐色土	10YR6/6	明黄褐色土3%、10YR4/6
				褐色ローム5%、軽石(φ1~20mm)。

第4号竖穴住居跡(SI-4)Pit2(C-C')

第1層	10YR3/4	暗褐色土	10YR6/6	明黄褐色土3%、10YR4/6
				褐色ローム3%、軽石(φ1~10mm)。

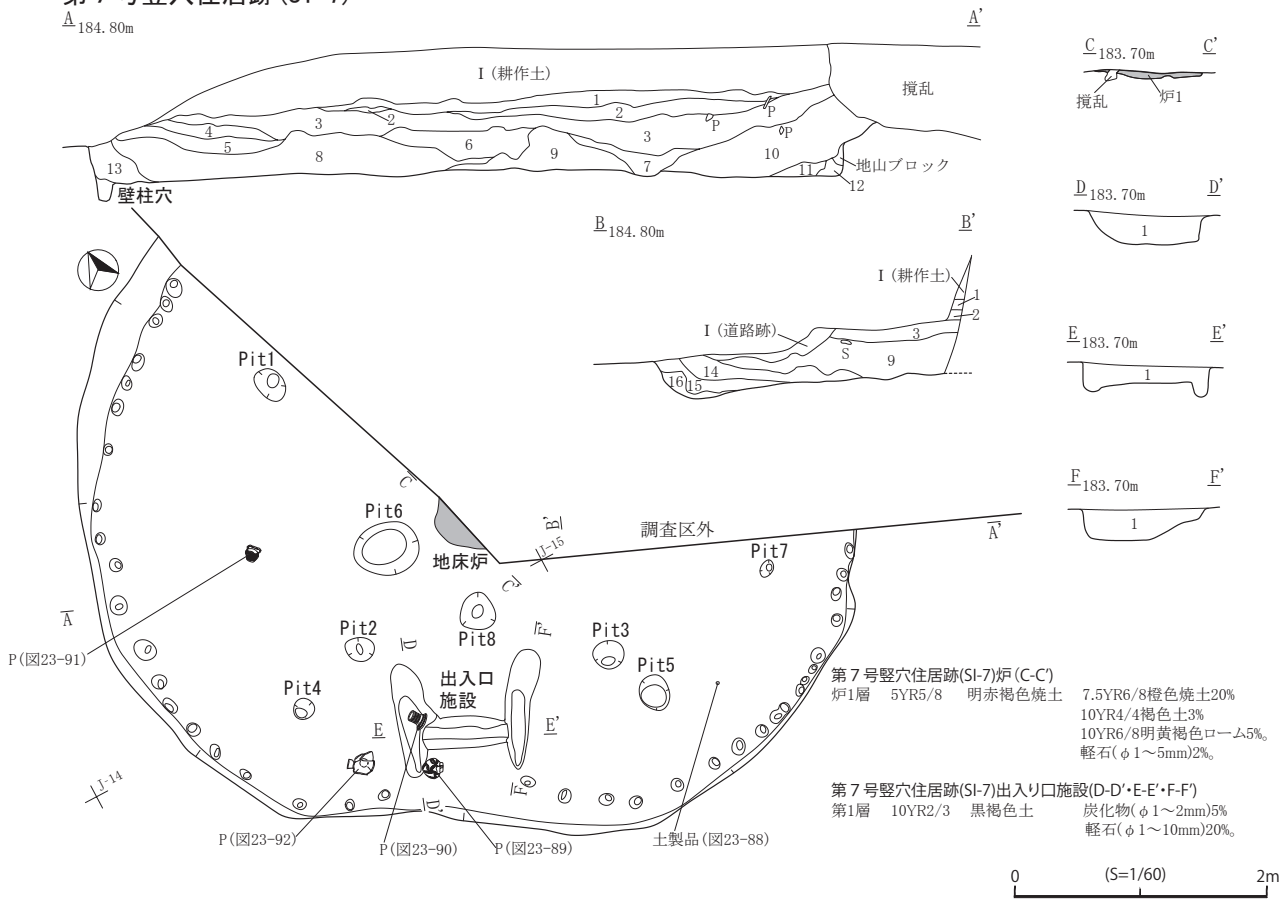
第4号竖穴住居跡(SI-4)出入口施設(E-E')

第1層	10YR3/4	暗褐色土	10YR2/2	黒褐色土5%、10YR6/6
				明黄褐色土、10YR7/8
				黄褐色土5%、10YR5/6
				黄褐色ローム10%、軽石(φ1~15mm)。

図10 竖穴住居跡(5)

第7号竖穴住居跡(SI-7)

A 184.80m



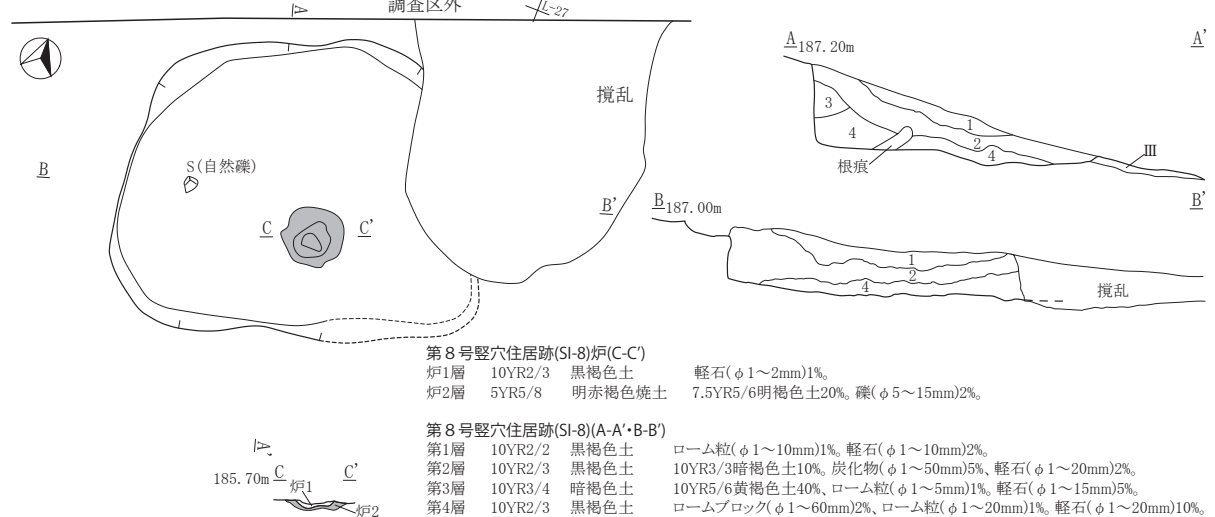
第7号竖穴住居跡(SI-7)炉(C-C)
 炉1層 5YR5/8 明赤褐色焼土 7.5YR6/8 橙色焼土20%
 10YR4/4 褐色土3%
 10YR6/8 明黄褐色ローム5%
 軽石(φ1~5mm)2%。

第7号竖穴住居跡(SI-7)出入口施設(D-D'・E-E'・F-F')
 第1層 10YR2/3 黒褐色土 炭化物(φ1~2mm)5%
 軽石(φ1~10mm)20%。

第7号竖穴住居跡(SI-7)(A-A'・B-B')

第1層	10YR2/2 黒褐色土	10YR3/4 暗褐色土10%、火山灰(B-Tm)3%、5YR4/8 赤褐色焼土粒(φ~1mm)1%未滿、炭化物(φ1mm)1%、軽石(φ1~10mm)5%。
第2層	10YR2/2 黒褐色土	10YR3/4 暗褐色土5%、軽石(φ1~10mm)5%、B-Tm3%、炭化物(φ~1mm)1%、5YR4/8 赤褐色焼土粒(φ~1mm)1%未滿。
第3層	10YR2/3 黒褐色土	10YR3/4 暗褐色土15%、5YR5/8 明赤褐色焼土粒(φ~1mm)2%、炭化物(φ1~10mm)5%、軽石(φ1~20mm)8%。
第4層	10YR2/3 黒褐色土	10YR2/1 黒褐色土3%、炭化物(φ~1mm)1%未滿、軽石(φ1~15mm)20%。
第5層	10YR3/4 暗褐色土	10YR5/8 黄褐色ローム5%、炭化物(φ1~2mm)1%、軽石(φ1~20mm)20%。
第6層	10YR5/8 黄褐色ローム	10YR2/3 黒褐色土5%、炭化物(φ1~5mm)2%、軽石(φ1~10mm)10%。
第7層	10YR2/3 黒褐色土	10YR5/6 黄褐色ローム5%、5YR5/8 明赤褐色焼土粒(φ~1mm)1%未滿、炭化物(φ1~10mm)1%、軽石(φ1~5mm)8%。
第8層	10YR4/4 褐色土	10YR3/4 暗褐色土15%、5YR5/8 明赤褐色焼土粒(φ~1mm)1%、炭化物(φ1~3mm)1%、軽石(φ1~40mm)30%。
第9層	10YR2/3 黒褐色土	10YR4/4 褐色土10%、10YR3/4 暗褐色土5%、5YR5/8 明赤褐色焼土粒(φ~1mm)1%、炭化物(φ1~5mm)3%、軽石(φ1~20mm)30%。
第10層	10YR3/4 暗褐色土	10YR3/4 暗褐色土10%、炭化物(φ1~5mm)2%、礫(φ1~5mm)1%、軽石(φ1~50mm)30%。
第11層	10YR3/4 暗褐色土	炭化物(φ1~8mm)1%、軽石(φ1~20mm)5%。
第12層	10YR4/4 褐色土	10YR2/3 黒褐色土2%、10YR5/6 黄褐色ローム10%、軽石(φ1~5mm)5%。
第13層	10YR4/6 褐色土	炭化物(φ~1mm)1%、軽石(φ1~15mm)10%。
第14層	10YR3/4 暗褐色土	10YR2/3 黒褐色土10%、5YR5/8 明赤褐色焼土粒(φ~1mm)1%、炭化物(φ1~5mm)3%、軽石(φ1~10mm)15%。
第15層	10YR2/3 黒褐色土	炭化物(φ1~2mm)2%、軽石(φ1~10mm)20%。
第16層	10YR3/4 暗褐色土	10YR5/6 黄褐色ローム5%、炭化物(φ1~3mm)1%、軽石(φ1~10mm)10%。

第8号竖穴住居跡(SI-8)



第8号竖穴住居跡(SI-8)炉(C-C)
 炉1層 10YR2/3 黒褐色土 軽石(φ1~2mm)1%。
 炉2層 5YR5/8 明赤褐色焼土 7.5YR5/6 明褐色土20%、礫(φ5~15mm)2%。

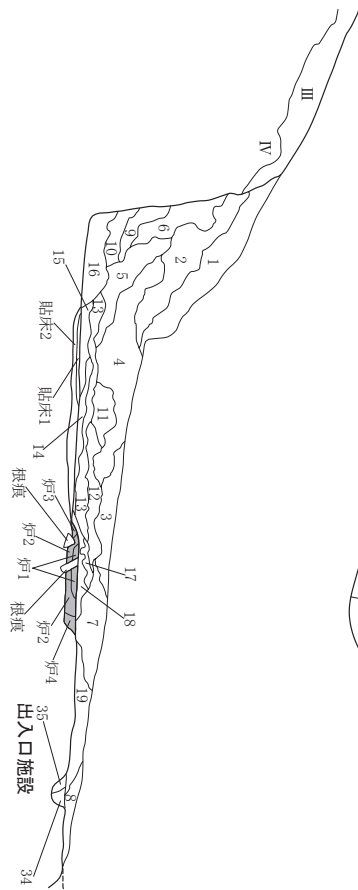
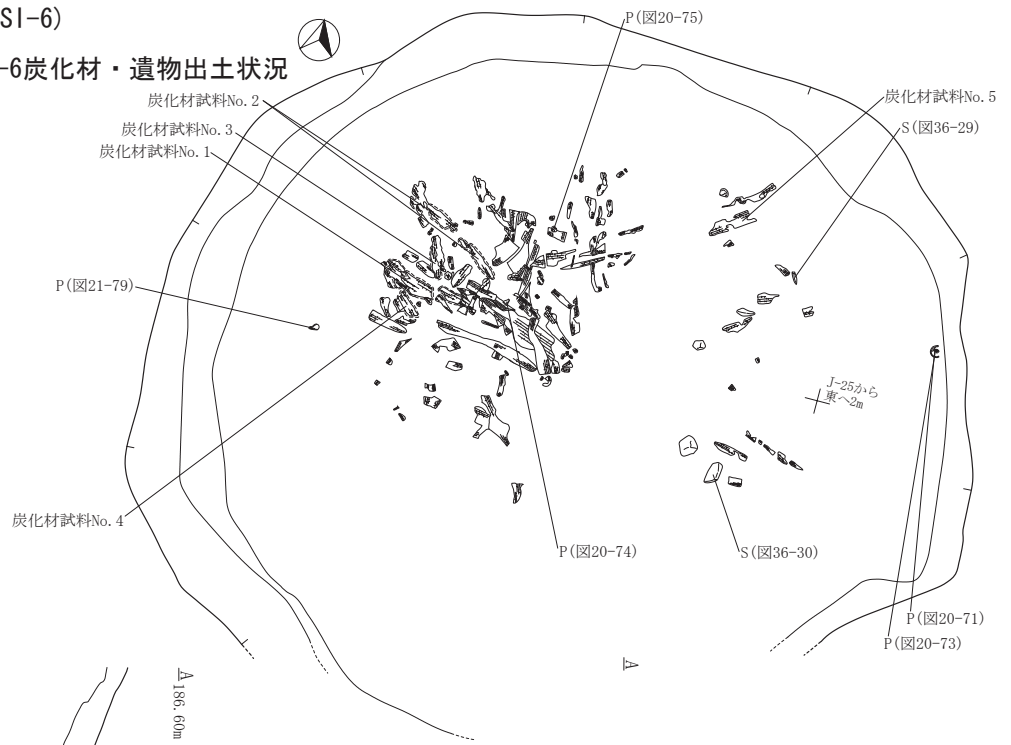
第8号竖穴住居跡(SI-8)(A-A'・B-B')

第1層	10YR2/2 黒褐色土	ローム粒(φ1~10mm)1%、軽石(φ1~10mm)2%。
第2層	10YR2/3 黒褐色土	10YR3/3 暗褐色土10%、炭化物(φ1~50mm)5%、軽石(φ1~20mm)2%。
第3層	10YR3/4 暗褐色土	10YR5/6 黄褐色土40%、ローム粒(φ1~5mm)1%、軽石(φ1~15mm)5%。
第4層	10YR2/3 黒褐色土	ロームブロック(φ1~60mm)2%、ローム粒(φ1~20mm)1%、軽石(φ1~20mm)10%。

図11 竖穴住居跡(6)

第6号竖穴住居跡(SI-6)

SI-6炭化材・遺物出土状況



SI-6新段階

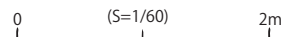
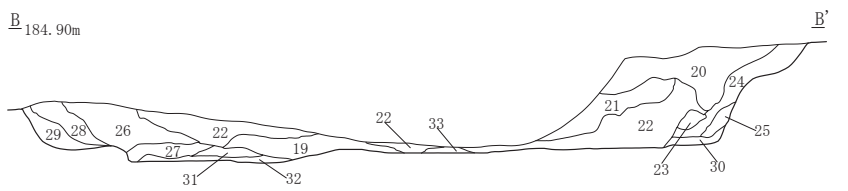
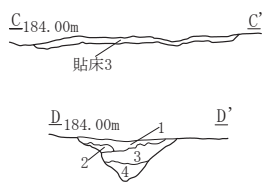
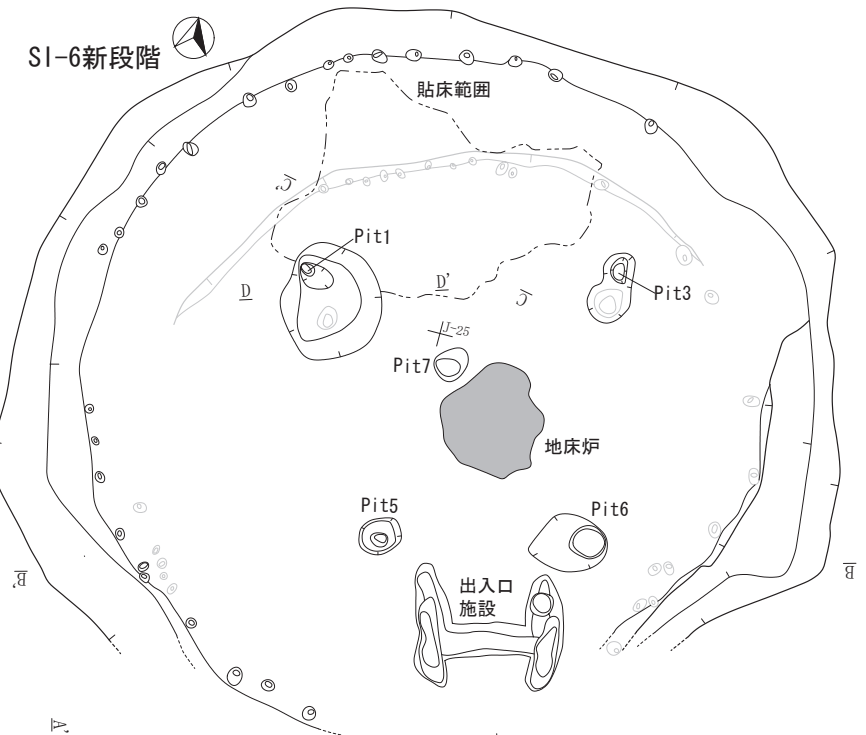
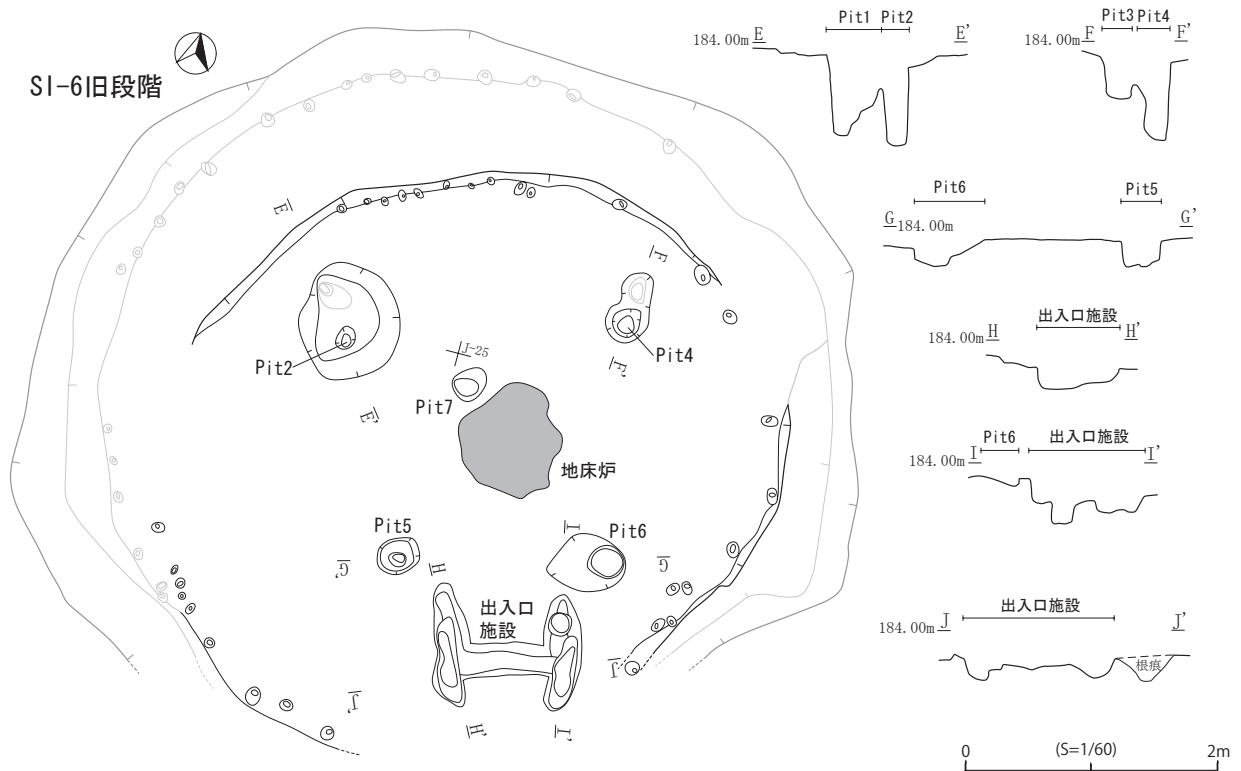


図12 竖穴住居跡(7)



第6号竪穴住居跡(SI-6)(A-A'・B-B')

第1層	10YR2/3	黒褐色土	10YR4/6褐色ローム5%、礫(φ2~10mm)3%、軽石(φ1~7mm)3%。
第2層	10YR3/4	暗褐色土	10YR2/3黒褐色土30%、10YR4/4褐色ローム7%、礫(φ1~5mm)1%、軽石(φ1~30mm)5%。
第3層	10YR2/3	黒褐色土	10YR3/3暗褐色土30%、炭化物(φ1~30mm)1%、礫(φ1~30mm)1%、軽石(φ1~20mm)3%。
第4層	10YR4/4	暗褐色土	10YR2/3黒褐色土10%、10YR4/6褐色ローム粒(φ1~70mm)10%、炭化物(φ3~30mm)1%、軽石(φ1~30mm)5%。
第5層	10YR3/4	暗褐色土	10YR2/1黒色土5%、10YR4/6褐色ローム粒(φ1~50mm)10%、礫(φ2~5mm)3%、軽石(φ1~30mm)5%。
第6層	10YR5/8	黄褐色ローム	10YR3/4暗褐色土30%、10YR2/1黒色土3%、軽石(φ1~2mm)1%。
第7層	10YR3/4	暗褐色土	10YR4/6褐色土10%、炭化物(φ1~20mm)3%、軽石(φ1~10mm)5%。
第8層	10YR3/4	暗褐色土	10YR4/6褐色土3%、炭化物(φ1~2mm)3%、軽石(φ1~5mm)3%。
第9層	10YR5/8	黄褐色ローム	10YR3/2黒褐色土10%、軽石(φ1~5mm)1%。
第10層	10YR3/2	黒褐色土	10YR2/1黒色土5%、10YR4/6褐色ローム20%、10YR5/8黄褐色ローム10%、礫(φ1mm)1%、軽石(φ1mm)1%。
第11層	10YR2/3	黒褐色土	10YR3/4暗褐色土10%、10YR4/6褐色ローム粒(φ1~5mm)3%、炭化物(φ1~130mm)3%、軽石(φ1~20mm)1%。
第12層	10YR3/4	暗褐色土	5Y4/8赤褐色土30%、7.5YR3/4暗褐色土20%、10YR2/1黒色土10%、炭化物(φ1~10mm)3%、軽石(φ1~10mm)5%。
第13層	10YR2/3	黒褐色土	10YR2/1黒色土5%、10YR4/6褐色ローム粒(φ1~30mm)10%、炭化物(φ1~100mm)3%、軽石(φ1~50mm)5%。
第14層	10YR4/4	褐色土	10YR3/4暗褐色土20%、10YR2/1黒色土10%、10YR4/2灰黄褐色土5%、軽石(φ1~5mm)3%。
第15層	10YR5/8	黄褐色ローム	10YR3/4暗褐色土20%、10YR2/3黒褐色土10%、軽石(φ1~30mm)3%。
第16層	10YR5/8	黄褐色ローム	10YR3/4暗褐色土5%、礫(φ1~5mm)1%、軽石(φ1~5mm)3%。
第17層	5Y4/8	赤褐色土	10YR3/4暗褐色土10%、10YR2/1黒色土5%、炭化物(φ1~10mm)1%、軽石(φ1~3mm)1%。
第18層	10YR2/3	黒褐色土	5Y4/8赤褐色土5%、10YR4/6褐色ローム粒(φ1~3mm)3%、軽石(φ1mm)1%。
第19層	10YR3/4	暗褐色土	10YR4/4褐色ローム5%、炭化物(φ1mm)1%、軽石(φ1~30mm)5%。
第20層	10YR2/3	黒褐色土	10YR2/1黒色土20%、ローム粒(φ1~3mm)2%、炭化物(φ20mm)1%、礫(φ1~30mm)3%、軽石(φ15~30mm)2%。
第21層	10YR2/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~3mm)1%、炭化物(φ2~20mm)2%、礫(φ2~30mm)2%、軽石(φ2~10mm)3%。
第22層	10YR3/3	黒褐色土	ローム粒(φ1~10mm)2%、礫(φ2~20mm)1%、軽石(φ1~10mm)3%。
第23層	10YR2/3	黒褐色土と10YR4/6褐色土の混合土	炭化物(φ20mm)2%、礫(φ35mm)、軽石(φ1~40mm)8%。
第24層	10YR2/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~2mm)2%、炭化物(φ1~2mm)1%、軽石(φ1~25mm)3%。
第25層	10YR2/3	黒褐色土	10YR2/2黒褐色土30%、ローム粒(φ1~10mm)2%。
第26層	10YR2/3	黒褐色土	ローム粒(φ1~2mm)2%、礫(φ1~10mm)2%、軽石(φ1~15mm)2%。
第27層	10YR2/2	黒褐色土	10YR3/3暗褐色土30%、ロームブロック(φ~60mm)15%、ローム粒(φ1~2mm)1%、軽石(φ10~20mm)2%。
第28層	10YR2/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~2mm)2%、礫(φ2~8mm)3%。
第29層	10YR2/2	黒褐色土	10YR3/3暗褐色土10%、ロームブロック(φ20~30mm)8%、ローム粒(φ1~3mm)3%、礫(φ1~5mm)1%。
第30層	10YR2/3	黒褐色土	10YR3/3暗褐色土10%、ロームブロック(φ50mm)10%。
第31層	10YR3/4	暗褐色土	10YR2/3黒褐色土10%、ロームブロック(φ20~50mm)40%、軽石(φ20mm)1%。
第32層	10YR5/6	黄褐色土	10YR3/4暗褐色土20%、軽石(φ1~30mm)1%。
第33層	10YR4/4	褐色土	10YR4/6褐色土10%、軽石(φ1~2mm)3%。
第34層	10YR4/4	褐色土と10YR3/4暗褐色土の混合土	軽石(φ1~2mm)2%。
第35層	10YR4/4	褐色土	軽石(φ1~2mm)1%。

第6号竪穴住居跡(SI-6)炉(A-A')

炉1層	5YR5/8	明赤褐色焼土	5YR4/4にぶい赤褐色焼土5%、炭化物(φ1~5mm)2%、軽石(φ1mm)1%未満。
炉2層	5YR4/8	赤褐色焼土	7.5YR4/6褐色土30%、炭化物(φ20mm)3%、軽石(φ1mm)1%。
炉3層	10YR3/4	暗褐色土	炭化物(φ1mm)1%、軽石(φ1~2mm)2%。
炉4層	10YR4/4	褐色土	5YR4/4にぶい赤褐色焼土5%、炭化物(φ1~5mm)2%、軽石(φ1mm)1%。

第6号竪穴住居跡(SI-6)貼床(A-A'・C-C')

貼床1	10YR5/6	黄褐色土	7.5YR5/4にぶい褐色土10%、軽石(φ1mm)3%。
貼床2	10YR3/2	黒褐色土	10YR4/6褐色土10%、軽石(φ1mm)3%。
貼床3	10YR3/4	暗褐色土	10YR2/3黒褐色土10%、10YR5/8黄褐色ローム10%、10YR4/6褐色ローム10%、軽石(φ1~10mm)1%。

第6号竪穴住居跡(SI-6)Pit1(D-D')

第1層	10YR2/3	黒褐色土	10YR1.7/1黒色土7%、10YR3/4暗褐色土3%、10YR5/8黄褐色ローム10%、炭化物(φ1~50mm)1%、軽石(φ40mm)1%。
第2層	10YR4/6	褐色ローム	10YR3/4暗褐色土3%、礫(φ1~3mm)1%。
第3層	10YR3/4	暗褐色土	10YR4/6褐色ローム20%、10YR2/3黒褐色土10%、10YR1.7/1黒色土10%、炭化物(φ1~30mm)3%。
第4層	10YR4/6	褐色ローム	10YR1.7/1黒色土5%、10YR3/4暗褐色土10%、軽石(φ1~10mm)1%。

図13 竪穴住居跡(8)

第1号掘立柱建物跡(SB-1)/第3号土坑(SK-3)/第2号焼土遺構(SN-2)

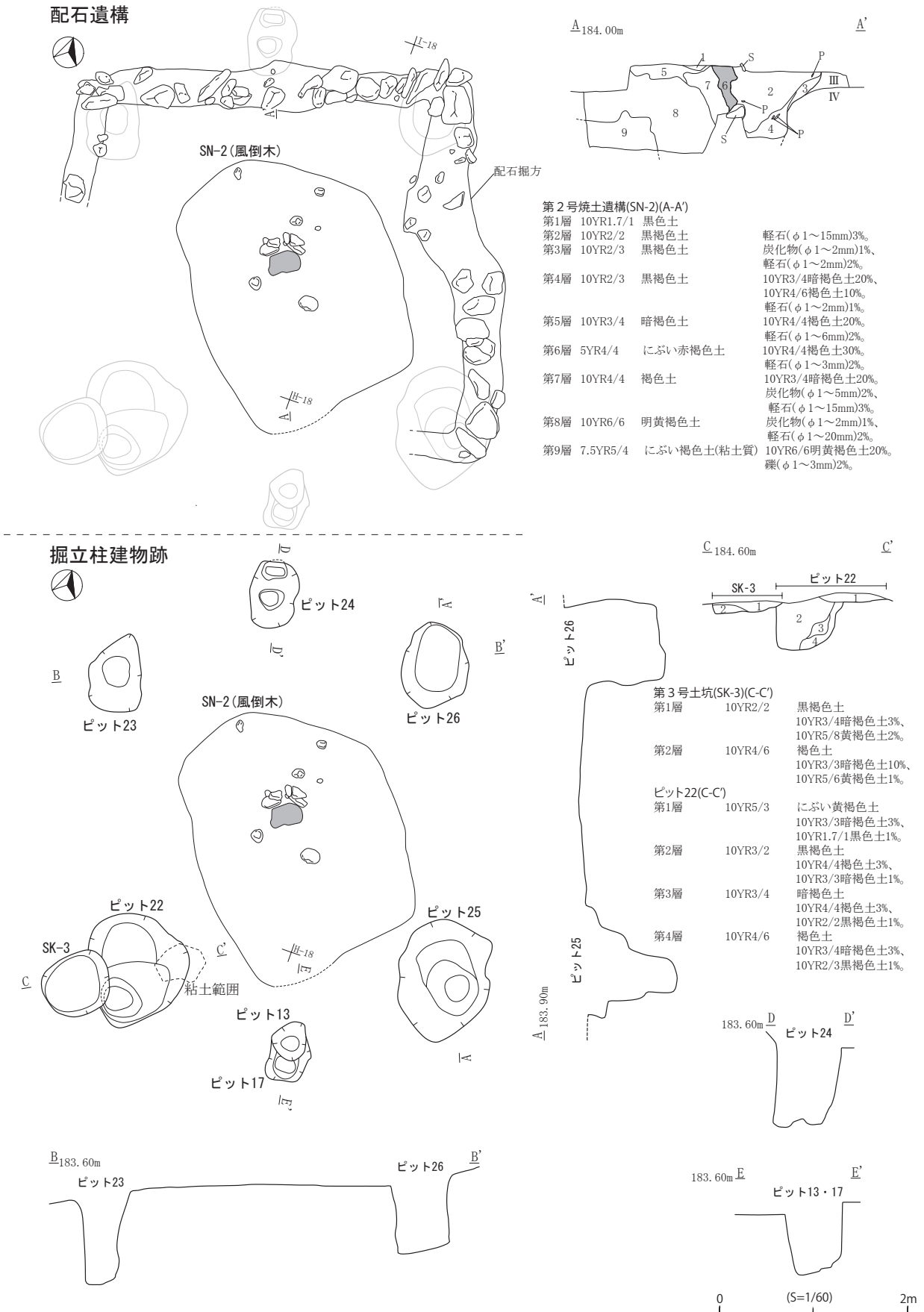
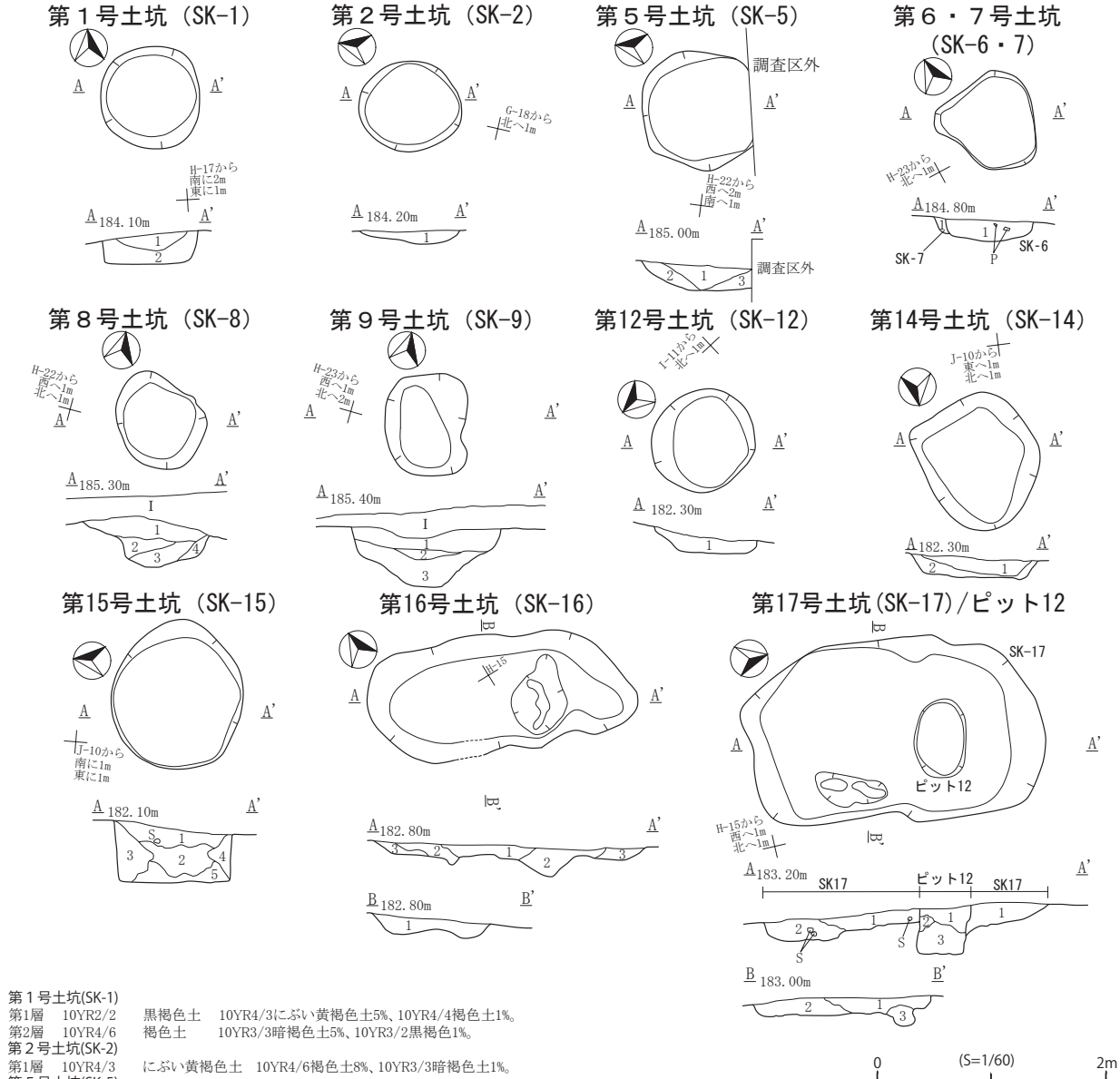
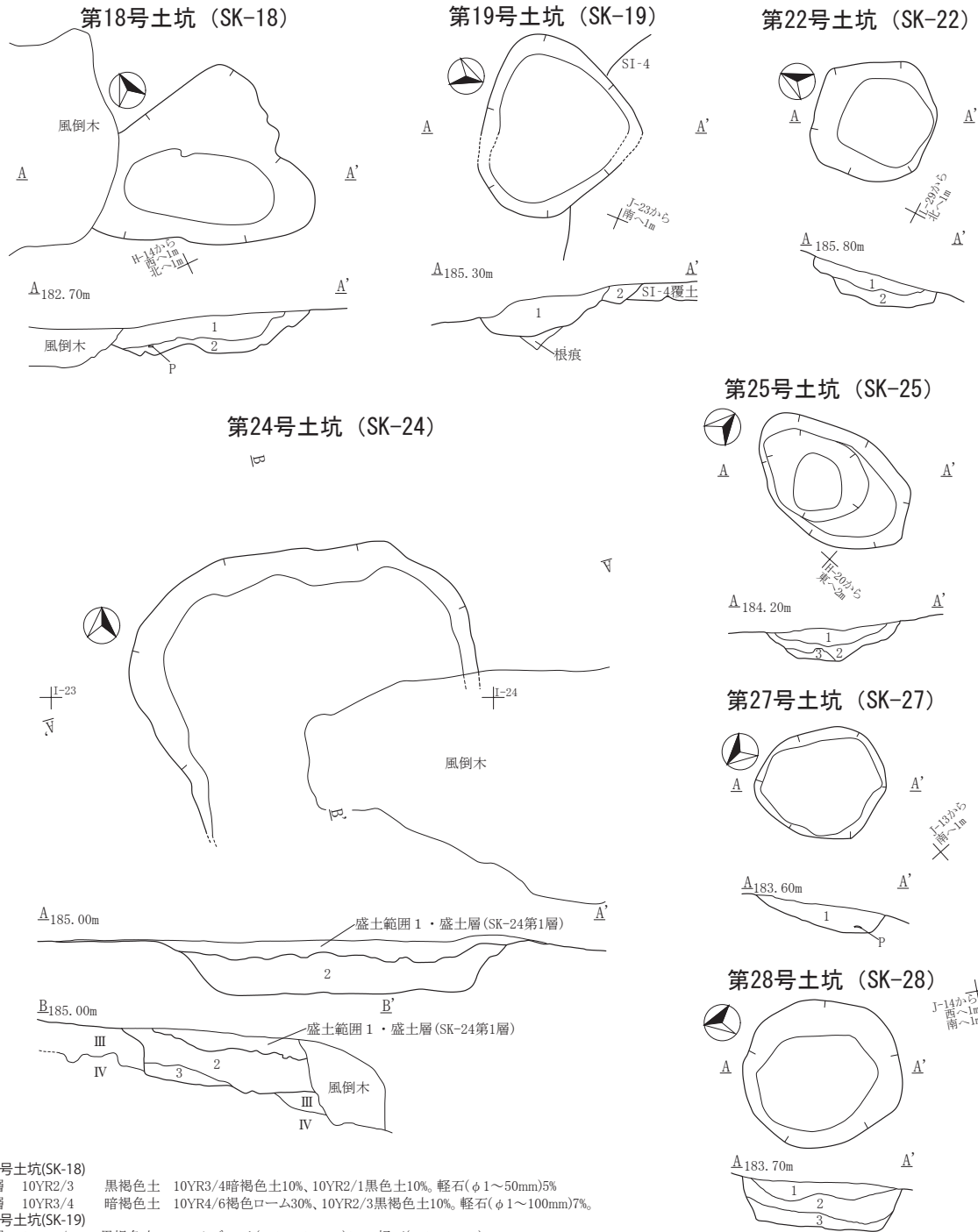


図14 掘立柱建物跡



第1号土坑(SK-1)	第1層 10YR2/2 黒褐色土	10YR4/3にぶい黄褐色土5%、10YR4/4褐色土1%。
第2層 10YR4/6 褐色土	10YR3/3暗褐色土5%、10YR3/2黒褐色1%。	
第2号土坑(SK-2)	第1層 10YR4/3 にぶい黄褐色土	10YR4/6褐色土8%、10YR3/3暗褐色土1%。
第5号土坑(SK-5)	第1層 10YR2/2 黒褐色土	10YR3/3暗褐色土2%、10YR4/6褐色土1%。
第2層 10YR4/6 褐色土	10YR3/4暗褐色土3%、10YR2/1黒色土1%。	
第3層 10YR4/4 褐色土	10YR3/3暗褐色土5%、10YR2/1黒色土1%。	
第6号土坑(SK-6)	第1層 10YR2/2 黒褐色土	10YR6/8明黄褐色土3%、10YR6/4にぶい黄褐色土1%、炭化物1%。
第7号土坑(SK-7)	第1層 10YR2/2 黒褐色土	10YR4/6褐色土10%、10YR5/6黄褐色土1%、10YR2/1黒色土1%。
第8号土坑(SK-8)	第1層 10YR2/3 黒褐色土	10YR2/1黒色土5%、10YR4/6褐色土1%、炭化物1%。
第2層 10YR3/4 暗褐色土	10YR4/6褐色土3%、10YR5/6黄褐色土1%。	
第3層 10YR3/3 暗褐色土	10YR4/4褐色土3%、炭化物1%。	
第4層 10YR4/6 褐色土	10YR3/4暗褐色土8%、10YR3/2黒褐色土1%。	
第9号土坑(SK-9)	第1層 10YR2/1 黒色土	10YR3/2黒褐色土20%、10YR8/8黄褐色粒(1~2mm)2%。
第2層 10YR3/2 黒褐色土	10YR2/1黒色土5%、10YR8/8黄褐色粒(1~2mm)1%。	
第3層 10YR5/8 黄褐色土	10YR3/1黒褐色土3%、10YR8/8黄褐色粒(2~5mm)1%。	
第12号土坑(SK-12)	第1層 10YR2/3 黒褐色土	10YR3/4暗褐色土5%、ロームブロック(φ20~30mm)3%、炭化物(φ1~3mm)2%、軽石(φ1~5mm)10%。
第14号土坑(SK-14)	第1層 10YR3/4 暗褐色土	軽石(φ~20mm)10%。
第2層 10YR3/4 暗褐色土	10YR4/6褐色土10%、ロームブロック(φ~30mm)1%、軽石(φ~10mm)1%。	
第15号土坑(SK-15)	第1層 10YR3/4 暗褐色土	10YR2/3黒褐色土3%、10YR4/6褐色ローム10%、炭化物(φ1~10mm)1%、礫(φ30mm)少量、軽石(φ1~30mm)3%。
第2層 10YR2/3 黒褐色土	10YR4/6褐色ローム5%、炭化物(φ1~3mm)1%、軽石(φ1~20mm)2%。	
第3層 10YR4/6 褐色ローム	10YR2/3黒褐色土10%、10YR3/4暗褐色土10%、礫(φ1~10mm)1%、軽石(φ1~30mm)1%。	
第4層 10YR4/6 褐色ローム	10YR3/4暗褐色土20%、10YR2/3黒褐色土5%、炭化物(φ1~5mm)1%。	
第5層 10YR3/4 暗褐色土	10YR4/6褐色ローム20%、炭化物(φ1~5mm)1%、軽石(φ1~5mm)3%。	
第16号土坑(SK-16)	第1層 10YR2/3 黒褐色土	10YR4/6褐色土10%、ロームブロック(φ~50mm)2%、ローム粒(φ~10mm)1%。
第2層 10YR2/2 黒褐色土	10YR3/4暗褐色土5%、ローム粒(φ~20mm)1%。	
第3層 10YR3/3 暗褐色土	ロームブロック(φ~50mm)2%、軽石(φ~20mm)1%。	
第17号土坑(SK-17)	第1層 10YR2/2 黒褐色土	10YR3/4暗褐色土20%、10YR4/6褐色ローム10%、10YR2/1黒色土5%、炭化物(φ1mm)1%、軽石(φ2~15mm)5%。
第2層 10YR3/4 暗褐色土	10YR2/2黒褐色土20%、10YR4/6褐色ローム粒(φ1~50mm)5%、炭化物(φ1mm)1%未満、軽石(φ1~10mm)3%。	
第3層 10YR4/6 褐色ローム	10YR3/4暗褐色土20%、10YR2/1黒色土1%、軽石(φ1~30mm)3%。	
ピット12	第1層 10YR2/3 黒褐色土	10YR3/4暗褐色土10%、軽石(φ1~30mm)3%。
第2層 10YR4/6 褐色ローム	10YR2/3黒褐色土20%、軽石(φ1~10mm)1%。	
第3層 10YR3/4 暗褐色土	10YR4/6褐色ローム20%、10YR2/3黒褐色土10%、軽石(φ1~40mm)3%。	

図15 土坑 (1)

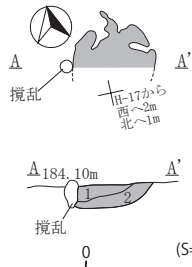


第18号土坑(SK-18)	
第1層 10YR2/3	黒褐色土 10YR3/4暗褐色土10%、10YR2/1黒色土10%、軽石(φ1~50mm)5%
第2層 10YR3/4	暗褐色土 10YR4/6褐色ローム30%、10YR2/3黒褐色土10%、軽石(φ1~100mm)7%
第19号土坑(SK-19)	
第1層 10YR2/2	黒褐色土 ロームブロック(φ10~100mm)10%、軽石(φ1~10mm)2%
第2層 10YR3/3	暗褐色土 10YR3/4暗褐色土20%、ロームブロック(φ50mm)3%、軽石(φ1~5mm)2%
第22号土坑(SK-22)	
第1層 10YR3/3	暗褐色土 10YR2/3黒褐色土3%、ローム粒(φ10~20mm)2%、炭化物(φ1~3mm)1%、軽石(φ1~10mm)5%
第2層 10YR2/3	黒褐色土 10YR3/3暗褐色土10%、ロームブロック(φ20~30mm)8%、炭化物(φ~1mm)1%、軽石(φ1~10mm)3%
第24号土坑(SK-24)	
第1層→盛土範囲1・盛土層	
第2層 10YR1.7/1	黒色土 10YR2/3黒褐色土5%、炭化物(φ1~10mm)2%、軽石(φ1~5mm)2%
第3層 10YR2/2	黒褐色土 10YR3/4暗褐色土15%、10YR1.7/1黒色土10%、炭化物(φ~1mm)2%、軽石(φ1~5mm)2%
盛土層範囲1	
盛土層 10YR2/3	黒褐色土 ロームブロック(φ10~120mm)30%、炭化物(φ1~10mm)2%、軽石(φ1~20mm)10%
第25号土坑(SK-25)	
第1層 10YR2/3	黒褐色土 10YR3/4暗褐色土7%、10YR4/6褐色ローム3%、炭化物(φ1~10mm)3%、軽石(φ1~20mm)3%
第2層 10YR3/4	暗褐色土 10YR4/6褐色ローム30%、10YR2/3黒褐色土10%、軽石(φ1~30mm)5%
第3層 10YR5/8	黄褐色土 10YR2/3黒褐色土10%、礫(φ20mm)1%、軽石(φ1~10mm)3%
第27号土坑(SK-27)	
第1層 10YR2/1	黒色土 10YR3/2暗褐色土10%、ローム粒(φ1mm)2%、炭化物(φ~1mm)1%、軽石(φ1~10mm)3%
第28号土坑(SK-28)	
第1層 10YR3/3	暗褐色土 10YR4/3こぶい黄褐色土5%、軽石(φ1~10mm)10%
第2層 10YR3/4	暗褐色土 10YR2/3黒褐色土5%、ロームブロック(φ1~30mm)3%、軽石(φ1~50mm)10%
第3層 10YR4/6	褐色土 ロームブロック(φ1~30mm)3%、軽石(φ1~100mm)10%

0 (S=1/60) 2m

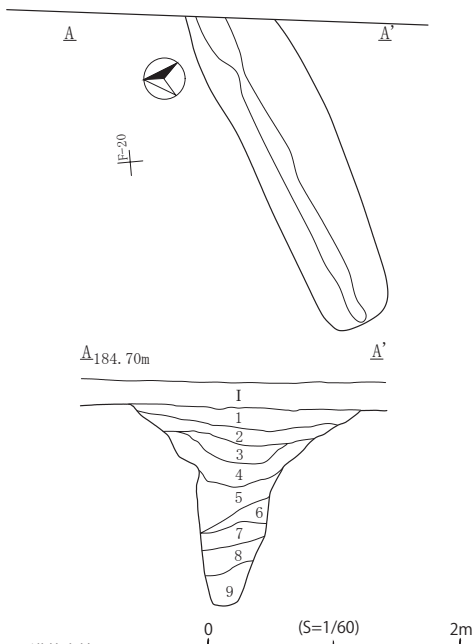
図16 土坑(2)

第1号焼土遺構 (SN-1)



第1号焼土遺構(SN-1)
 第1層 10YR3/4 暗褐色土 10YR2/3黒褐色土5%、10YR2/1黒色土1%。
 第2層 10YR2/3 黒褐色土 10YR3/2黒褐色土3%、10YR4/4褐色土1%。

第1号溝状土坑 (SV-1)



第1号溝状土坑(SV-1)
 第1層 10YR2/2 黒褐色土 10YR3/4暗褐色土3%、10YR2/1黒色土1%。
 第2層 10YR2/3 黒褐色土 10YR3/4暗褐色土3%、10YR4/6褐色土1%。
 第3層 10YR2/3 黒褐色土 10YR3/4暗褐色土5%、10YR4/6褐色土1%。
 第4層 10YR3/4 暗褐色土 10YR4/6褐色土5%、10YR2/2黒褐色土3%。
 第5層 10YR3/4 暗褐色土 10YR5/8黄褐色土3%、10YR2/3黒褐色土2%。
 第6層 10YR5/6 黄褐色土 10YR3/3暗褐色土5%、10YR2/3黒褐色土3%。
 第7層 10YR5/8 黄褐色土 10YR2/3黒褐色土10%、10YR4/4褐色土3%。
 第8層 10YR5/8 黄褐色土 10YR3/4暗褐色土5%、10YR2/2黒褐色土1%。
 第9層 10YR5/6 黄褐色土 10YR3/4暗褐色土3%、10YR4/6褐色土1%。

ピット計測表

番号	最大径(cm)	深さ(cm)	最下点 標高値(m)
12	69.9	33.0	182.48
16	61.0	64.0	182.21
18	44.3	35.0	183.64
19	37.6	69.0	183.51
20	34.2	22.1	183.47
21	28.2	24.0	183.38

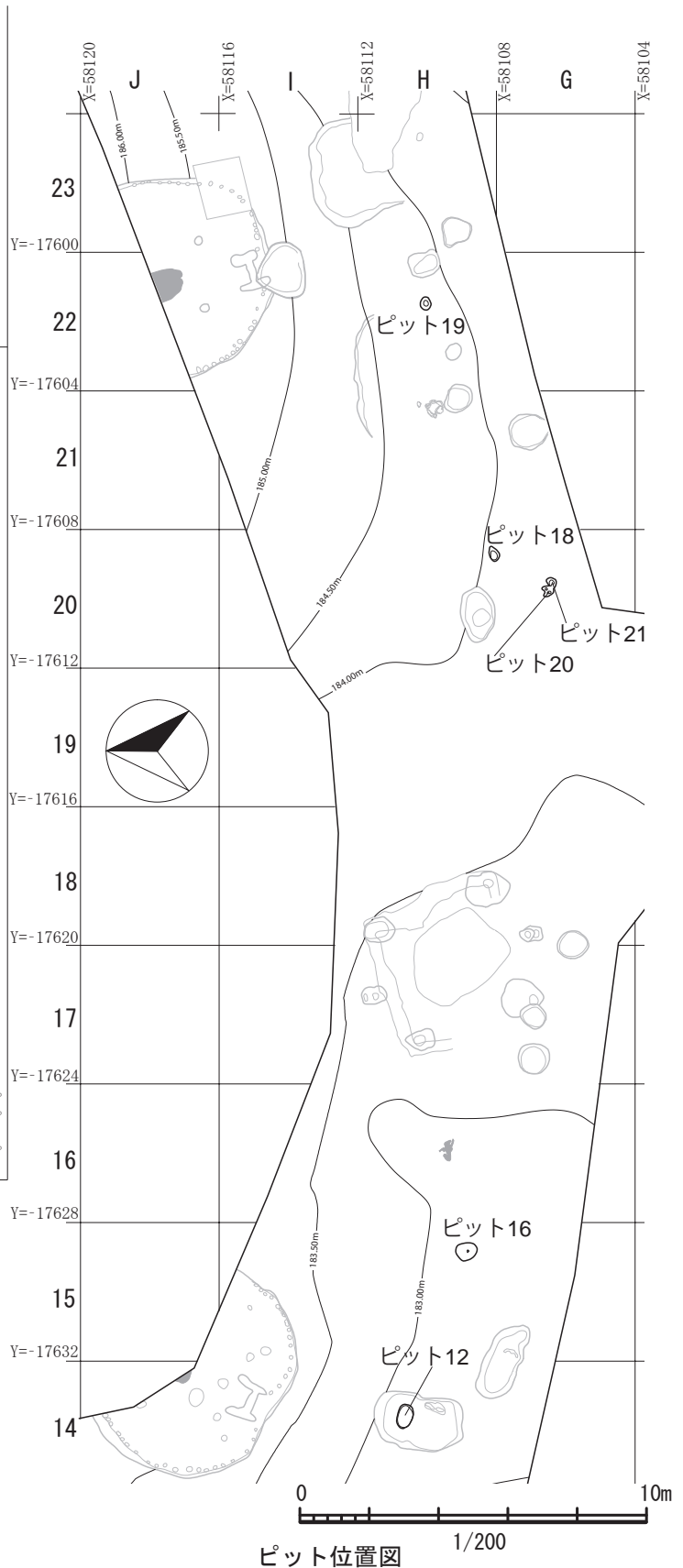


図17 焼土遺構/溝状土坑/ピット

第1号竖穴住居跡 (SI-1)

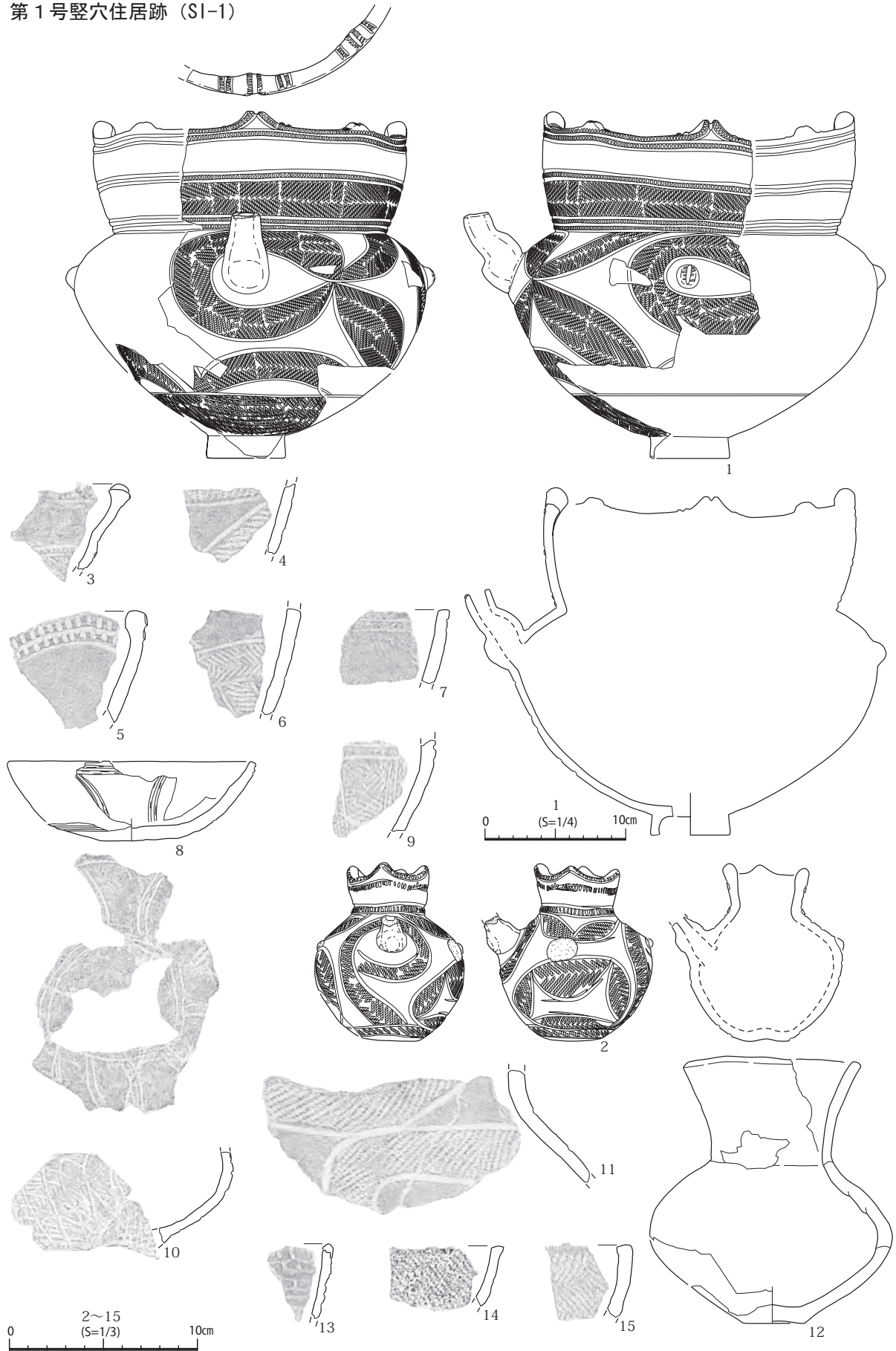


图18 土器・土製品 (1)

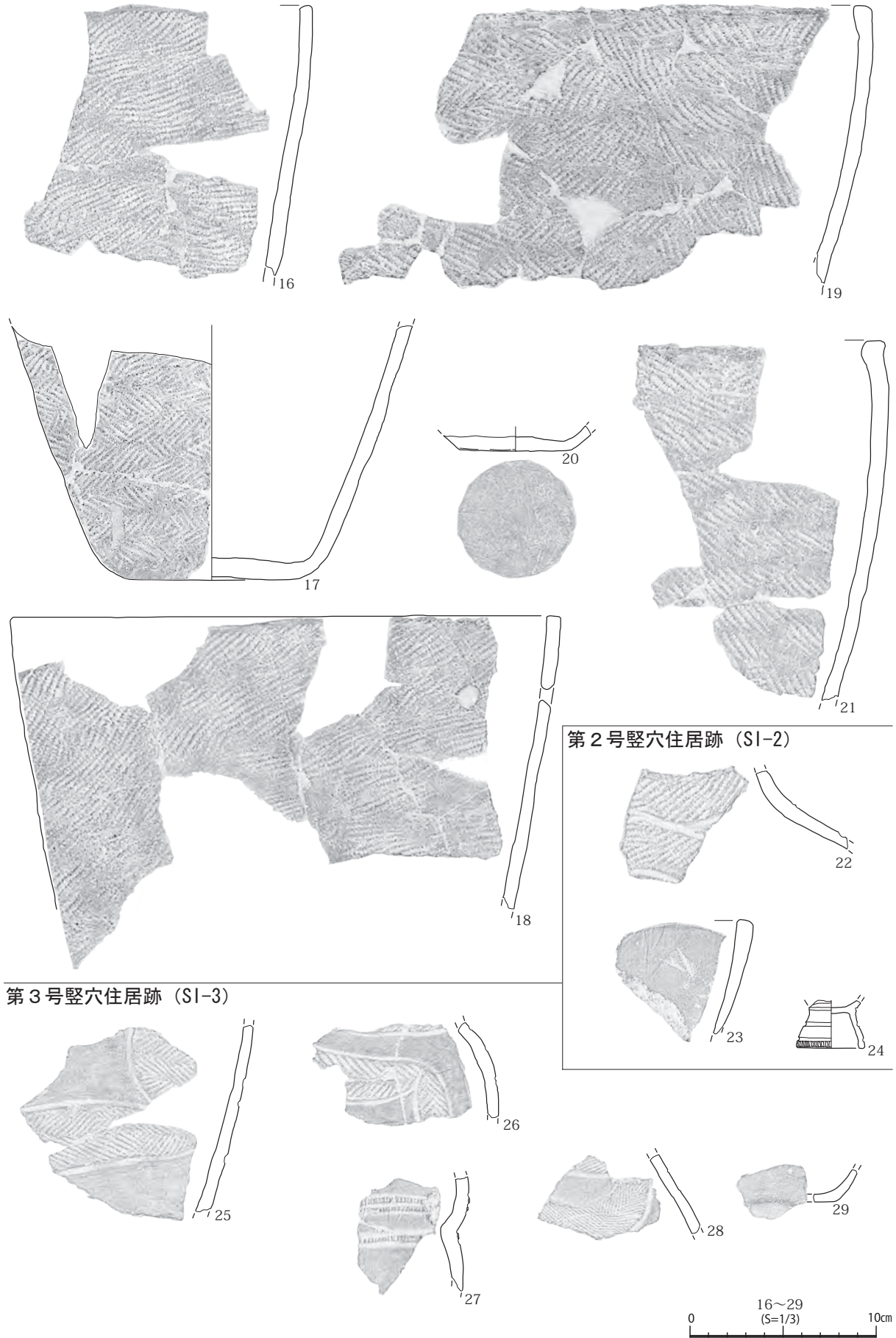


図19 土器・土製品 (2)

第4号竖穴住居跡 (SI-4)

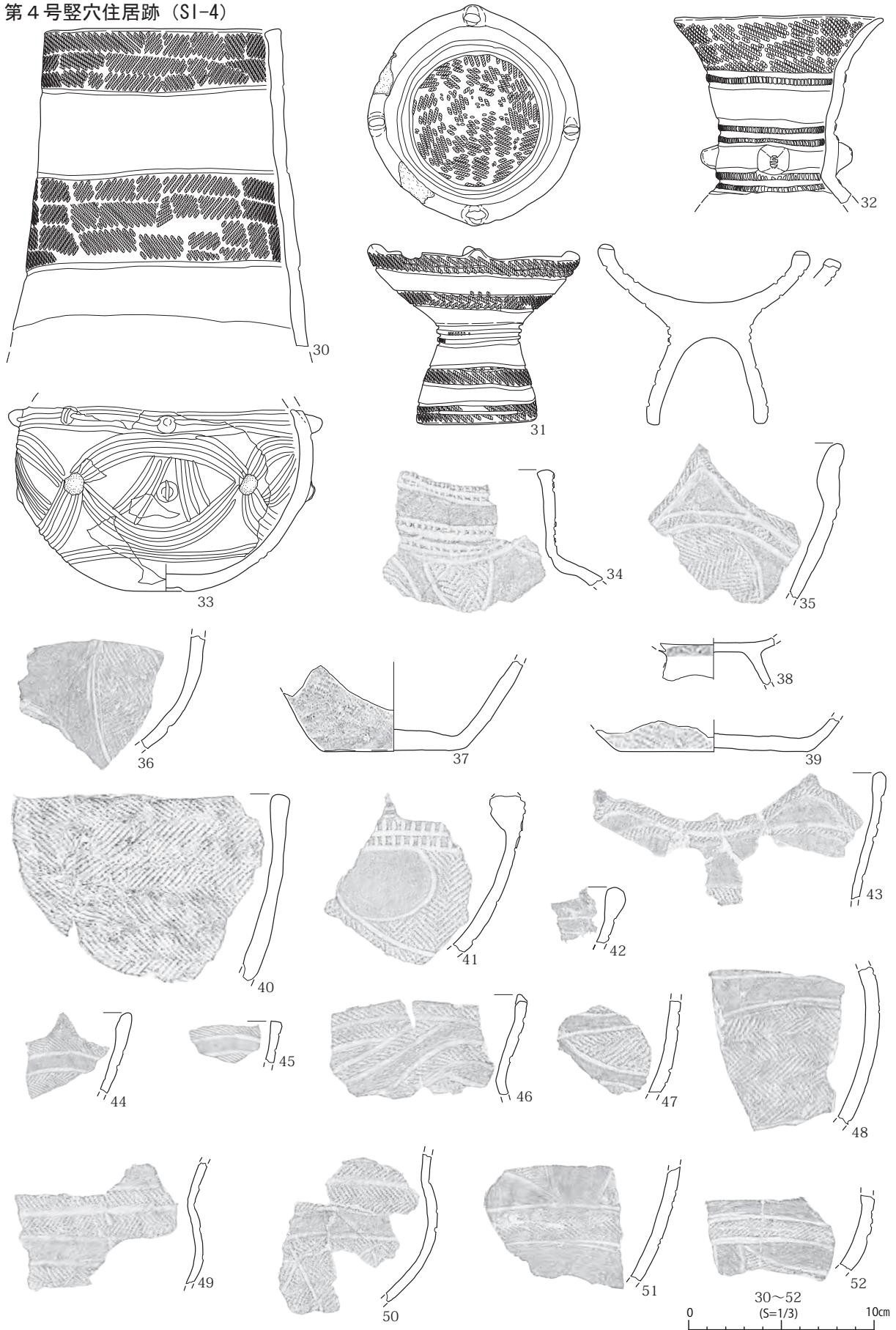
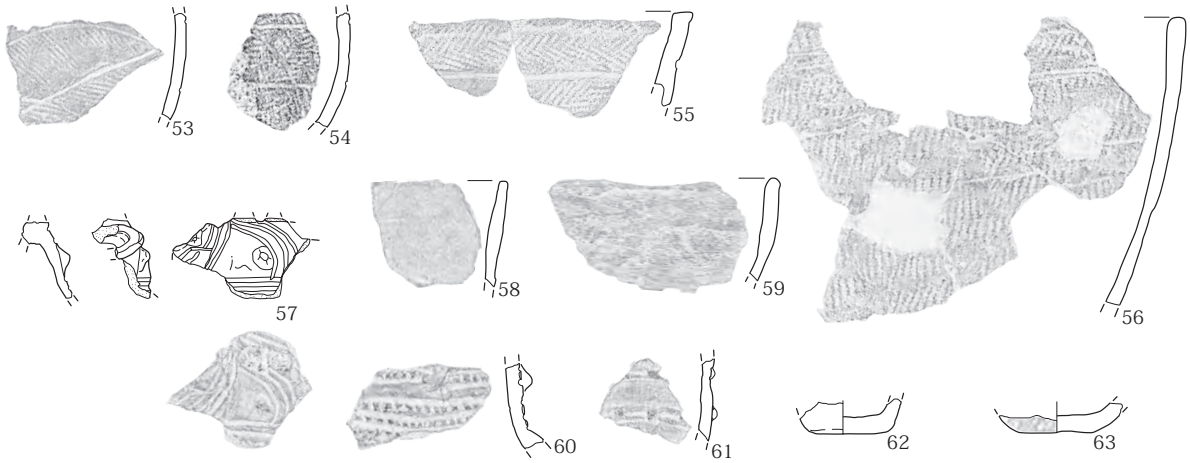
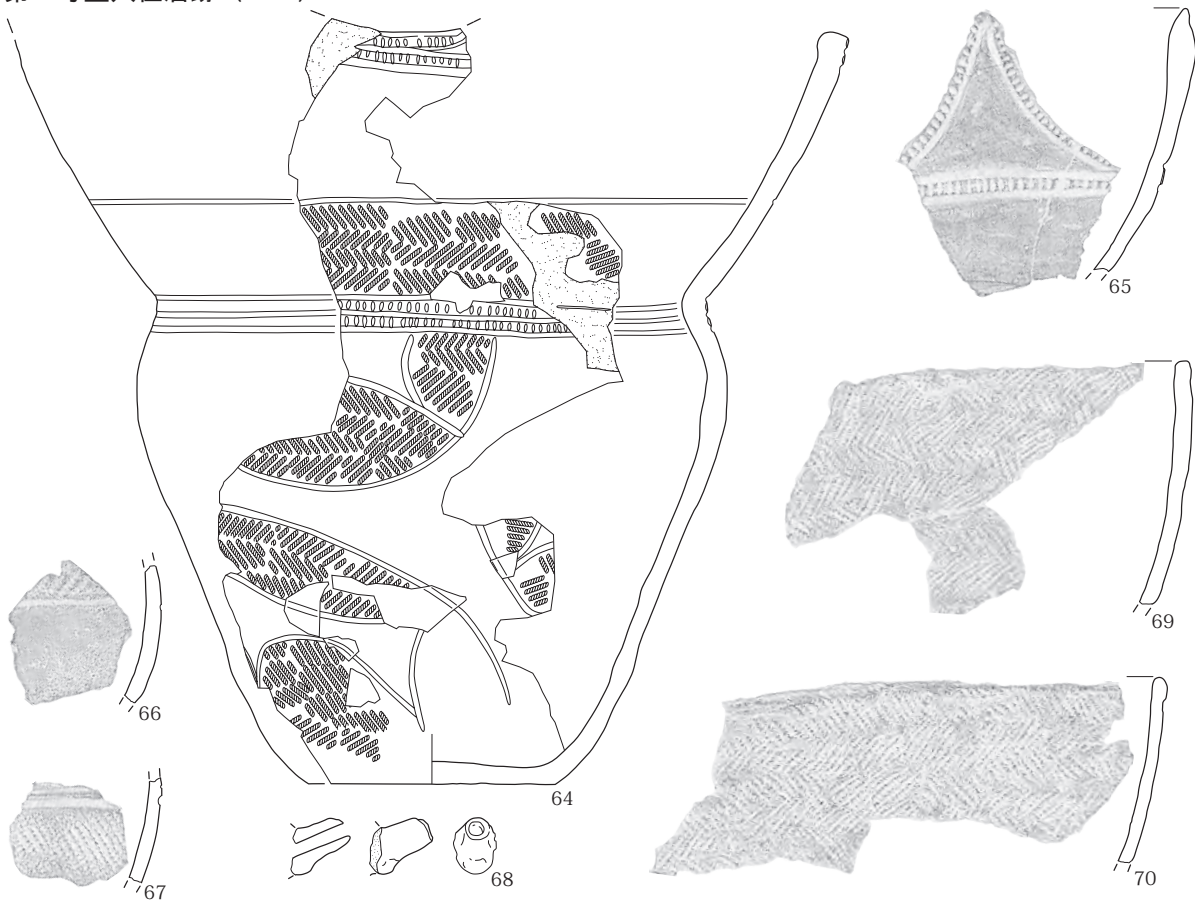


图20 土器・土製品 (3)



第5号竖穴住居跡 (SI-5)



第6号竖穴住居跡 (SI-6)

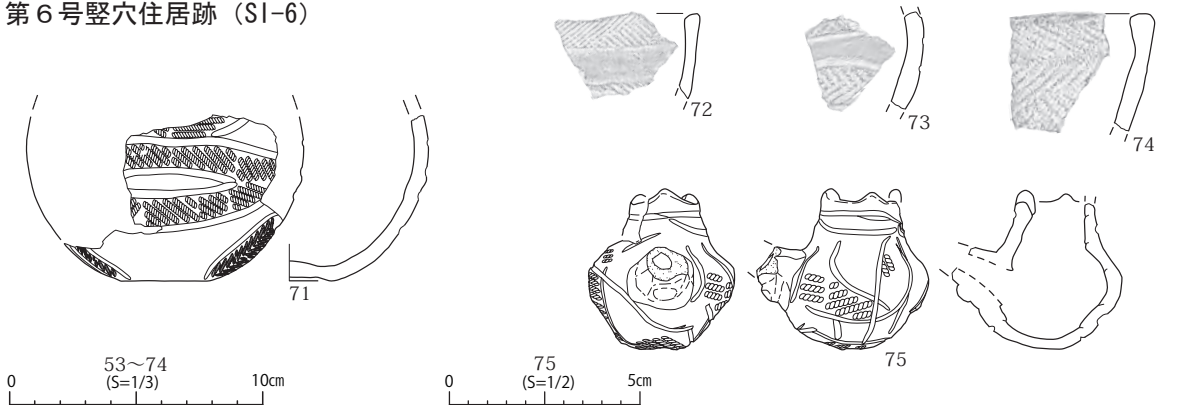
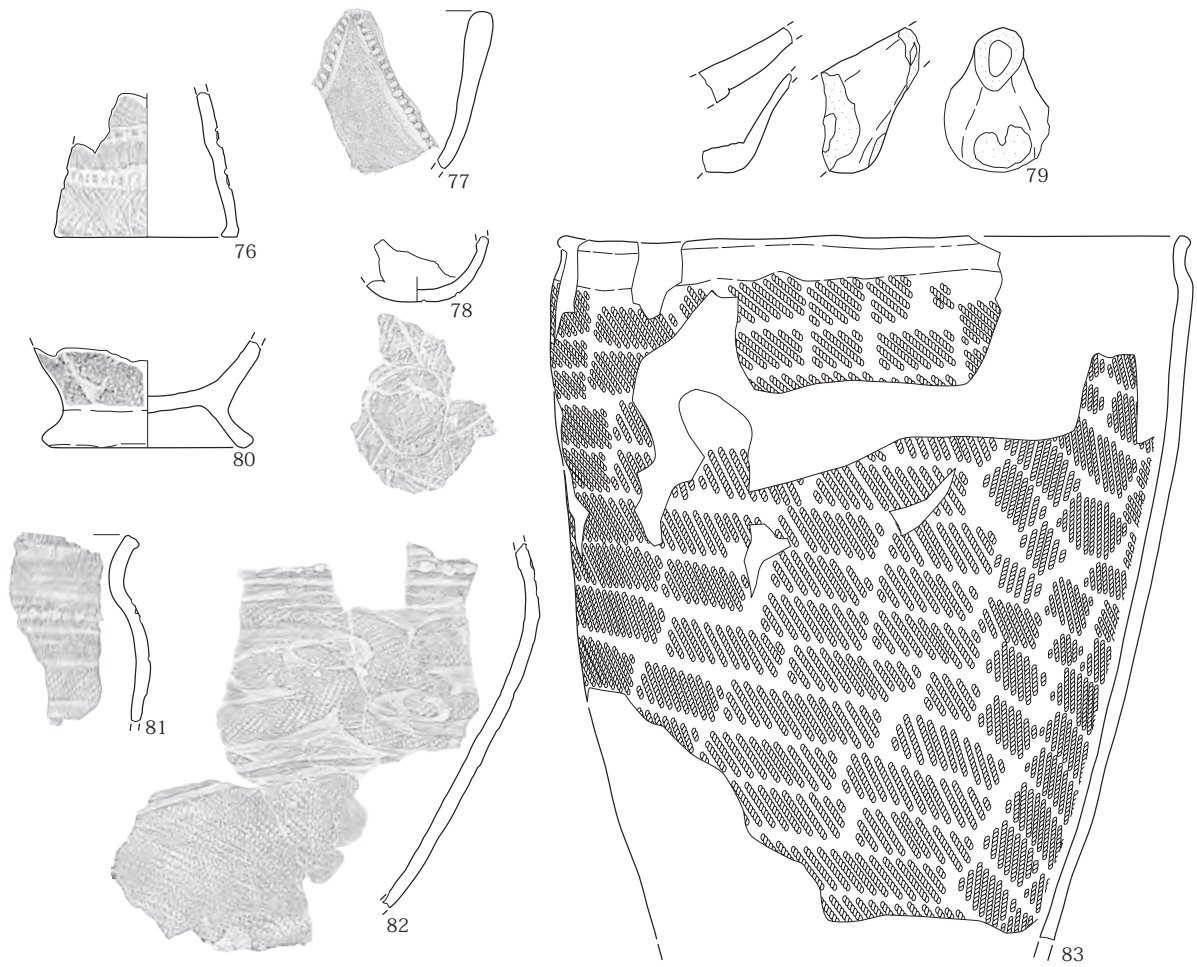
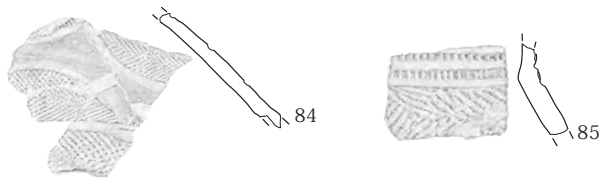


図21 土器・土製品 (4)



第8号竖穴住居跡 (SI-8)



第9号竖穴住居跡 (SI-9)

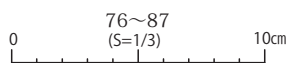
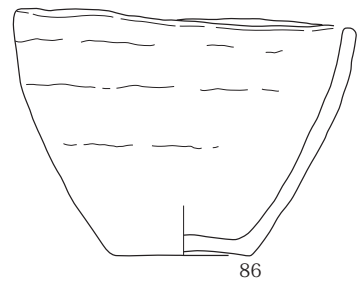


图22 土器・土製品 (5)

第7号竖穴住居跡 (SI-7)

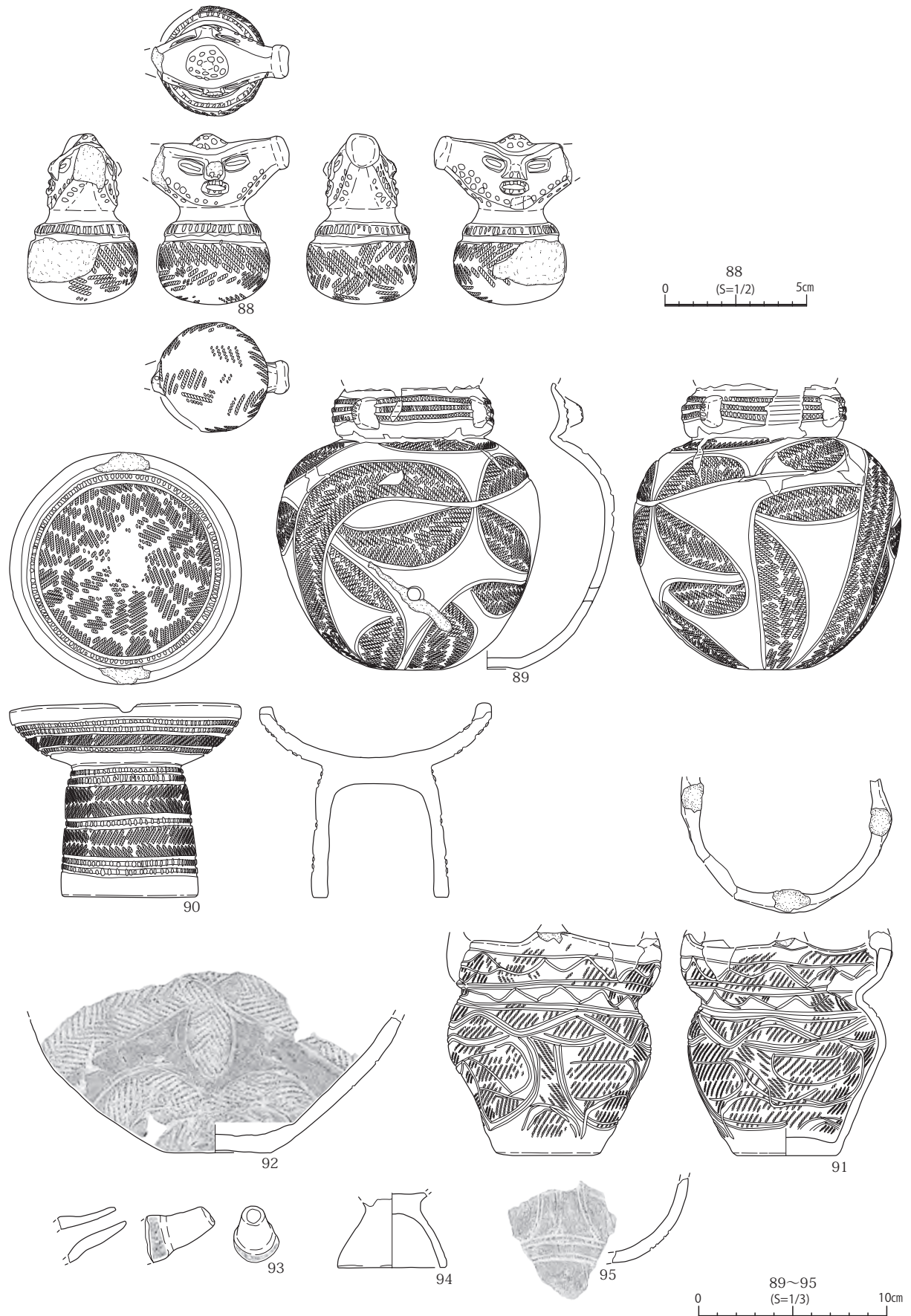


図23 土器・土製品 (6)

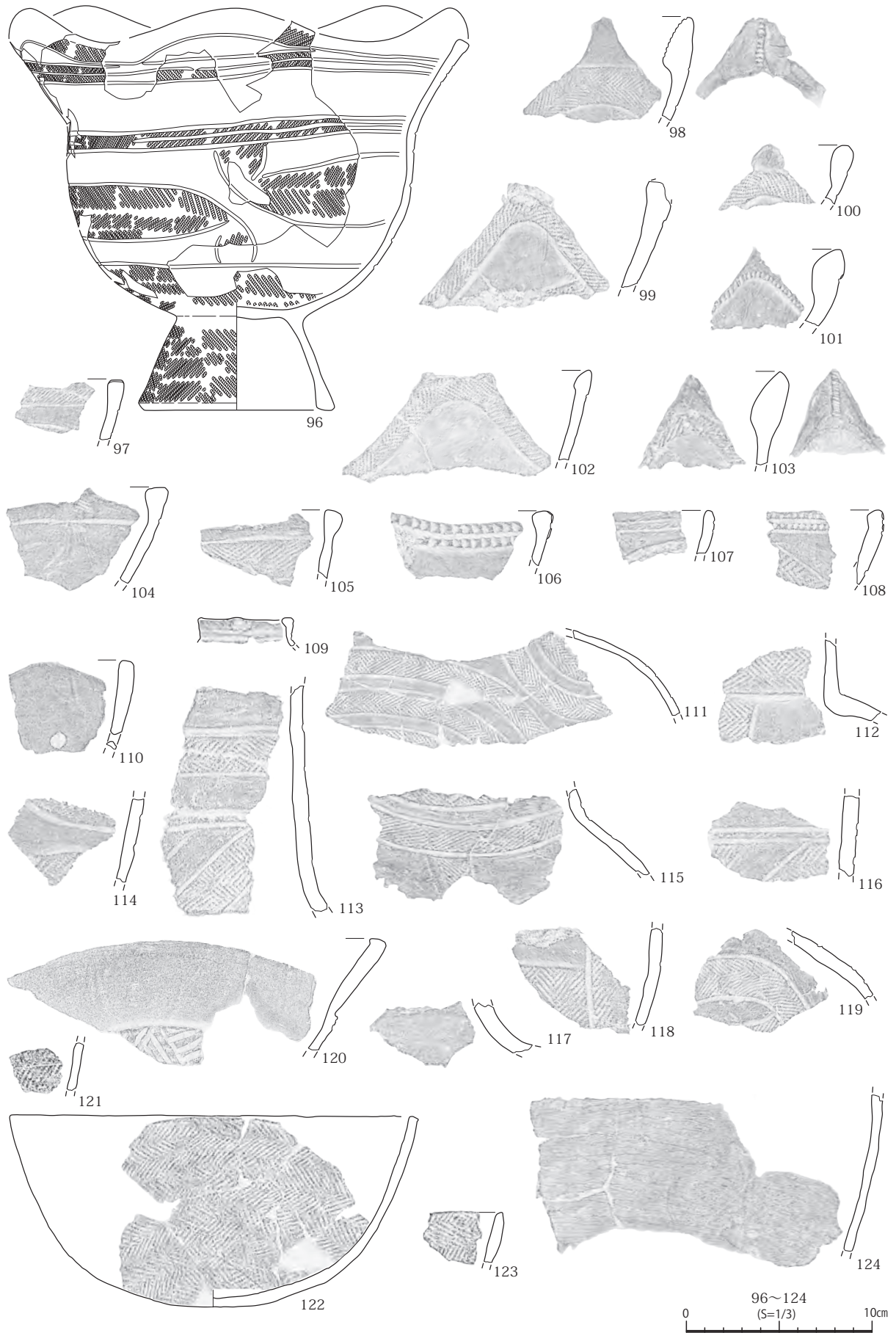
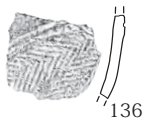


图24 土器・土製品 (7)

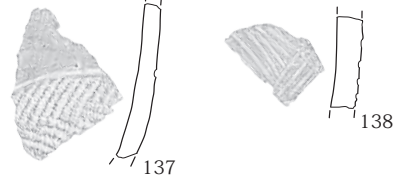


図25 土器・土製品（8）

第6号土坑 (SK-6)



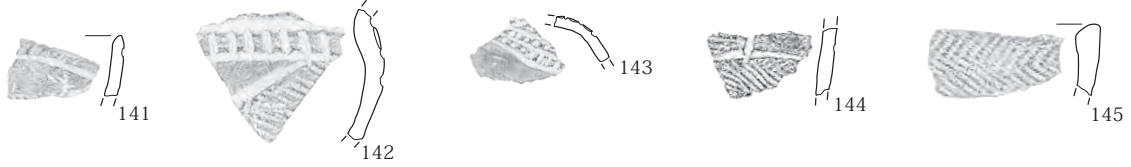
第12号土坑 (SK-12)



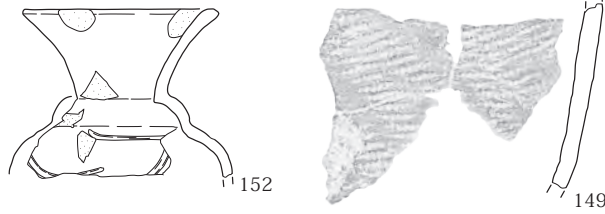
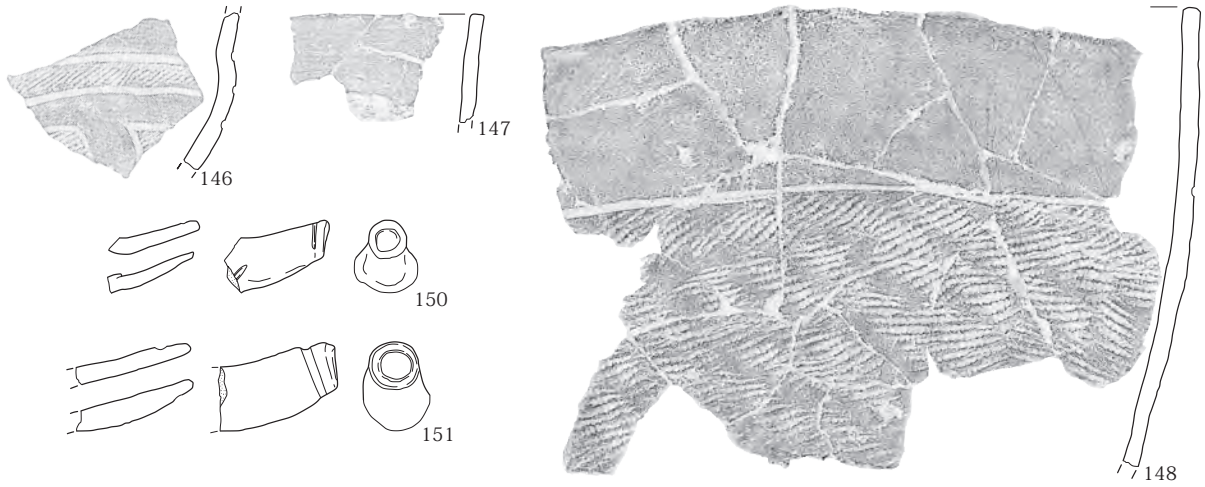
第18号土坑 (SK-18)



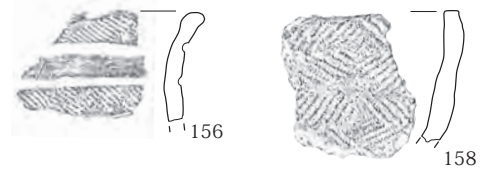
第24号土坑 (SK-24)



第27号土坑 (SK-27)

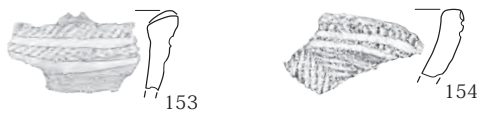


(ピット25)



第1号掘立柱建物跡 (SB-1)

(ピット23)



(ピット26)

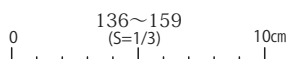
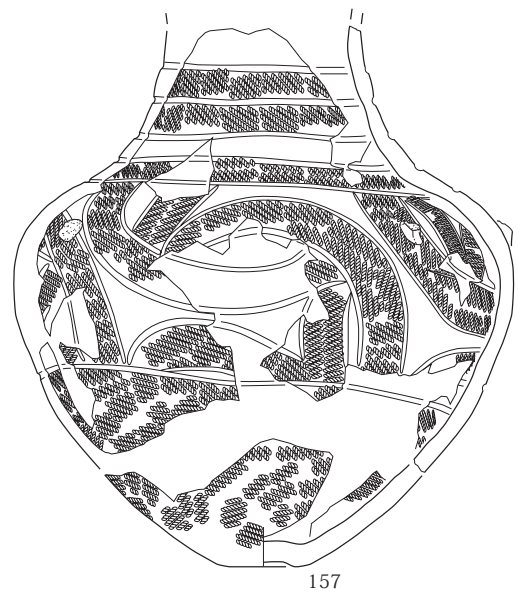
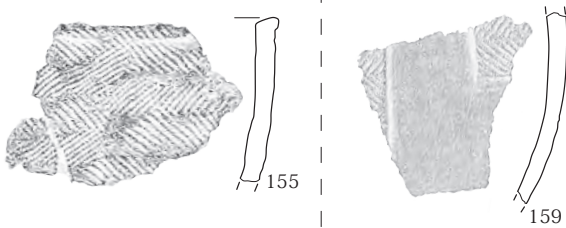
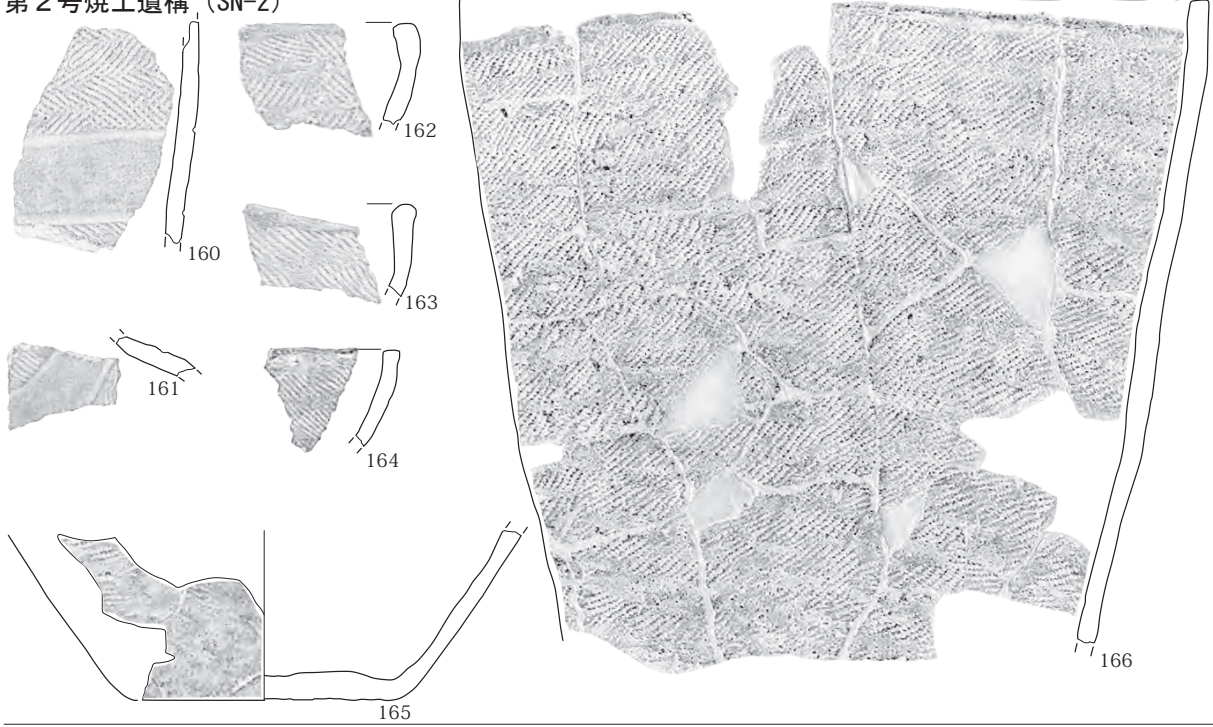


図26 土器・土製品 (9)

第2号焼土遺構 (SN-2)



遺構外

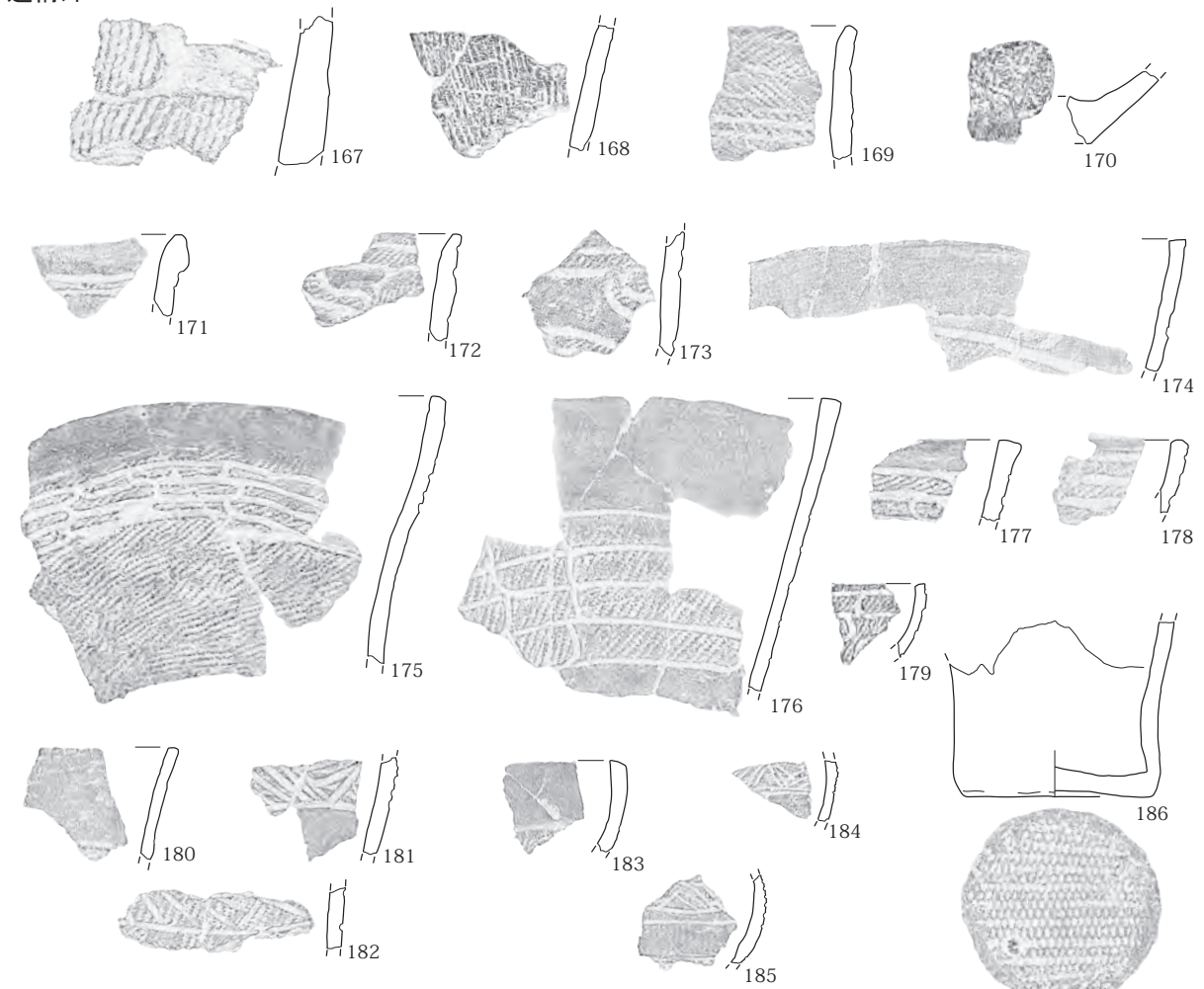


図27 土器・土製品 (10)



图28 土器・土製品 (11)

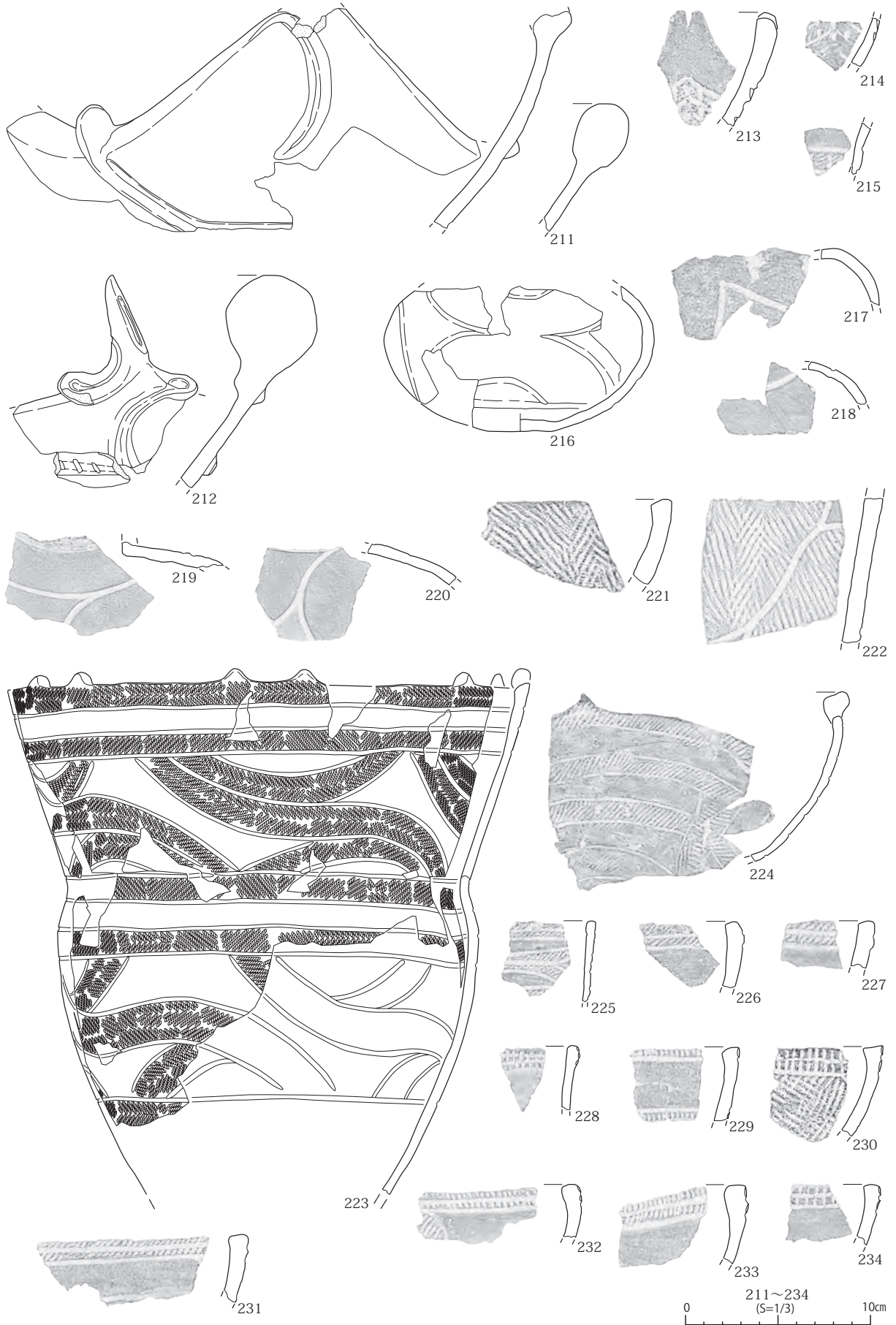


図29 土器・土製品 (12)



图30 土器・土製品 (13)

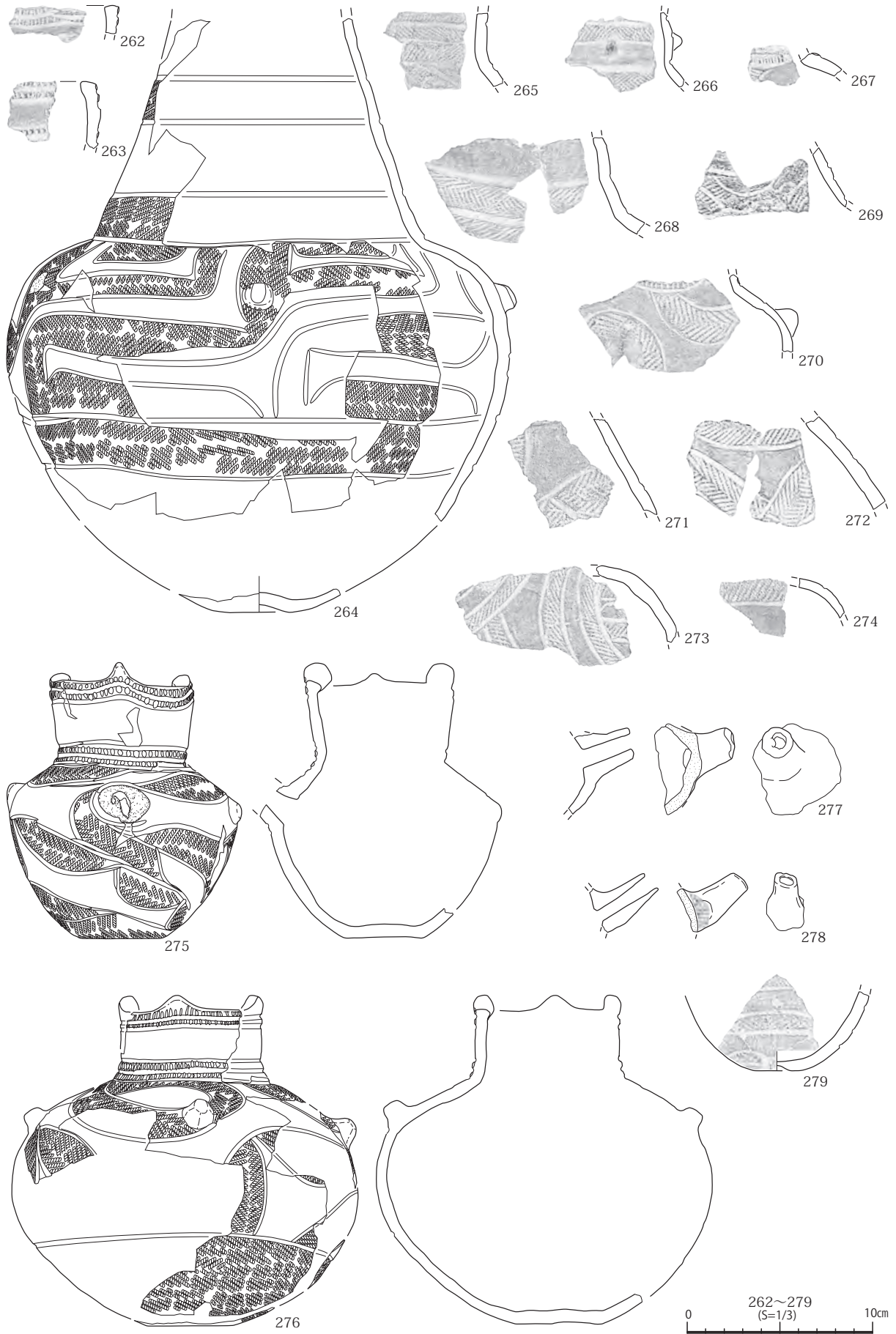


図31 土器・土製品 (14)

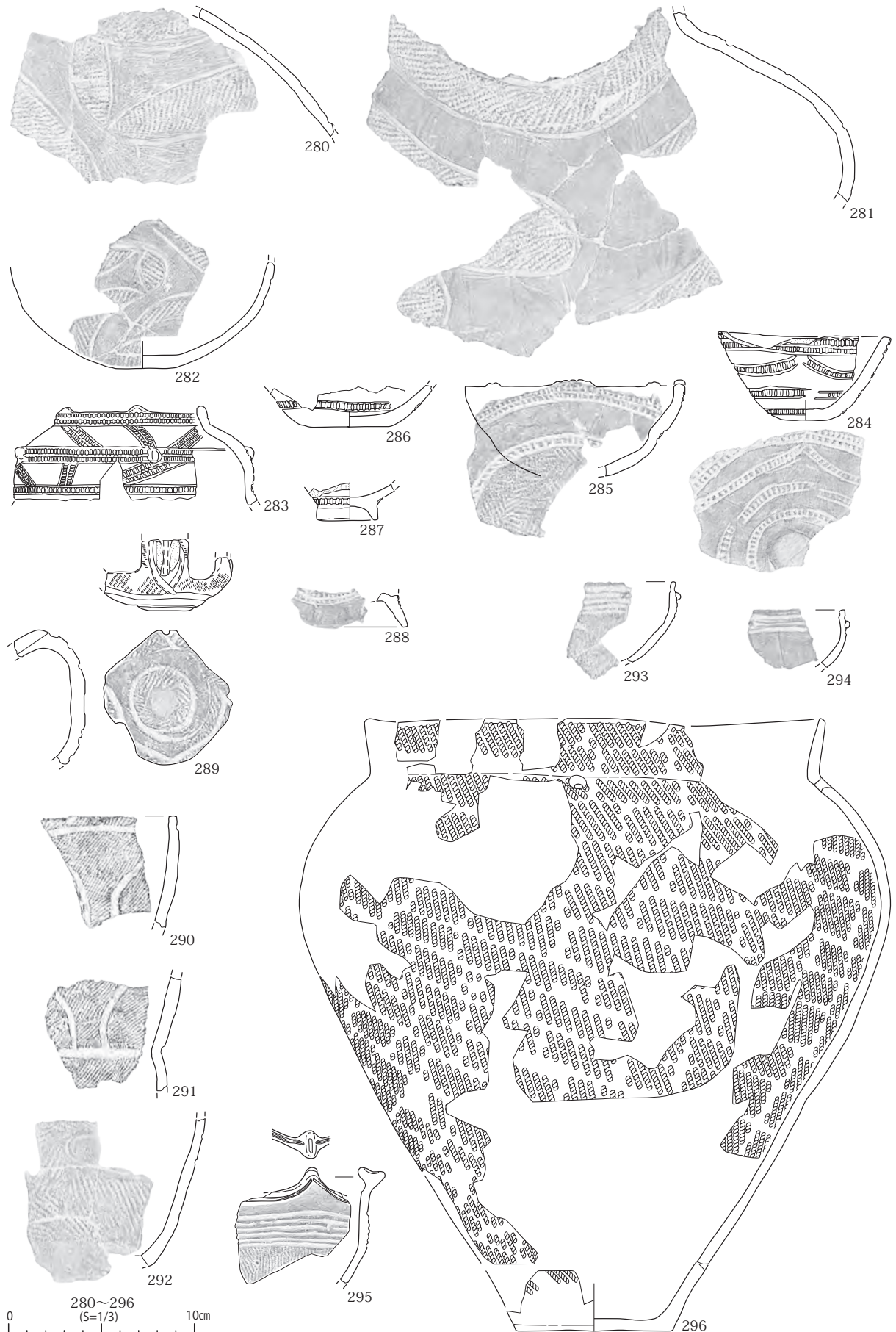


图32 土器・土製品 (15)

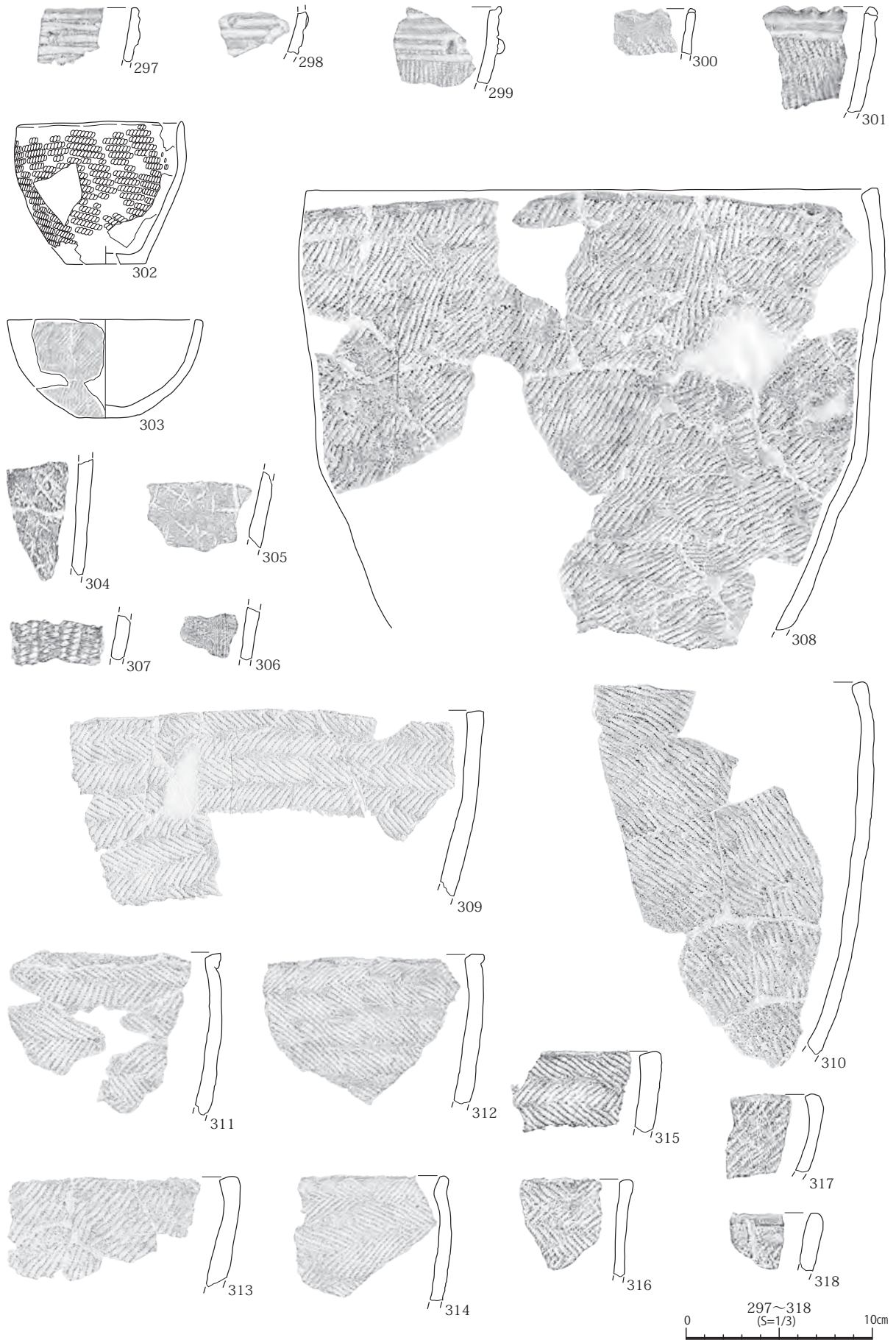


図33 土器・土製品 (16)

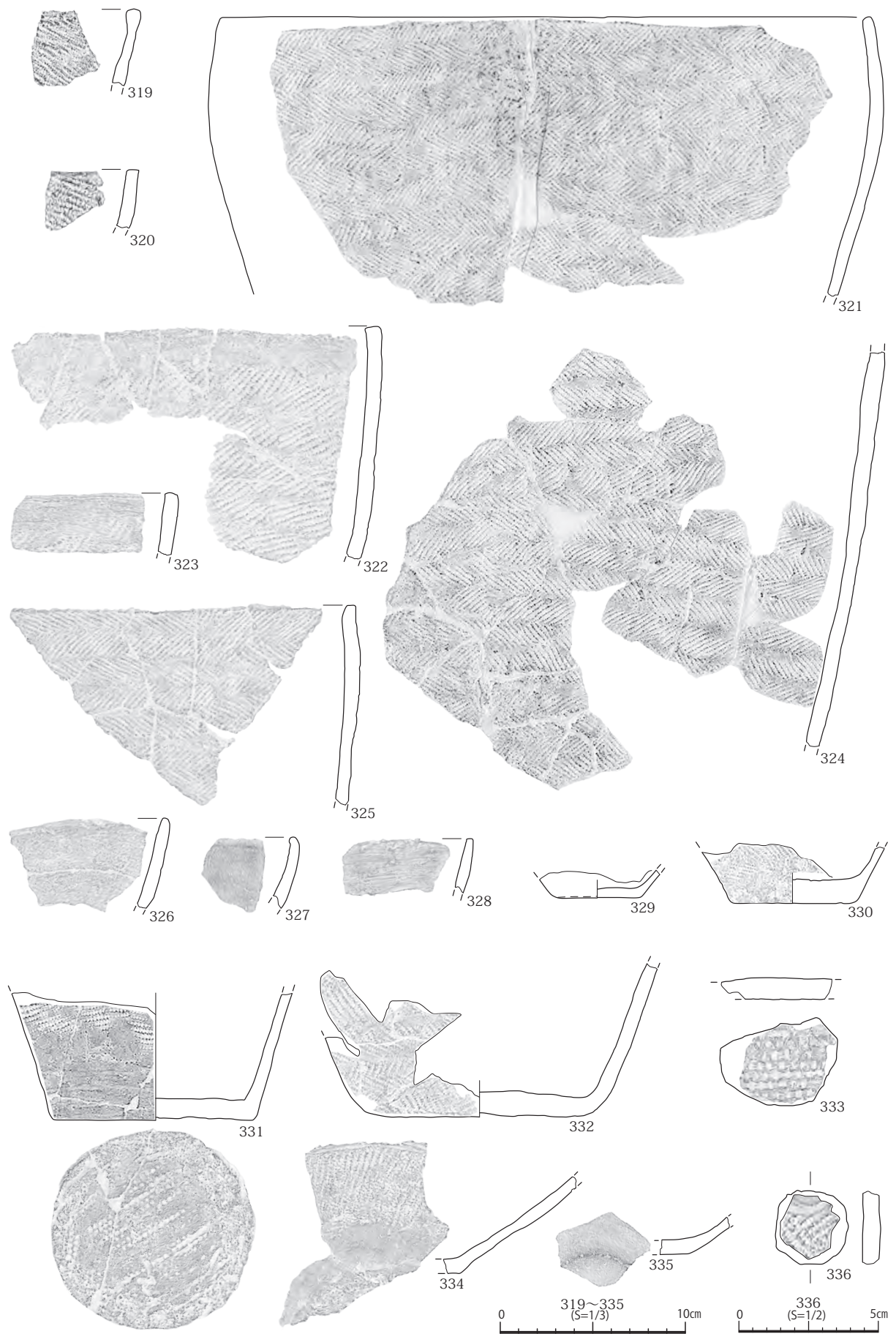
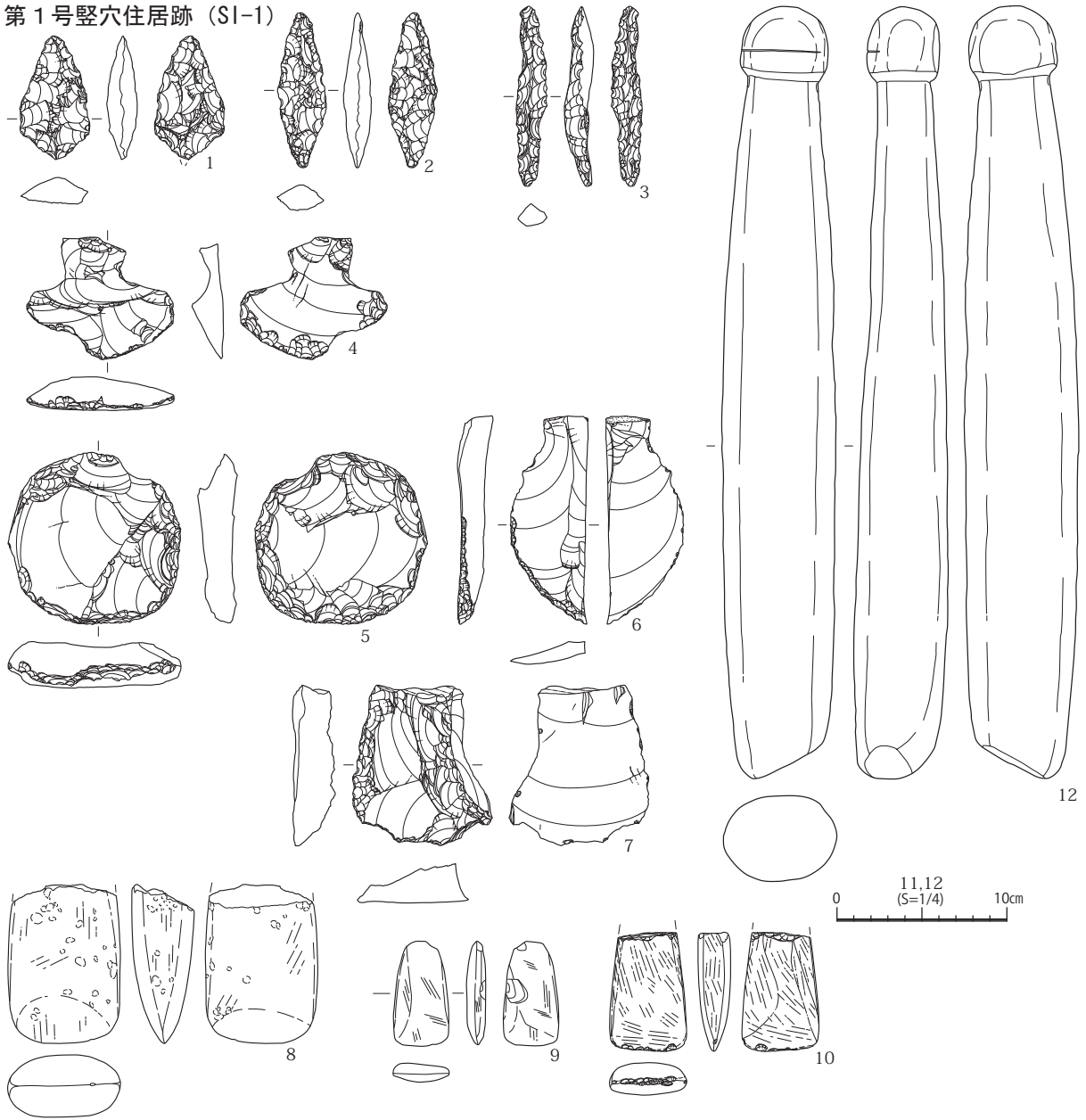


图34 土器・土製品 (17)

第1号竖穴住居跡 (SI-1)



第2号竖穴住居跡 (SI-2)

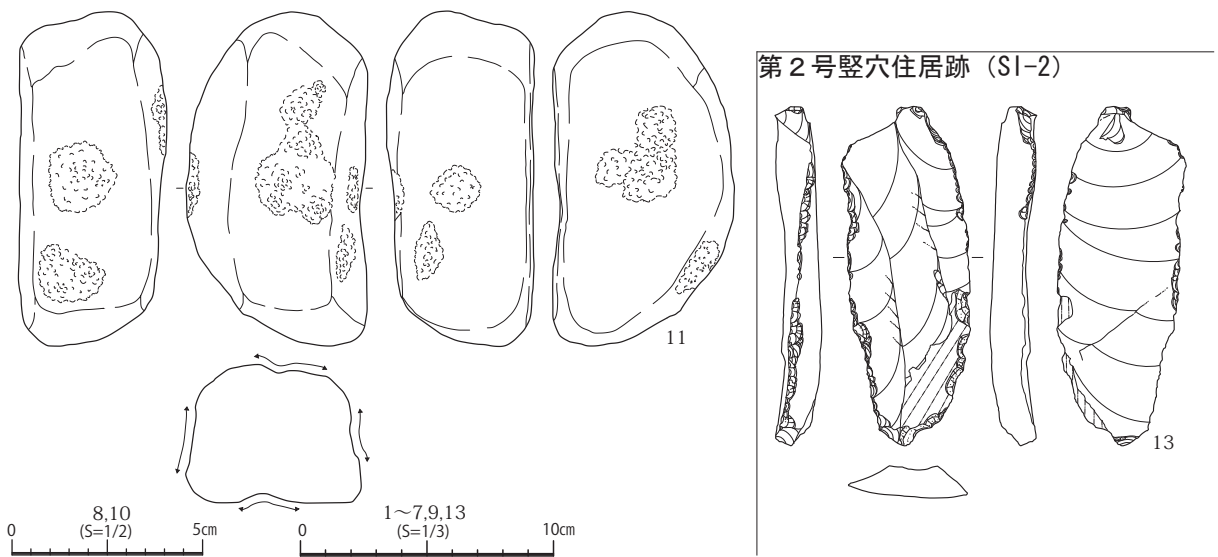
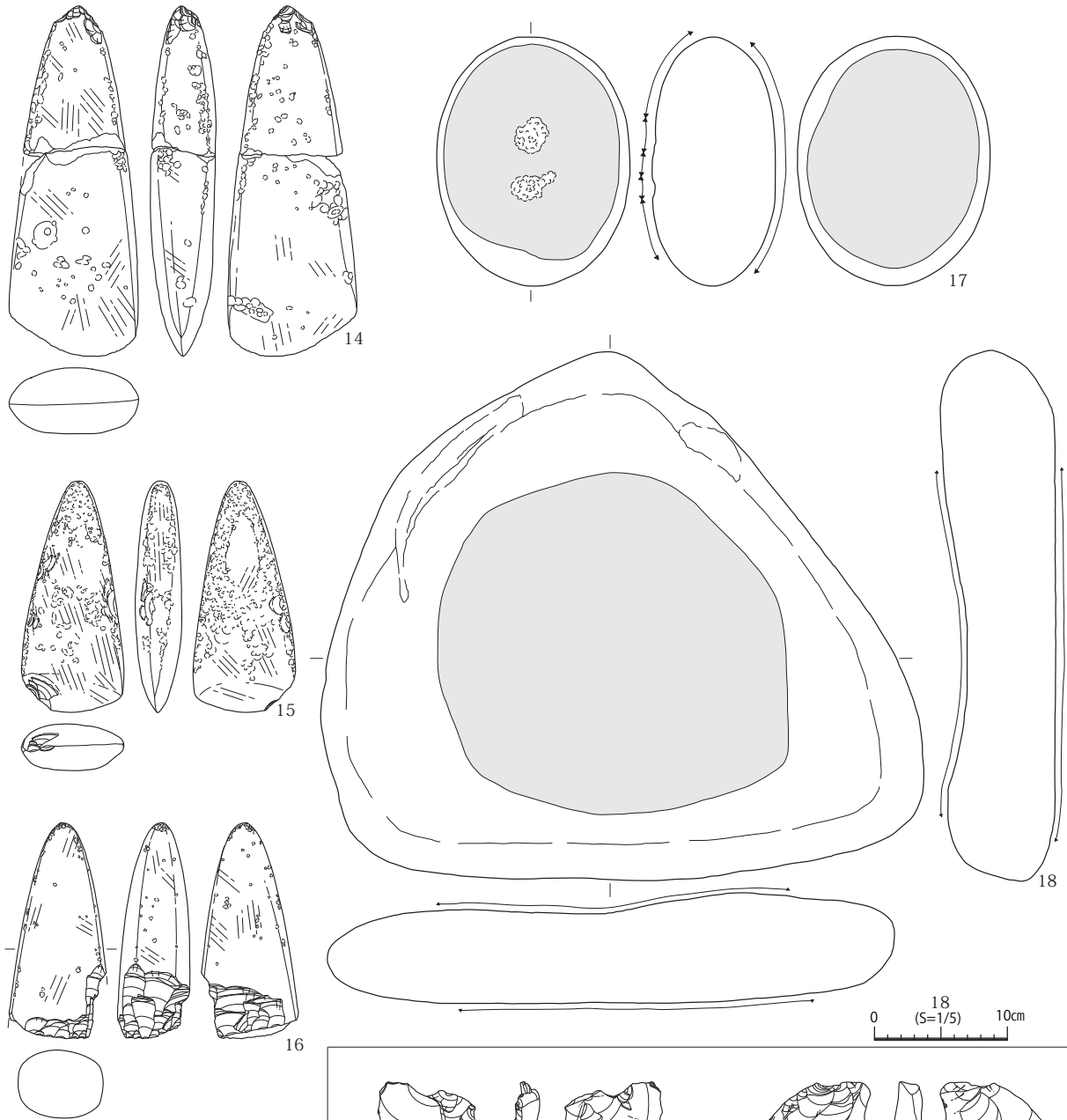


图35 石器・石製品 (1)



第3号竖穴住居跡 (SI-3)

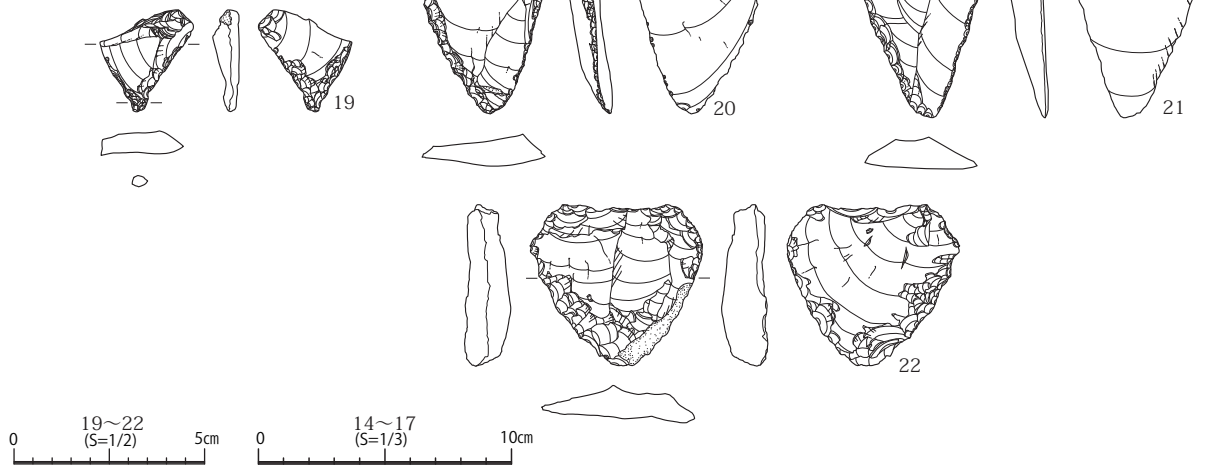
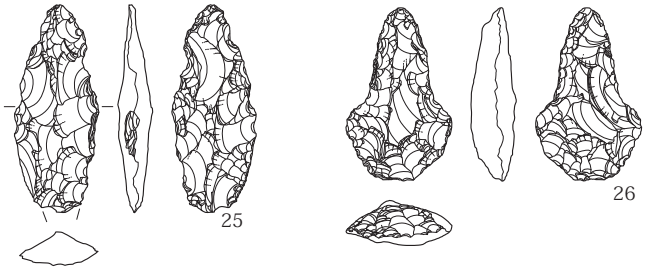
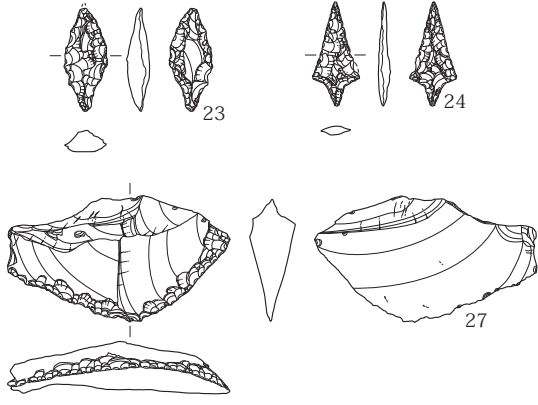
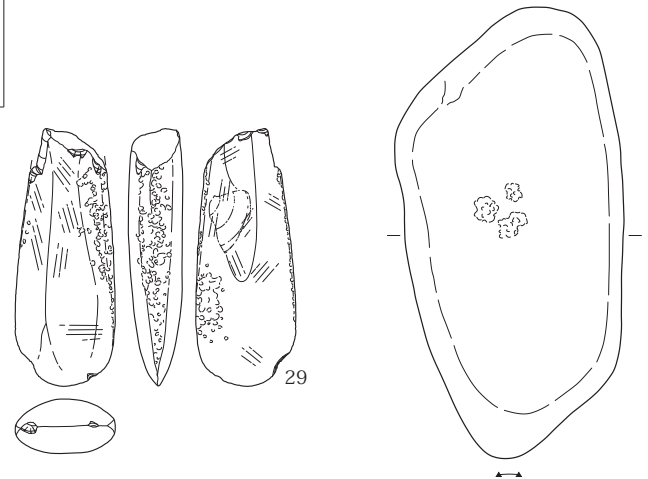


图36 石器・石製品 (2)

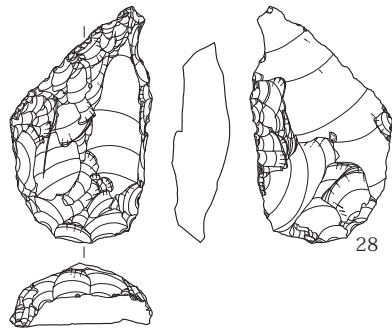
第4号竖穴住居跡 (SI-4)



第6号竖穴住居跡 (SI-6)



第5号竖穴住居跡 (SI-5)



第7号竖穴住居跡 (SI-7)



0 23~28,31~37 (S=1/2) 5cm 0 29,30 (S=1/3) 10cm

図37 石器・石製品 (3)

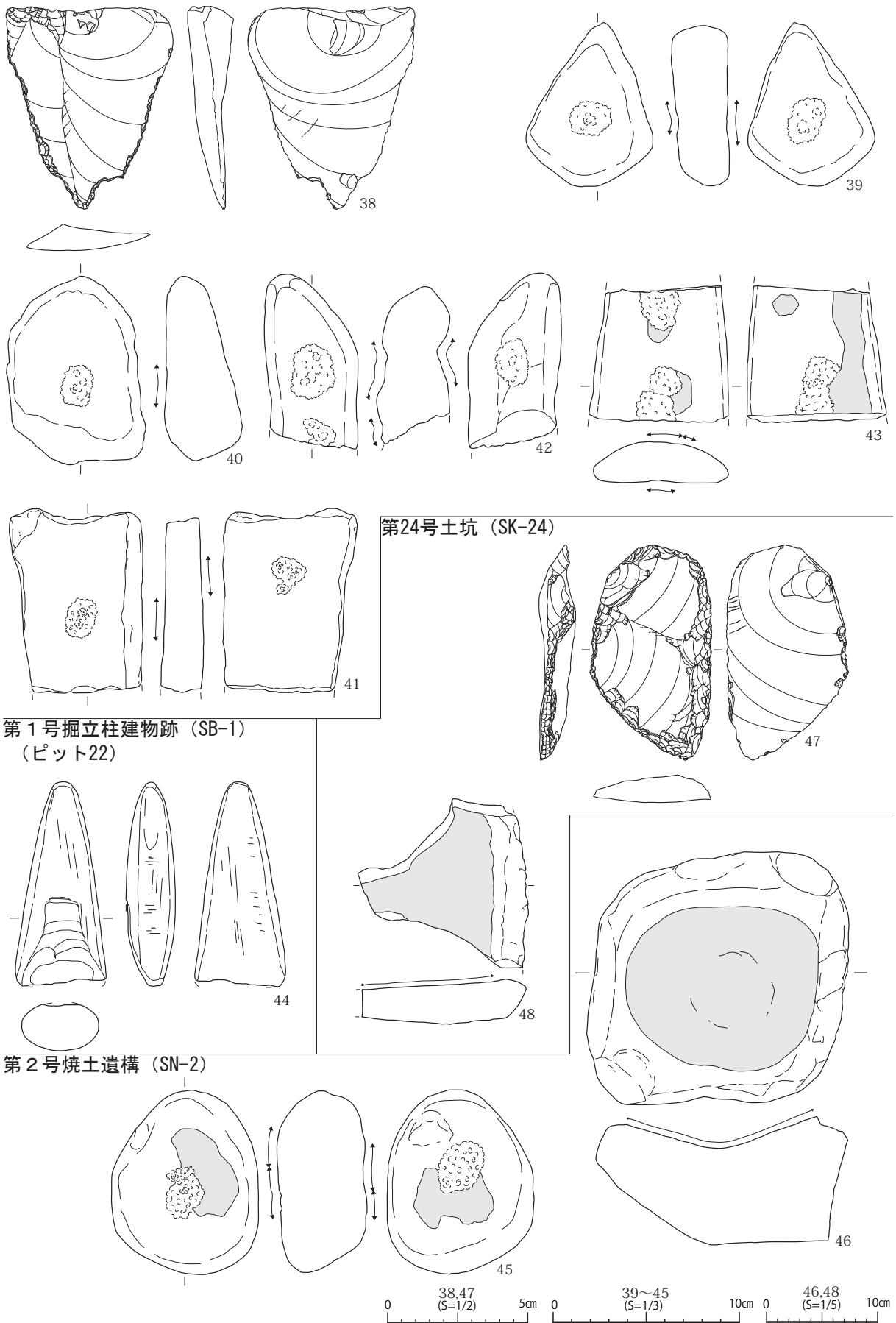


図38 石器・石製品 (4)

遺構外



図39 石器・石製品 (5)

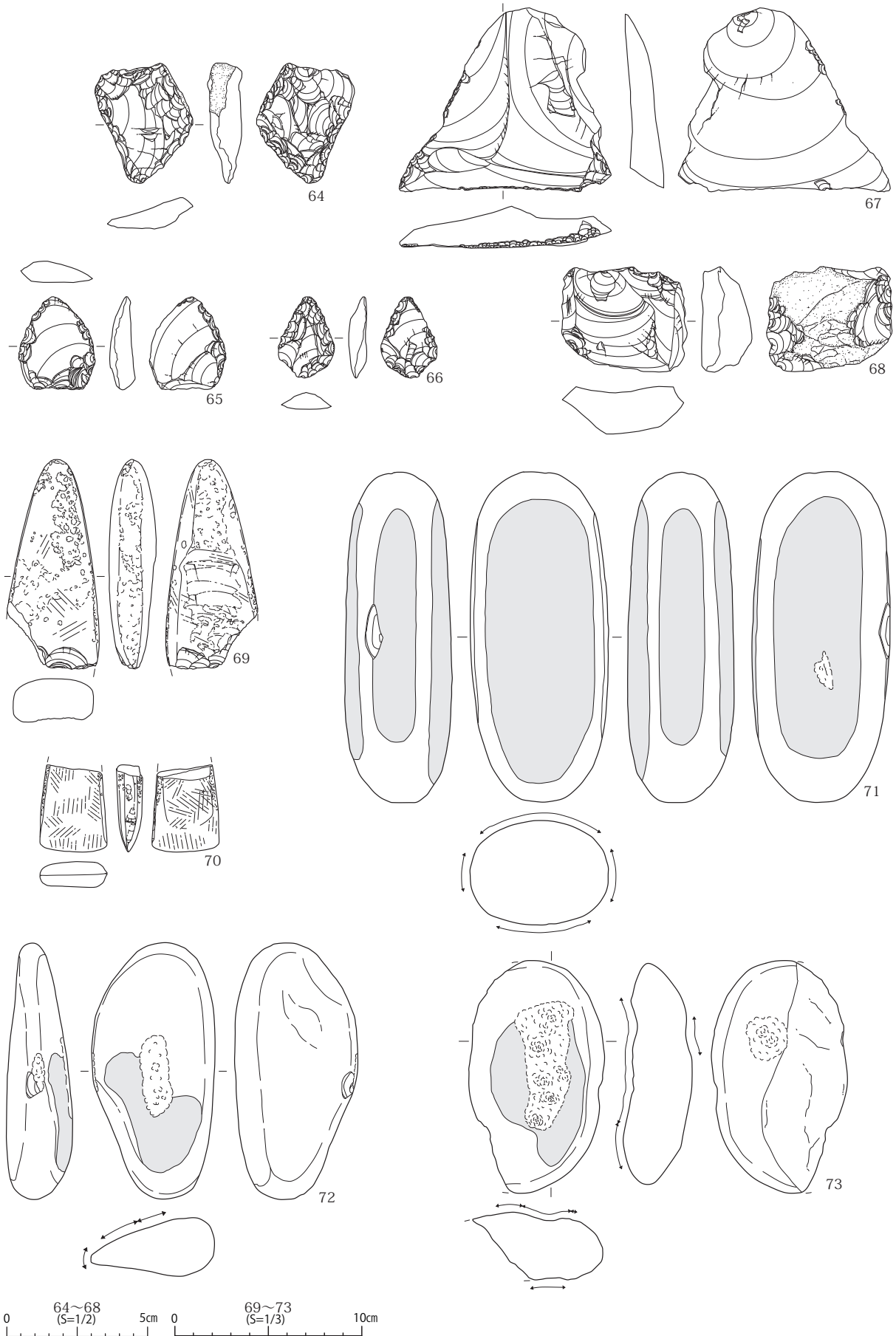


図40 石器・石製品(6)

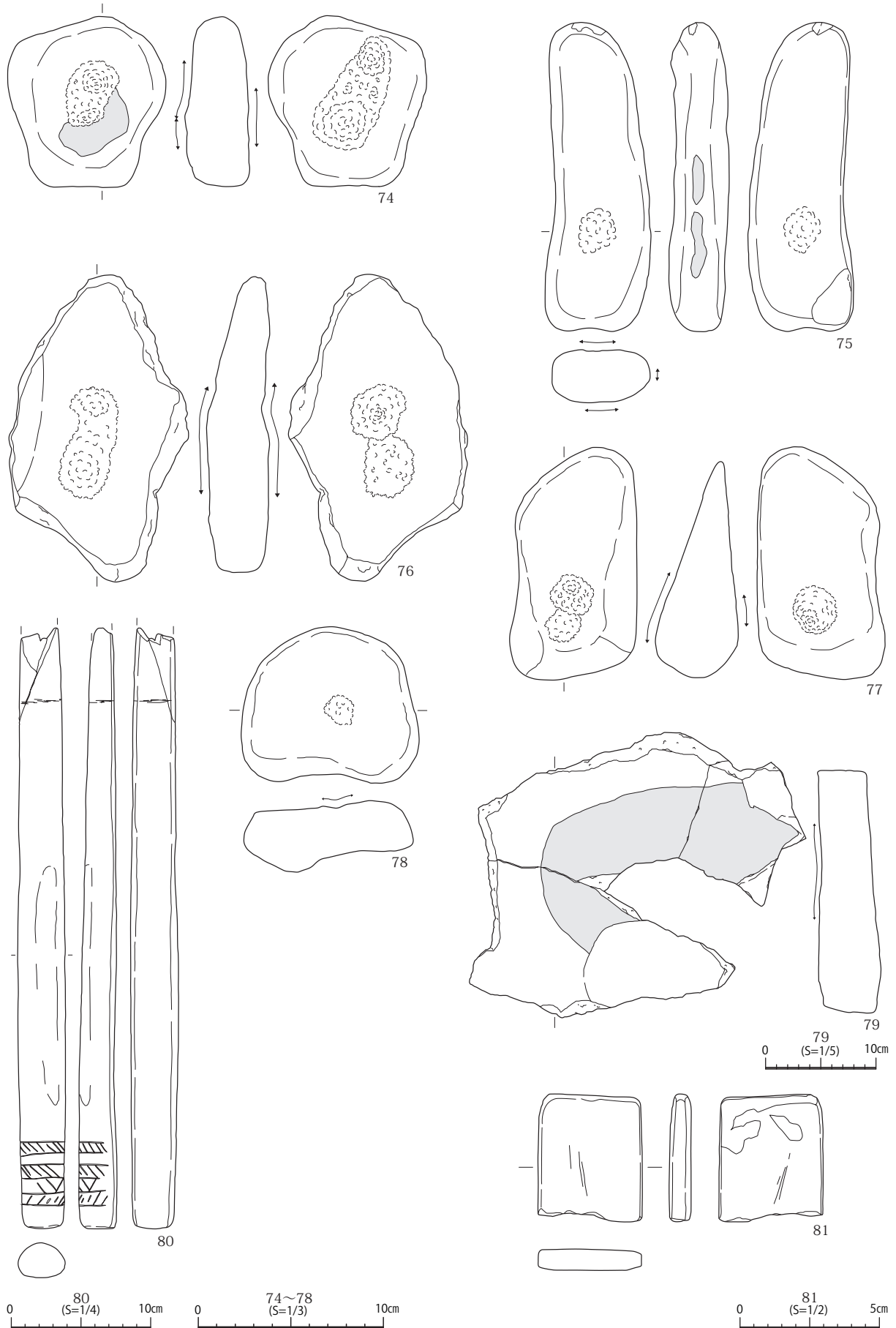


図41 石器・石製品 (7)

第4章 自然科学分析

第1節 樹種同定

株式会社 パレオ・ラボ

1 はじめに

駒木沢(2)遺跡は、阿蘇ヶ岳南斜面の丘陵端部に位置する遺跡である。ここでは、竪穴住居跡から出土した炭化材の樹種同定を行なった。

2 試料と方法

試料は、竪穴住居跡であるSI-6の13層中から出土した、垂木3点と梁桁2点の、計5点の炭化した建築材である。遺構の時期は、出土遺物から縄文時代後期中葉～後葉であると考えられている。いずれの試料も、同一個体と考えられる炭化材数破片で構成されており、実体顕微鏡下で同一個体かどうかの確認を行なった。また、確認ができる試料については、同定前に木取りと残存半径、残存年輪数の記録を行なった。残存半径は試料で残存している半径を直接計測し、残存年輪数は残存半径内の年輪数を計測した。

炭化材の樹種同定は、試料をまず乾燥させ、材の横断面（木口）、接線断面（板目）、放射断面（柾目）について、カミソリと手で割断面を作製し、整形して試料台にカーボンテープで固定した。その後イオンスパッタにて金コーティングを施し、走査型電子顕微鏡（VE-9800）で検鏡および写真撮影を行なった。なお、同定試料の残りは青森県埋蔵文化財調査センターに保管されている。

3 結果

同定の結果、広葉樹のエノキ属とニレ属、カエデ属の3分類群が産出した。カエデ属が3点みられ、エノキ属とニレ属は各1点の産出であった。なお、各試料で同一個体と考えられていた炭化材は、実体顕微鏡による観察の結果、いずれも同一樹種であり、同一個体であった可能性が高いと判断された。年輪の計測ができたのは試料No. 4のエノキ属のみで、残存半径0.9cm内に4年輪がみられた。同定結果一覧を表1に示す。

表1 駒木沢(2)遺跡出土炭化材の樹種同定結果一覧 ※現場取り上げ時の所見である。

試料No.	遺物No.	遺構	層位	可能性のある部材名※	樹種	木取り	残存半径(cm)	残存年輪数	備考	時期
1	炭化材サンプル1	SI-6	13層	垂木	カエデ属	板目?	-	-	劣化激しい	縄文時代後期中葉～後葉
2	炭化材サンプル2			垂木	カエデ属	板目?	-	-	劣化激しい	
3	炭化材サンプル3			梁桁	カエデ属	板目?	-	-	劣化激しい	
4	炭化材サンプル4			梁桁	エノキ属	芯持丸木	0.9	4	劣化激しい	
5	炭化材サンプル5			垂木	ニレ属	板目?	-	-	劣化激しい 虫食い多い	

次に、同定された材の特徴を記載し、図版に走査型電子顕微鏡写真を示す。

(1) エノキ属 *Celtis* ニレ科 図版1 1a-1c (No. 4)

年輪のはじめに大型の道管が1～2列並び、晩材部では径を徐々に減じた道管が数個複合して斜め方向に配列する環孔材である。軸方向柔組織は周囲状となる。道管は単穿孔を有し、小道管の内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は上下端1～3列が方形となる異性で、1～6列となる。放射組織は不完全な鞘細胞を有する。

エノキ属にはエノキやシダレエノキなどがあり、代表的なエノキは本州から九州にかけての温帯から暖帯に分布する落葉高木の広葉樹である。材はやや硬いが、現在ではまとまって生育することはない、薪炭材などに利用される程度である。

(2) ニレ属 *Ulmus* ニレ科 図版1 2a-2c (No. 5)

年輪のはじめに大型の道管が1～3列並び、晩材部では径を急に減じた道管が多数複合して斜線状に配列する環孔材である。軸方向柔組織は周囲状となる。道管は単穿孔を有し、小道管の内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は同性で、1～6列となる。

ニレ属にはハルニレやオヒョウなどがあり、温帯に分布する落葉高木の広葉樹である。ハルニレの材はやや重硬で、切削加工はやや困難である。

(3) カエデ属 *Acer* カエデ科 図版1 3a-3c (No. 1)

中型の道管が単独ないし2～3個複合してやや密に散在する散孔材である。木部繊維の壁の厚さの違いで雲紋状の文様が木口面にみられる。道管は単穿孔を有し、内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は同性で、幅1～2列のものと幅5～8列程度のものがみられる。

カエデ属は10列以上の放射組織を持つチドリノキ以外は種までの同定が出来ない。したがって、本試料はチドリノキ以外のカエデ属と考えられる。カエデ属にはイタヤカエデやウリハダカエデなどがあり、代表的なイタヤカエデは各地に普通にみられる落葉高木の広葉樹である。材はやや重硬で、切削加工はやや困難である。

4 考察

縄文時代後期中葉～後葉の竪穴住居跡であるSI-6では、カエデ属が3点、エノキ属とニレ属が各1点産出した。SI-6は焼失住居跡で、出土炭化材はいずれも焼けた建築材と考えられている。今回産出したエノキ属とニレ属、カエデ属はいずれも重硬な材質を持ち、建築材に適した樹種である(伊東ほか, 2011)。

出土状況より、試料No. 1と2, 5は垂木、試料No. 3と4は梁桁と考えられているが、垂木はいずれも炭化材の一部を除いて劣化により形状を留めておらず、板目状にしか残存していなかった。また梁桁では、試料No. 3のカエデ属は板目状にしか残存していなかったが、試料No. 4のエノキ属は直径2cm未満の芯持丸木状であった。しかしこのエノキ属も劣化が激しく、最終形成年輪は確認できなかった。このエノキ属の材の直径は、2cm以上であった可能性が高い。

大鱈町の上牡丹森遺跡では、縄文時代後期の住居跡でクリ4点と、リョウブとカエデ属、トネリコ属が各3点みられ、晩期の住居跡でカエデ属2点とトネリコ属1点がみられている(山田, 1993)。今回の駒木沢(2)遺跡ではクリは検出されなかったが、両遺跡共にカエデ属がみられ、上牡丹森遺跡で産出したクリとリョウブ、トネリコ属も重硬な樹種であり(伊東ほか, 2011)、重硬な材質の木材

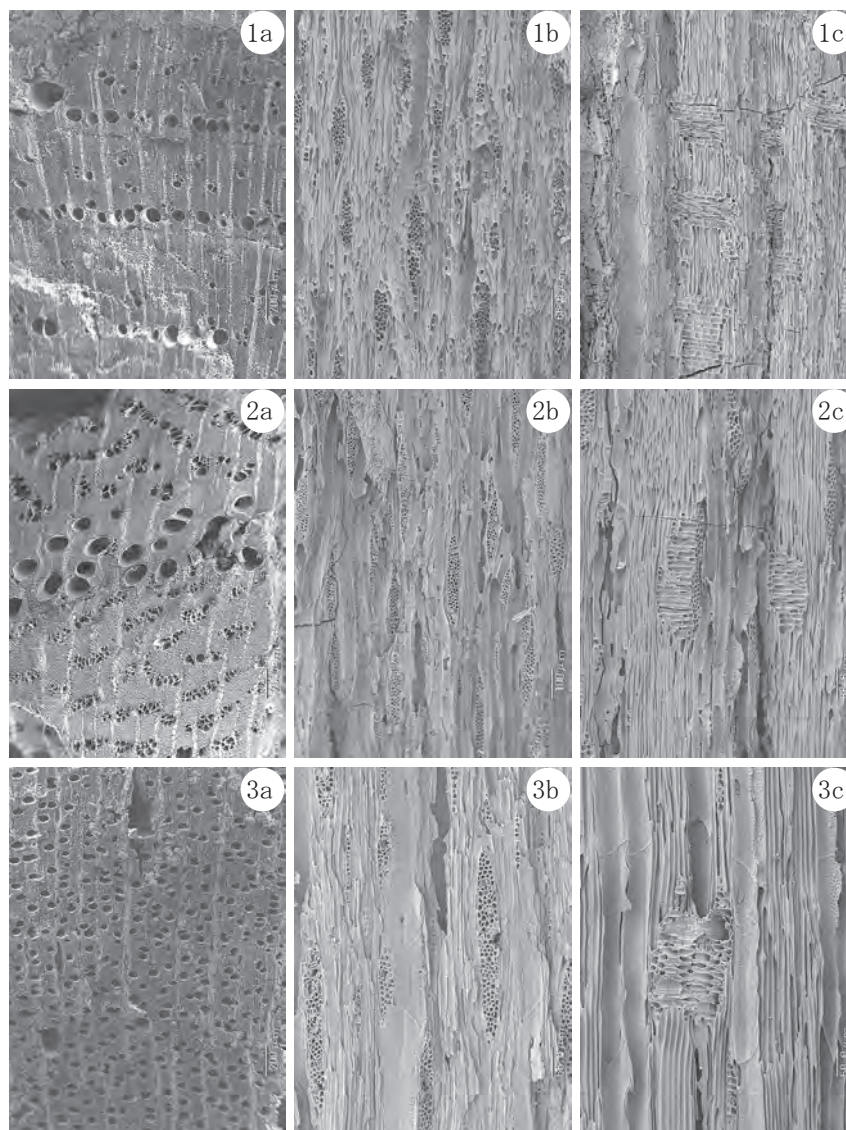
が利用されていた点で、類似する傾向がみられた。青森平野では、縄文時代前期から後期の集落において人為的な植生改変が行われ、クリ林が管理されていたと想定されているが (Noshiro and Suzuki, 2006)、今回の試料にはクリはなかった。駒木沢(2)遺跡周辺ではクリが多く生育していなかった可能性や、建築材としてクリを選択していなかった可能性などが考えられるが、詳細は不明であった。

引用文献

伊東隆夫・佐野雄三・安部 久・内海泰弘・山口和穂 (2011) 日本有用樹木誌, 238p, 青海社.

Noshiro, S., Suzuki, M. (2006) Utilization of forest resources in the early Jomon period at and around the Sannai-maruyama site in Aomori Prefecture, northern Japan. 辻 誠一郎・能城 修一編「植生史研究 特別第2号」:83-100, 日本植生史学会.

山田昌久 (1993) 日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成 - 用材から見た人間・植物関係史. 242p, 植生史研究 特別第1号.



図版1 駒木沢(2)遺跡出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真

1a-1c. エノキ属 (No. 4)、2a-2c. ニレ属 (No. 5)、3a-3c. カエデ属 (No. 1)

a: 横断面、b: 接線断面、c: 放射断面

第5章 まとめ

調査成果とそれにより得られた課題を示してまとめとする。

遺跡は大鰐町の東部を西に流れる駒木沢の右岸、標高180～190mの丘陵端部に位置する縄文時代後期の集落である。調査範囲は地形の変換点で、これより南側、駒木沢への落ち際までは傾斜が緩やかな平坦面が広がっている。集落は、この平坦面を選地し、営まれたものと考えられる。

遺物は縄文時代前期、晩期のもも出土しているが、その主体は後期にある。なかでも、土器については、これまで主に十腰内Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ群とされていたものの内、関根達人氏によって「十腰内Ⅳ群段階」とこれに後続する「馬場瀬段階」と位置付けられたもの（関根2005）が主体となって出土した。構築される遺構の時期も、断定できるものはいずれも両段階のものである。

遺構は竪穴住居跡9棟、掘立柱建物跡1棟、土坑22基、焼土遺構2基、溝状土坑1基、ピット6基と盛土範囲を3カ所で確認した。

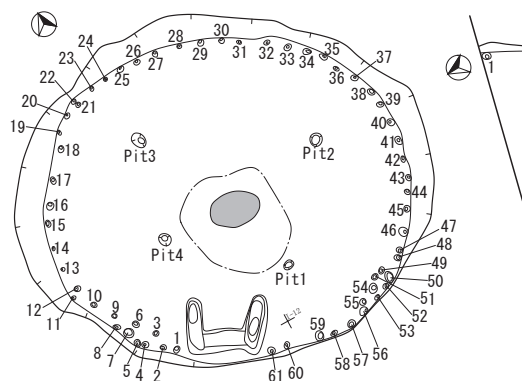
竪穴住居跡は「出入口施設」（永嶋2000）と壁柱穴を有するもので、炉は地床炉となるものを確認した。この出入口施設は、いずれも斜面の下側に構築されていた。これは、竪穴住居跡は斜面に構築されるため、斜面上側の壁は高く、斜面下側ではこれより低くなる。そのため、必然的に出入りの容易な斜面下側に入出口を設けた結果と理解することができる。

遺構からの土器の出土状況については、第4号及び第7号竪穴住居跡の床面において、良好な状態を捉えられた。第4号竪穴住居跡の床面からは、壺もしくは注口の頸部を意図的に打ち割ったと考えられるものが、正位で直立した状態で出土した。このような状態での出土は、蓬田村滝沢遺跡（青森県教委2009）でも後期中葉の事例が知られている。時期の近い事例で、本遺跡との共通点も多い。一方で、設置される竪穴住居の構造や設置の状況・位置には違いもみられ、両事例の関連性とその性格についてはさらなる検討が必要であり、今後の課題としたい。第7号竪穴住居跡の床面からは、「馬場瀬段階」の単孔土器とこれに併行する「堂林式古段階」の深鉢が出土した。両者とも残存率が高く、意図的に床面に置かれたものと考えた。加えて、近接して人面が表現されたスタンプ形土製品が、同じく床面から出土した。表現される人面は、同時期の土偶と共通の手法で表現されており、関連がうかがえる。一方で、スタンプ形土製品への人面表現は類例に乏しく、県内では今のところ皆無である。これを県外に求めても、管見に触れた限りであるが、福島県いわき市寺脇貝塚から出土した「こけし形土偶」（茨城県立歴史館1994）とされているものが形態、大きさの面で近似している。しかし、時期は晩期とされており、本遺跡例とは時間的隔たりが大きい。そのため、さらなる検討には、類例検索の継続と共に、同時期において盛行（小林1999）するという、土器に人面が表現されたものとの比較が必要と考えられる。これも、あわせて今後の課題としたい。

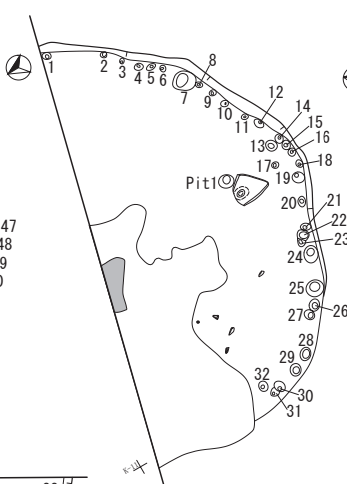
引用・参考文献

- 阿部 明義 2003 「3. キウス4遺跡における縄文時代後期後半の土器」
『千歳市 キウス4遺跡(10)』 財団法人北海道埋蔵文化材センター
- 榎本 剛治 2008 「十腰内Ⅰ式土器」 『総覧 縄文土器』 株式会社アム・プロモーション
- 菅野 和郎 2008 「ミニチュア土器」 『総覧 縄文土器』 株式会社アム・プロモーション
- 小林圭一 1999 「東北地方 後期(瘤付土器)」 『縄文時代10』 縄文時代文化研究会
- 鈴木 克彦 2001 「(8) 十腰内Ⅱ式土器」 『北日本の縄文後期土器編年の研究』
雄山閣出版株式会社
- 鈴木 克彦 2004 「華燭土器」 『縄文時代15』 縄文時代文化研究会
- 鈴木 克彦 2006 「宝ヶ峯型注口土器とその広域分布」 『月刊 考古学ジャーナル11月号』
ニューサイエンス社
- 関根 達人 2005 「十腰内Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ群土器」に関する今日的な理解」
『葛西勳先生還暦記念論文集 北奥の考古学』 葛西勳先生還暦記念論文集刊行会
- 永嶋 豊 1998 「第3章 まとめ 第1節 検出遺構」 『山下遺跡Ⅱ・米山(2)遺跡』
青森県埋蔵文化財発掘調査報告書第274集
- 茨城県立歴史館 1994 『特別展東国の土偶』 茨城県立歴史館
- 青森県教育委員会 1980 『大平遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第52集
- 青森県教育委員会 1980 『砂沢平遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第53集
- 青森県教育委員会 2009 『滝沢遺跡・坂元(3)遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第467集
- 青森県教育委員会 2012 『砂子瀬遺跡Ⅲ』 青森県埋蔵文化財調査報告書第513集
- 大鰐町教育委員会 1986 『唐牛城(1)遺跡』 大鰐町文化財調査報告書第2集
- 大鰐町教育委員会 1997 『前田ノ沢(4)遺跡・前田ノ沢(5)遺跡・駒木沢遺跡』
大鰐町文化財調査報告書第3集
- 大鰐町教育委員会 2003 『砂沢平遺跡』 大鰐町文化財調査報告書第4集

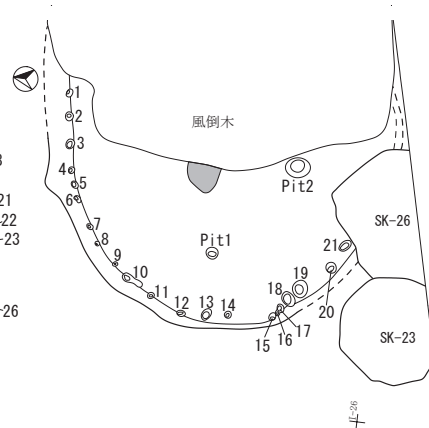
第1号竖穴住居跡



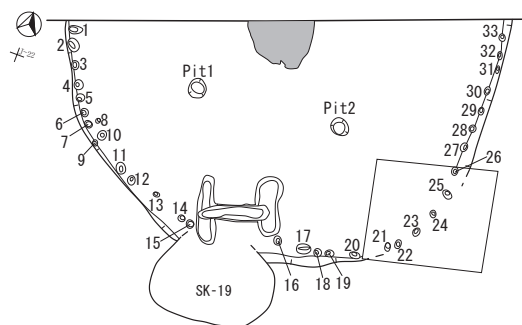
第2号竖穴住居跡



第3号竖穴住居跡



第4号竖穴住居跡



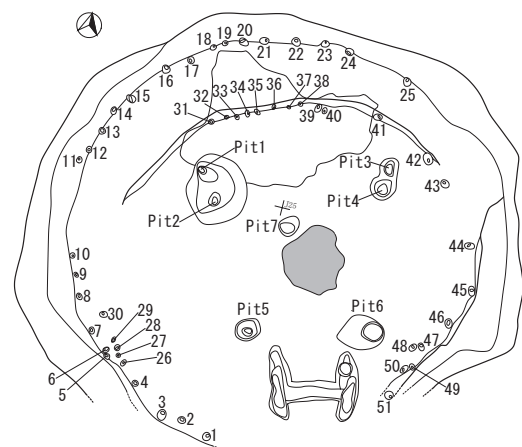
第1号竖穴住居跡計測表

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
深さ(cm)	6.4	4.5	4.1	4.1	6.5	6.8	9.2	14.7	5.7	3.2	4.3	7.9	10.0	9.1	4.8	6.5	12.6
番号	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34
深さ(cm)	7.5	16.5	12.8	6.8	11.4	10.5	5.6	11.4	10.4	14.1	10.6	8.2	9.4	5.1	14.6	15.7	18.1
番号	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51
深さ(cm)	13.6	10.6	16.9	15.5	15.8	15.0	14.0	14.0	15.3	7.0	15.3	21.4	19.4	12.2	6.0	8.5	7.4
番号	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	Pit1	Pit2	Pit3	Pit4			
深さ(cm)	7.1	6.1	5.6	5.0	22.7	10.5	8.7	10.9	10.9	14.5	44.7	38.9	55.4	51.0			

第2号竖穴住居跡計測表

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
深さ(cm)	4.4	11.6	6.3	10.3	7.2	6.4	34.1	4.8	4.0	5.9	4.5	9.9	6.6	7.9	7.6	8.0	5.5
番号	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	Pit1	
深さ(cm)	6.9	18.4	6.8	8.4	7.6	5.5	18.9	12.5	7.6	10.5	18.9	13.6	17.2	12.6	29.3	41.1	

第6号竖穴住居跡



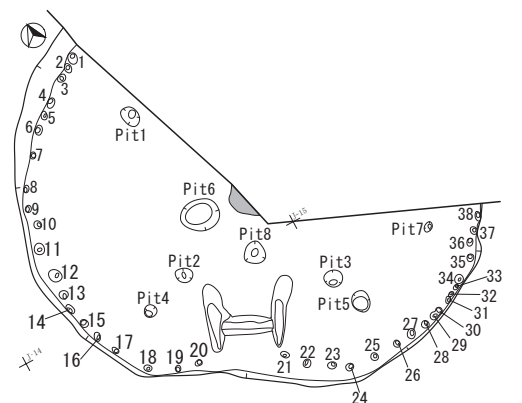
第3号竖穴住居跡計測表

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
深さ(cm)	17.5	12.5	11.1	9.2	8.2	8.5	6.5	12.7	9.1	26.8	15.2	10.5
番号	13	14	15	16	17	18	19	20	21	Pit1	Pit2	
深さ(cm)	8.5	8.4	10.4	7.8	9.8	10.4	18.1	11.7	8.5	65.6	36.6	

第4号竖穴住居跡計測表

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
深さ(cm)	14.3	13.0	11.7	17.6	13.7	13.7	9.2	10.5	6.9	9.2	11.3	12.6
番号	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
深さ(cm)	10.0	14.8	10.4	9.1	15.5	16.1	9.1	8.6	13.4	7.9	7.6	4.3
番号	25	26	27	28	29	30	31	32	33	Pit1	Pit2	
深さ(cm)	15.4	18.6	14.3	8.9	13.4	8.6	15.5	8.9	4.8	49.6	44.8	

第7号竖穴住居跡



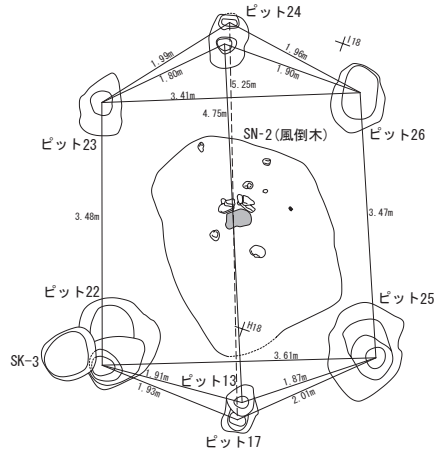
第6号竖穴住居跡計測表

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
深さ(cm)	1.6	1.4	0.6	2.5	2.4	2.3	3.9	1.2	3.6	6.6	12.3	2.8	6.0	7.3	8.4
番号	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
深さ(cm)	3.9	3.5	11.5	8.4	12.6	7.9	8.1	6.9	4.2	8.2	5.1	3.4	4.5	6.2	5.5
番号	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45
深さ(cm)	9.1	2.2	1.5	2.8	14.3	9.0	5.6	12.3	3.3	5.4	15.9	24.3	6.9	1.5	1.7
番号	46	47	48	49	50	51	Pit1	Pit2	Pit3	Pit4	Pit5	Pit6	Pit7		
深さ(cm)	6.1	2.4	3.4	6.7	2.5	3.3	66.7	77.5	35.2	68.4	19.6	22.5	9.7		

第7号竖穴住居跡計測表

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
深さ(cm)	17.2	10.2	9.8	7.6	11.5	12.8	15.9	8.7	7.5	8.2	10.6	21.6	18.9	17.8	12.4	13.8
番号	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
深さ(cm)	6.7	9.1	5.1	11.0	10.4	9.4	8.0	16.7	10.7	13.4	16.7	8.0	9.7	4.9	3.7	9.3
番号	33	34	35	36	37	38	Pit1	Pit2	Pit3	Pit4	Pit5	Pit6	Pit7	Pit8		
深さ(cm)	4.1	12.5	9.0	8.8	7.7	10.6	40.6	9.7	44.2	13.3	11.4	21.1	6.8	31.5		

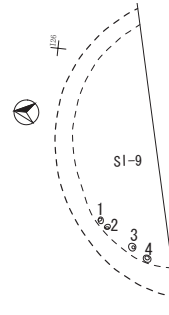
第1号掘立柱建物跡



第1号掘立柱建物跡計測表

ピット番号	ピット13	ピット17	ピット22	ピット23	ピット24	ピット25	ピット26
長軸 (cm)	41.0	44.0	122.6	84.2	71.2	130.7	91.2
短軸 (cm)	36.9	47.9	107.6	56.6	52.7	95.1	70.4
深さ (cm)	72.0	72.5	80.9	98.4	91.9	105.7	105.4

第9号竪穴住居跡



第9号竪穴住居跡計測表

番号	1	2	3	4
深さ (cm)	8.4	5.1	10.6	11.5

種別変更遺構一覧

調査時の遺構種別	報告時の遺構種別	備 考
第20号土坑(SK-20)	第8号竪穴住居跡(SI-8)	
第11号土坑(SK-11)	第9号竪穴住居跡(SI-9)	
第4号土坑(SK-4)	ピット22	SB-1を構成するピット
大形ピット1	ピット23	SB-1を構成するピット
大形ピット2	ピット24	SB-1を構成するピット
大形ピット3	ピット25	SB-1を構成するピット
大形ピット4	ピット26	SB-1を構成するピット
第10号・13号・21号土坑 (SK-10・13・21)	欠番	攪乱もしくは風倒木と判断した
ピット1～11・14・15 (SP1～11・14・15)	欠番	攪乱もしくは風倒木と判断した

土坑 (SK) 計測表

※()は残存値である。

遺構番号	図番号	位置	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	土器重量 (g)	剥片重量 (g)	出土遺物	時 期	備 考
SK-1	図15	G-17	円形	93	92	29	—	—			
SK-2	図15	G-17・18	円形	90	81	12	—	—			
SK-3	図14	G-17	円形	76	71	28	—	—			
SK-5	図15	G-21	円形	106	(95)	27	—	—			
SK-6・7	図15	H-23	不整形	87	87	21	7.5 (SK-6)	4.2 (SK-6)	土器	十腰内IV群段階から 馬場瀬段階	重複し、SK-6が新しい。
SK-8	図15	H-21・22	円形	91	75	39	—	—			SI-5石囲炉と重複し、古い。
SK-9	図15	H-22・23	不整形	89	72	53	—	—			
SK-12	図15	I-10・11	円形	93	86	24	41.3	—	土器		
SK-14	図15	J-10	不整形	121	109	22	—	—			
SK-15	図15	I-10	円形	131	116	55	—	—			
SK-16	図15	G-14・15 H-14・15	楕円形	236	105	31	—	—			
SK-17	図15	H-14	楕円形	267	154	44	8.9	—	土器		盛土範囲3の下で確認。
SK-18	図16	H-13・14	楕円形?	(185)	163	41	118.7	—	土器		盛土範囲2の下で確認。 風倒木により西側を欠く。
SK-19	図16	I-22・23	不整形	165	144	48	—	—			SI-4と重複し、新しい。
SK-22	図16	L-29	不整形	122	118	46	—	—			
SK-23	図8	H・I-26	円形	143	122	93	—	—		十腰内IV群段階	SI-9とSK-26と重複し、SI-9より 古く、SK-26より新しい。
SK-24	図16	H-23 I-23	方形	305	(226)	59	1115.7	11.5	土器、石器(スクレイパ ー1、二次加工剥片1、 石皿・台石類1)	十腰内IV群段階から 馬場瀬段階	盛土範囲1の下で確認。 風倒木により南東側を欠く。
SK-25	図16	G・H-20	楕円形	161	100	37	—	—			
SK-26	図8	H・I-26	不整形?	(169)	(109)	98	—	—		十腰内IV群段階	SI-3とSK-23と重複し、SI-3より 新しく、SK-23より古い。
SK-27	図16	I-13	円形	119	102	34	665.8	8.0	土器、石器(二次加工 剥片1)	十腰内2式の可能性 あり	
SK-28	図16	I・J-13	円形	143	134	50	—	—			

土器観察表

※出土グリッドの()は遺構内でのグリッド位置である。

※備考の計測値の単位はcmである。口：は口径、器：は器高、底：は底径で、()は残存値、< >は推定値である。

番号	出土遺構	出土グリッド	出土層位	分類	器種	部位	文様等の属性	縄文	備考
1	SI-1	J-12、I-12	3・5層/ II～III・III層	II群c類	注口 (台付き)	口縁部～底部	口縁突起、貼瘤、刻目、沈線、 異原羽状縄文	0段多条	口：22.6、器：24.9、 底：<5.6>
2	SI-1		5層	II群c類	注口	略完形	口縁突起、貼瘤、刻目、沈線、 異原羽状縄文	0段多条	注口部欠損。口：4.7、 器：9.6、底：2.9
3	SI-1		覆土	II群c・d類	深鉢	口縁部～胴部	口縁突起、刻目、沈線、縄文?	不明	10と同一個体か。
4	SI-1		5層	II群c・d類	深鉢?	胴部	沈線、縄文	0段多条	
5	SI-1	(J-12)	覆土	II群c・d類	深鉢	口縁部	刻目、沈線	—	
6	SI-1		覆土	II群c・d類	注口?	胴部	沈線、異原羽状縄文	0段多条	
7	SI-1		覆土	II群c・d類	深鉢?	胴部	沈線、縄文	不明	
8	SI-1	(J-12)	覆土	II群c・d類	鉢	口縁部～底部	沈線	—	口：<13.4>、器：<4.2>、 底：<3.2>
9	SI-1		5層	II群c・d類	深鉢	胴部	沈線、縄文	0段多条	
10	SI-1		覆土	II群c・d類	深鉢	胴部	刻目、沈線、縄文	0段多条	3と同一個体か。
11	SI-1		覆土	II群c・d類	注口	胴部	沈線、縄文	単節?	
12	SI-1	I-12、 J-10付近	床面・覆土/ II～III・III層	II群e類	壺もしくは 注口	口縁部～底部	赤色顔料わずかに付着	—	口：9.7、器：14.4、 底：3.4
13	SI-1		覆土	III群	深鉢	口縁部	口縁突起、沈線	—	大洞BC式?
14	SI-1		5層	II群e類	深鉢	口縁部	縄文	単節?	
15	SI-1		5層	II群e類	深鉢	口縁部	羽状縄文	単節?	
16	SI-1		床面・覆土	II群e類	深鉢	口縁部～胴部	縄文	単節?	17と同一個体か。
17	SI-1		3・5層/ II～III・III層	II群e類	深鉢	胴部～底部	羽状縄文	0段多条	16と同一個体か。
18	SI-1	I-12付近、 J-12	5層・覆土/ II～III層	II群e類	深鉢	口縁部～胴部	穿孔、縄文	単節?	
19	SI-1		覆土	II群e類	深鉢	口縁部～胴部	縄文	0段多条	
20	SI-1		5層	II群e類	深鉢	底部		—	底：6.2
21	SI-1		5層・覆土/ II～III層	II群e類	深鉢	口縁部～胴部	縄文	単節?	
22	SI-2		覆土	II群c・d類	注口?	胴部	沈線、縄文	0段多条?	
23	SI-2		覆土	II群c・d類	深鉢	口縁部		—	
24	SI-2		1層	II群c・d類	台付鉢	胴部～台部	刻目、沈線	—	ミニチュア土器か。 底：3.6
25	SI-3		覆土	II群c・d類	深鉢	胴部	沈線、異原羽状縄文	0段多条	
26	SI-3		覆土	II群c・d類	注口?	胴部	沈線、異原羽状縄文	0段多条	
27	SI-3		覆土	II群c・d類	注口?	胴部	刻目、沈線	—	
28	SI-3		覆土	II群c・d類	深鉢?	胴部	沈線、異原羽状縄文	0段多条	
29	SI-3		覆土	II群e類	不明	底部		—	
30	SI-4		床面(10層)	II群c・d類	壺もしくは 注口	口縁部	沈線、異原羽状縄文	0段多条	口：13.0
31	SI-4		床面(9層)	II群c・d類	台付鉢	略完形	口縁突起、刻目、沈線、異原羽状 縄文(一部)、器面に炭化物付着	0段多条	口：11.7、器：9.7、 底：6.5
32	SI-4		床面(5層)	II群c・d類	壺	口縁部	貼瘤、刻目、沈線、縄文	0段多条	口：11.4
33	SI-4		10層	II群c・d類	壺もしくは 注口	胴部～底部	貼瘤、刻目、沈線	—	底：3.8
34	SI-4		7層・覆土 (黒色土)	II群c・d類	注口	口縁部～胴部	口縁突起、刻目、沈線、 異原羽状縄文	0段多条	
35	SI-4		5層	II群c・d類	深鉢	口縁部	口縁突起、沈線、縄文	0段多条	
36	SI-4		5層	II群c・d類	深鉢?	胴部	沈線、縄文	0段多条	
37	SI-4		5層	II群e類	深鉢	底部	縄文	不明	底：7.8
38	SI-4		5層	II群c・d類	台付鉢	胴部～台部	沈線	—	
39	SI-4		3層	II群e類	深鉢	底部	縄文	0段多条	底：10.2
40	SI-4		3層	II群e類	深鉢	口縁部	沈線、異原羽状縄文	0段多条	
41	SI-4		覆土	II群c・d類	深鉢	口縁部	口縁突起、刻目、沈線、 異原羽状縄文	0段多条	
42	SI-4		覆土(黒色土)	II群c・d類	深鉢	口縁部	口縁突起、沈線	—	
43	SI-4		覆土(黒色土)	II群c・d類	深鉢	口縁部	口縁突起、沈線、縄文	0段多条	
44	SI-4		覆土	II群c・d類	深鉢	口縁部	口縁突起、沈線、縄文	0段多条	
45	SI-4		覆土(黒色土)	II群c・d類	深鉢?	口縁部	沈線、縄文	0段多条	
46	SI-4		覆土	II群c・d類	深鉢	口縁部	口縁突起、沈線、縄文	0段多条	
47	SI-4		覆土	II群c・d類	深鉢?	胴部	沈線、縄文	0段多条	
48	SI-4		覆土(黒色土)	II群c・d類	深鉢?	胴部	沈線、異原羽状縄文	0段多条	
49	SI-4		覆土(黒色土)	II群c・d類	深鉢	胴部	沈線、異原羽状縄文	0段多条	
50	SI-4		覆土(黒色土)	II群c・d類	深鉢	胴部	沈線、異原羽状縄文	0段多条	
51	SI-4		覆土(黒色土)	II群c・d類	深鉢	胴部	沈線、縄文	0段多条	
52	SI-4		覆土(黒色土)	II群c・d類	深鉢?	胴部	沈線、縄文	0段多条	
53	SI-4		覆土(黒色土)	II群c・d類	深鉢?	胴部	沈線、縄文	0段多条	
54	SI-4		覆土(黒色土)	II群c・d類	深鉢	胴部	沈線、縄文	0段多条	
55	SI-4		覆土	II群c・d類	深鉢?	口縁部	沈線、羽状縄文	0段多条	
56	SI-4		覆土(黒色土)	II群e類	深鉢	口縁部	縄文	0段多条	
57	SI-4		覆土	II群c・d類	香炉形	—	貼瘤、沈線	—	
58	SI-4		覆土	II群c・d類	壺もしくは 注口	口縁部		—	
59	SI-4		覆土(黒色土)	II群e類	深鉢	口縁部		—	
60	SI-4		覆土	II群c・d類	注口	胴部	刻目、沈線、縄文	0段多条	

番号	出土遺構	出土グリッド	出土層位	分類	器種	部位	文様等の属性	縄文	備考
61	SI-4		覆土	II群	不明	胴部	浮線、貼瘤	—	
62	SI-4		覆土	II群c類	深鉢	底部		—	ミニチュア土器か。底：2.8
63	SI-4		覆土	II群c類	深鉢	底部	縄文	不明	ミニチュア土器か。底：3.0
64	SI-5/ SK-24	H-24	覆土/2層/ III層	II群c・d類	深鉢	口縁部～底部	刻目、沈線、異原羽状縄文	0段多条	口：〈33.2〉、器：〈30.2〉、 底：〈9.9〉
65	SI-5		覆土	II群c・d類	深鉢	口縁部	刻目、沈線	—	
66	SI-5		覆土	II群c・d類	深鉢	胴部	沈線、縄文	不明	
67	SI-5		覆土	III群?	深鉢	胴部	沈線、縄文	単節	
68	SI-5		覆土	II群c・d類	注口	注口部		—	
69	SI-5		覆土	II群c類	深鉢	口縁部	沈線、異原羽状縄文	0段多条?	
70	SI-5/ SI-6		覆土/覆土	II群c類	深鉢	口縁部	沈線、異原羽状縄文	0段多条?	
71	SI-3/ SI-6		覆土/ 16・29層	II群c・d類	壺もしくは注口	胴部～底部	沈線、異原羽状縄文	0段多条	底：3.5
72	SI-6		覆土	II群c・d類	深鉢	口縁部	口縁突起、沈線、異原羽状縄文	0段多条	
73	SI-6		29層	II群c・d類	注口?	胴部	沈線、異原羽状縄文	0段多条	
74	SI-6		4層	II群c類	深鉢	口縁部	羽状縄文	0段多条?	
75	SI-6		4層	II群c・d類	注口	口縁部～底部	沈線、縄文	0段多条?	注口部欠損。ミニチュア土器。口：1.9、器：4.3、 底：1.5
76	SI-6		22層	II群c・d類	台付鉢?	台部	刻目、沈線、異原羽状縄文	0段多条	底：7.2
77	SI-6		覆土	II群c・d類	深鉢	口縁部	刻目、沈線	—	
78	SI-6		7層	II群c・d類	注口	底部	沈線、縄文	不明	ミニチュア土器か。底：1.6
79	SI-6		4層	II群c・d類	注口	注口部	器面の一部剥落		
80	SI-6		覆土	III群	台付鉢	胴部～台部	縄文	単節	大洞C2式。 80～82は同一個体か。 底：7.8
81	SI-6		覆土	III群	台付鉢?	口縁部	口縁押圧、沈線、刺突、縄文	単節	大洞C2式。 80～82は同一個体か。
82	SI-5/ SI-6		覆土/覆土	III群	台付鉢?	胴部	沈線、刺突、雲形文、縄文	単節	大洞C2式。 80～82は同一個体か。
83	SI-6	J-25	1層/III層	III群	深鉢	口縁部～胴部	縄文、器面に炭化物付着	単節	
84	SI-8		覆土	II群c・d類	注口?	胴部	沈線、縄文	0段多条	
85	SI-8		覆土	II群c・d類	注口?	胴部	刻目、沈線、異原羽状縄文	0段多条	
86	SI-9		床面	II群c・d類	深鉢	略完形	無文	—	口：13.8、器：9.8、 底：5.6
87	SI-9		床面	II群c類	注口	口縁部～底部	口縁突起、貼瘤、刻目、沈線、 異原羽状縄文	単節?	注口部欠損。口：8.1、 器：14.4、底：3.8
89	SI-7		床面	II群d1類	単孔土器	胴部～底部	穿孔、貼瘤、刻目、沈線、 異原羽状縄文	0段多条	器：〈15.2〉、底：3.8
90	SI-7		床面	II群c・d類	台付鉢	略完形	刻目、沈線、異原羽状縄文、 器面に炭化物付着	0段多条	
91	SI-7		床面	II群d2類	深鉢	口縁部～底部	口縁突起、沈線、縄文	無節L	口：11.4、器：12.0、 底：5.4
92	SI-7		床面	II群c・d類	注口?	胴部～底部	沈線、異原羽状縄文	単節?	底：5.8
93	SI-7		覆土	II群c・d類	注口	注口部	縄文	不明	
94	SI-7		覆土	II群c・d類	台付き土器	台部		—	底：5.8
95	SI-7		覆土	II群c・d類?	鉢?	胴部～底部	沈線	—	
96	SI-7/ SK-24/ ビット12	H-22 (風倒木)、 H-23 (風倒木)	覆土/2層/ 覆土	II群c・d類	台付深鉢	口縁部～底部	沈線、異原羽状縄文	0段多条?	口：25.1、器：〈21.3〉、底： 10.2
97	SI-7		覆土	II群c・d類	深鉢	口縁部	口縁突起、沈線、縄文	単節?	
98	SI-7		覆土	II群c・d類	深鉢	口縁部	沈線、異原羽状縄文、 口縁頂部から縦に刻目列	0段多条	
99	SI-7		覆土	II群c・d類	深鉢	口縁部	沈線、縄文	0段多条	
100	SI-7		覆土	II群c・d類	深鉢	口縁部	口縁突起、縄文	0段多条	
101	SI-7		覆土	II群c・d類	深鉢	口縁部	刻目	—	
102	SI-7		覆土(黒色土)	II群c・d類	深鉢	口縁部	沈線、縄文	0段多条	
103	SI-7		覆土	II群c・d類	深鉢	口縁部	縄文、口縁頂部から縦に刻目列	0段多条?	
104	SI-7		覆土	II群c・d類	深鉢	口縁部	口縁突起、沈線、縄文	不明	
105	SI-7		覆土	II群c・d類	深鉢	口縁部	口縁突起、沈線、異原羽状縄文	0段多条?	
106	SI-7		覆土	II群c・d類	深鉢	口縁部	刻目、沈線	—	
107	SI-7		覆土	II群c・d類	深鉢?	口縁部	沈線、縄文	0段多条	
108	SI-7		覆土	II群c・d類	深鉢	口縁部	刻目、沈線、縄文	0段多条	
109	SI-7		覆土	II群c・d類	注口?	口縁部	口縁突起、沈線	—	
110	SI-7		覆土	II群b類?	深鉢	口縁部	穿孔		
111	SI-7		覆土	II群c・d類	注口?	胴部	沈線、異原羽状縄文	0段多条	
112	SI-7		覆土	II群c・d類	壺もしくは注口	胴部	沈線、異原羽状縄文	0段多条	
113	SI-7		覆土(黒色土)	II群c・d類	壺もしくは注口	胴部	沈線、羽状縄文	0段多条?	
114	SI-7		覆土	II群c・d類	深鉢?	胴部	沈線、縄文	不明	
115	SI-7		覆土(黒色土)	II群c・d類	注口?	胴部	沈線、縄文	0段多条?	
116	SI-7		覆土	II群c・d類	深鉢?	胴部	沈線、異原羽状縄文	不明	

番号	出土遺構	出土グリッド	出土層位	分類	器種	部位	文様等の属性	縄文	備考
117	SI-7		覆土	II群c・d類	壺もしくは注口	胴部		—	
118	SI-7		覆土	II群c・d類	注口?	胴部	羽状縄文	0段多条	
119	SI-7		覆土(黒色土)	II群c・d類	注口?	胴部	沈線、縄文	0段多条?	
120	SI-7	I-13	覆土/ II~III層	II群b類	深鉢	口縁部	沈線	—	
121	SI-7		覆土	III群?	深鉢	胴部	縄文	単節	
122	SI-7		覆土	II群c・d類	鉢	口縁部~底部	異原羽状縄文	0段多条?	口: 22.3、器: 10.5、底: 1.8
123	SI-7		覆土(黒色土)	II群e類	深鉢	口縁部	羽状縄文	0段多条?	
124	SI-7		覆土	II群e類	深鉢	胴部		—	
125	SI-7	I-15	覆土(黒色土) /II層	II群e類	深鉢	口縁部~胴部	異原羽状縄文	0段多条	
126	SI-7		覆土(黒色土)	II群e類	深鉢	口縁部	羽状縄文	0段多条	
127	SI-7		覆土	II群e類	深鉢	口縁部	羽状縄文	0段多条	
128	SI-7		覆土	II群e類	深鉢	口縁部	縄文	0段多条	
129	SI-7		覆土(黒色土)	II群e類	深鉢	口縁部	異原羽状縄文	単節?	
130	SI-7		覆土	II群e類	深鉢	口縁部	口縁部折り返して成形	—	
131	SI-7		覆土	II群e類	深鉢	口縁部	羽状縄文?	単節?	
132	SI-7	G-16	覆土(黒色土) /II~III層	II群e類	深鉢	口縁部~胴部	縄文	0段多条	同一個体片に径5mmの穿孔あり。
133	SI-7		覆土	II群e類	深鉢	口縁部~胴部	縄文	0段多条	口: <28.0>
134	SI-7		覆土	不明	不明	底部	縄文、表面に黒色の付着物	単節	
135	SI-7		覆土	II群e類?	深鉢	胴部	縄文	単節?	
136	SK-6		1層	II群c・d類	深鉢	胴部	沈線、羽状縄文	0段多条	
137	SK-12	(I-10)	覆土	II群c・d類	深鉢?	胴部	沈線、異原羽状縄文	0段多条	
138	SK-12	(I-10)	2~3層	II群b類	深鉢	胴部	沈線	—	
139	SK-18		覆土	II群b類	深鉢	口縁部	沈線、縄文	単節?	
140	SK-18		覆土	II群a類?	深鉢	口縁部	沈線	—	
141	SK-24		2層	II群c・d類	深鉢	口縁部	沈線、縄文	0段多条?	
142	SK-24		2層	II群c・d類	深鉢	胴部	刻目、沈線、縄文	0段多条	
143	SK-24		2層	II群c・d類	注口?	胴部	刻目、沈線	—	
144	SK-24		2層	II群c・d類	深鉢	胴部	沈線、縄文	0段多条?	
145	SK-24		2層	II群e類	深鉢	口縁部	羽状縄文	単節?	
146	SK-27		覆土	II群b類?	深鉢	胴部	沈線、縄文	単節	
147	SK-27		覆土	II群e類	深鉢	口縁部~胴部		—	
148	SK-27	I-13	覆土/II層	II群b類?	深鉢	口縁部~胴部	沈線、縄文	単節	
149	SK-27		覆土	II群e類	深鉢	胴部	縄文		
150	SK-27		覆土	II群b類	注口	注口部	沈線	—	
151	SK-27		覆土	II群b類	注口	注口部	沈線	—	
152	SK-27		覆土	II群b類	注口	口縁部~胴部	沈線、内外面に赤色顔料残存	—	口: 7.3
153	SB-ピット23		覆土	II群c・d類	深鉢	口縁部	口縁突起、沈線、縄文	0段多条	
154	SB-ピット23		覆土	II群c・d類	深鉢	口縁部	刻目、沈線、異原羽状縄文	0段多条	
155	SB-ピット23		覆土	II群e類	深鉢	口縁部	羽状縄文	0段多条	
156	SB-ピット25	H-18	覆土/II層	II群c類	注口	口縁部	沈線、縄文	0段多条	
157	SB-ピット25		覆土	II群e類	注口	胴部~底部	貼瘤、沈線、異原羽状縄文	0段多条	器: (21.6)、底: 2.8
158	SB-ピット25		覆土	II群e類	深鉢	口縁部	羽状縄文	0段多条	
159	SB-ピット26		覆土	II群c・d類	深鉢?	胴部	沈線、異原羽状縄文	0段多条	
160	SN-2		覆土	II群c・d類	深鉢?	胴部	沈線、異原羽状縄文	0段多条	
161	SN-2		覆土	II群c・d類	注口?	胴部	縄文	0段多条	
162	SN-2		覆土	II群e類	深鉢	口縁部	羽状縄文	0段多条	
163	SN-2		覆土	II群e類	深鉢	口縁部	縄文	0段多条?	
164	SN-2		覆土	II群c・d類	鉢?	口縁部	縄文	0段多条?	
165	SN-2		覆土	II群e類	深鉢	底部	縄文	単節	底: 10.7
166	SN-2		覆土	II群e類	深鉢	口縁部~胴部	縄文	単節	口: <30.0>
167	遺構外	H-25	III層	I群	深鉢	胴部	縄文	単軸絡条体1類	
168	遺構外	J-25	III層	I群	深鉢	胴部	縄文、胎土に繊維混入	単軸絡条体1類	
169	遺構外	J-9	II~III層	I群	深鉢	口縁部	L押圧施文、羽状縄文(結束第1種)、胎土に繊維混入	単節	
170	遺構外	E-20	II~III層	I群	深鉢	底部	縄文、胎土に繊維混入	単節	
171	遺構外	G-16	II~III層	II群a類	深鉢	口縁部	沈線	—	
172	遺構外	H-16	II層	II群a類	深鉢	口縁部	沈線、縄文	単節	
173	遺構外	H-19	II層	II群a類	深鉢	胴部	沈線、縄文	単節	
174	遺構外	I-13	II層	II群a類	深鉢	口縁部	沈線、縄文	不明	
175	遺構外	I-13、I-14	II層	II群b類	深鉢	口縁部~胴部	沈線、縄文	単節	
176	遺構外	H-13、I-12、I-13	II層、II~III層、III層	II群b類	深鉢	口縁部~胴部	沈線、縄文	単節	
177	遺構外	I-14	II層	II群b類	深鉢	口縁部	沈線、縄文	単節	
178	遺構外	I-13	II層	II群b類	深鉢	口縁部	沈線、縄文	無節?	
179	遺構外	H-15	II層	II群b類	深鉢	口縁部	沈線、縄文	単節	
180	遺構外	I-12	II~III層	II群b類	深鉢	口縁部	縄文、沈線?	単節	
181	遺構外	H-13、I-13	II~III層	II群b類	深鉢	胴部	沈線	単節	
182	遺構外	I-13	II層	II群b類	深鉢	胴部	沈線、縄文	単節	

番号	出土遺構	出土グリッド	出土層位	分類	器種	部位	文様等の属性	縄文	備考
183	遺構外	J-10付近	Ⅱ～Ⅲ層	Ⅱ群b類	鉢?	口縁部	沈線、縄文	不明	
184	遺構外	H-17	Ⅱ層	Ⅱ群b類	深鉢?	胴部	沈線、内面に黒色の付着物	—	
185	遺構外	H-16	Ⅱ層	Ⅱ群b類	深鉢?	胴部	沈線、内面に黒色の付着物	—	
186	遺構外	I-13	Ⅱ層	Ⅱ群b類	深鉢	底部	底面網代痕	—	底: 7.6
187	遺構外	I-13	Ⅱ層	Ⅱ群b類	深鉢	口縁部	—	—	
188	遺構外	I-13	Ⅱ～Ⅲ層	Ⅱ群b類	深鉢	口縁部	縄文、沈線?	不明	
189	遺構外	I-13	Ⅲ層	Ⅱ群b類	深鉢	口縁部	沈線、縄文	単節	
190	遺構外	H-12	Ⅱ～Ⅲ層	Ⅱ群b類	深鉢	胴部	沈線、縄文	単節	
191	遺構外	I-13	Ⅱ層	Ⅱ群b類	深鉢	胴部	沈線、縄文	単節?	
192	遺構外	I-13	Ⅱ層	Ⅱ群b類	深鉢	胴部	沈線、縄文	単節	
193	遺構外	I-13	Ⅱ層	Ⅱ群b類	深鉢	口縁部	沈線、縄文	単節?	
194	遺構外	I-13	Ⅱ層	Ⅱ群b類	深鉢	胴部	沈線、縄文	単節	
195	遺構外	I-13	Ⅱ層	Ⅱ群b類	深鉢	胴部	沈線、縄文	単節	
196	遺構外	H-13、I-13	Ⅱ層、Ⅱ～Ⅲ層	Ⅱ群b類	深鉢	胴部	沈線、縄文	単節	
197	遺構外	表探		Ⅱ群b類	深鉢	口縁部	沈線、縄文	単節?	
198	遺構外	I-10	Ⅱ層	Ⅱ群b類	深鉢	胴部	沈線	単節	
199	遺構外	I-11	Ⅲ層	Ⅱ群b類	深鉢	胴部	沈線	—	
200	遺構外	H-13、J-10、J-10付近	Ⅱ～Ⅲ層、Ⅲ層	Ⅱ群b類	鉢	口縁部～底部	沈線、縄文	単節	底: 6.8
201	遺構外	H-14付近	Ⅱ～Ⅲ層	Ⅱ群b類	深鉢	口縁部～胴部	沈線、縄文	単節	
202	遺構外	H-13	Ⅱ～Ⅲ層	Ⅱ群b類	深鉢	口縁部	沈線、縄文	単節	
203	遺構外	H-12	Ⅱ～Ⅲ層	Ⅱ群b類	深鉢	胴部～底部	沈線、縄文 内面に黒色の付着物	単節	底: 4.5
204	遺構外	H-14付近	Ⅱ～Ⅲ層	Ⅱ群b類	深鉢	胴部	沈線、縄文	単節	
205	遺構外	H-13、H-14付近	Ⅱ～Ⅲ層、Ⅲ層	Ⅱ群b類	深鉢	口縁部～底部	口唇部縄文、L押圧施文、縄文	単節	口: 15.4、器: 17.4、底: 5.7
206	遺構外	H-12	Ⅲ層	Ⅱ群b類	深鉢	口縁部	口唇部縄文、沈線、縄文	単節	
207	遺構外	H-13	Ⅱ～Ⅲ層、Ⅲ層	Ⅱ群b類	深鉢	口縁部～底部	口唇部縄文、沈線、縄文	単節	口: 16.7、器: 13.9、底: 6.4
208	遺構外	H-14、H-15	Ⅱ層、Ⅲ層	Ⅱ群b類	深鉢	口縁部～胴部	縄文	単節	
209	遺構外	I-15	Ⅱ層	Ⅱ群b類	深鉢	口縁部～胴部	縄文	単節	
210	遺構外	I-13	Ⅱ層	Ⅱ群b類	深鉢	口縁部	沈線、縄文	単節	
211	遺構外	H-10付近、H-13、H-14、I-12、I-13	Ⅱ層、Ⅱ～Ⅲ層、Ⅲ層	Ⅱ群b類	深鉢	口縁部	口縁突起、隆帯	—	
212	遺構外	I-13	Ⅱ層	Ⅱ群b類	深鉢	口縁部	口縁突起、隆帯、刻目、沈線	—	
213	遺構外	H-13	Ⅲ層	Ⅱ群b類	深鉢	口縁部	沈線、刺突	—	
214	遺構外	H-17	Ⅱ層	Ⅱ群b類	深鉢	胴部	沈線、刺突、縄文	不明	
215	遺構外	H-16	Ⅱ層	Ⅱ群b類	深鉢	胴部	沈線、刺突、縄文	不明	
216	遺構外	H-14、H-14付近、I-12、I-13	Ⅱ層、Ⅱ～Ⅲ層、Ⅲ層	Ⅱ群b類	注口	胴部～底部	沈線、 外面にわずかに赤色顔料残存	—	底: 3.4
217	遺構外	I-14	Ⅱ層	Ⅱ群b類	注口	胴部	沈線	—	
218	遺構外	G-17、H-13	Ⅱ～Ⅲ層	Ⅱ群b類	注口	胴部	沈線	—	
219	遺構外	H-15	Ⅱ層	Ⅱ群b類	注口	胴部	沈線	—	
220	遺構外	H-14	Ⅲ層	Ⅱ群b類	注口	胴部	沈線	—	
221	遺構外	G-16	Ⅱ～Ⅲ層	Ⅱ群?	深鉢	口縁部	羽状縄文	0段多条?	
222	遺構外	G-17	Ⅱ～Ⅲ層	Ⅱ群?	深鉢	胴部	沈線、羽状縄文	0段多条?	
223	遺構外	I-15、I-16	Ⅱ層	Ⅱ群c・d類	深鉢	口縁部～胴部	口縁突起、沈線、異原羽状縄文	0段多条	口: <28.6>
224	遺構外	F-19	Ⅱ～Ⅲ層	Ⅱ群c・d類?	深鉢	口縁部～胴部	口縁突起、沈線、縄文	無節L	
225	遺構外	F-20	Ⅱ～Ⅲ層	Ⅱ群c・d類	深鉢?	口縁部	沈線、縄文	0段多条	
226	遺構外	H-14付近	Ⅱ～Ⅲ層	Ⅱ群c・d類	深鉢	口縁部	沈線、縄文	0段多条	
227	遺構外	I-12	Ⅲ層	Ⅱ群c・d類	深鉢	口縁部	沈線、縄文	0段多条	
228	遺構外	G-22	Ⅱ～Ⅲ層	Ⅱ群c・d類	深鉢	口縁部	刻目、沈線	—	
229	遺構外	H-13、I-13	Ⅲ層	Ⅱ群c・d類	深鉢	口縁部	刻目、沈線	—	
230	遺構外	H-14	Ⅱ～Ⅲ層	Ⅱ群c・d類	深鉢	口縁部	刻目、沈線、羽状縄文	0段多条	
231	遺構外	I-13	Ⅱ層	Ⅱ群c・d類	深鉢	口縁部	沈線、縄文	0段多条	
232	遺構外	J-7付近	Ⅱ～Ⅲ層	Ⅱ群c・d類	深鉢	口縁部	刻目、沈線、縄文	0段多条	
233	遺構外	H-26	覆土	Ⅱ群c・d類	深鉢	口縁部	刻目、沈線	—	
234	遺構外	G-16	Ⅱ～Ⅲ層	Ⅱ群c・d類	深鉢	口縁部	刻目、沈線	—	
235	遺構外	H-15	Ⅱ層	Ⅱ群d1類	深鉢	口縁部～胴部	貼瘤、沈線、異原羽状縄文	0段多条?	
236	遺構外	J-9、J-10付近	Ⅱ～Ⅲ層、Ⅲ層	Ⅱ群c・d類	深鉢	口縁部	刻目、沈線、縄文	0段多条?	
237	遺構外	H-16	Ⅱ層	Ⅱ群c・d類	深鉢	口縁部	刻目	—	
238	遺構外	G-16	Ⅱ～Ⅲ層	Ⅱ群c・d類	深鉢	口縁部	刻目、沈線	—	
239	遺構外	I-14	Ⅱ層	Ⅱ群c・d類	深鉢	口縁部	刻目、沈線	—	
240	遺構外	G-16付近	Ⅱ～Ⅲ層	Ⅱ群c・d類	深鉢	口縁部	口縁突起、貼瘤、沈線、 異原羽状縄文	0段多条	
241	遺構外	不明		Ⅱ群c・d類	深鉢	口縁部	口縁突起、刻目、沈線、 口縁頂部から縦に刻目列	—	
242	遺構外	I-15	Ⅱ層	Ⅱ群c・d類	深鉢	口縁部	口縁突起、沈線、縄文	0段多条	
243	遺構外	H-14	Ⅲ層	Ⅱ群c・d類	深鉢	口縁部	口縁突起、刻目、沈線、 異原羽状縄文	0段多条	
244	遺構外	I-13	Ⅱ層	Ⅱ群c・d類	深鉢	口縁部	口縁突起、刻目、沈線	—	
245	遺構外	H-14付近	Ⅱ～Ⅲ層	Ⅱ群c・d類	深鉢	口縁部	口縁突起、沈線、異原羽状縄文	0段多条?	

番号	出土遺構	出土グリッド	出土層位	分類	器種	部位	文様等の属性	縄文	備考
246	遺構外	H-16	II層	II群c・d類	深鉢	口縁部	口縁突起、刻目、沈線、縄文	0段多条	
247	遺構外	H-13	III層	II群c・d類	深鉢	口縁部	口縁突起、沈線、縄文	0段多条	
248	遺構外	H-17	II層	II群c・d類	深鉢	口縁部	口縁突起、沈線、縄文	0段多条	
249	遺構外	H-14付近	II～III層	II群c・d類	深鉢	口縁部	沈線、縄文	0段多条	
250	遺構外	H-16	II層	II群c・d類	深鉢	口縁部	刻目、沈線、縄文	0段多条	
251	遺構外	H-13	II～III層	II群c・d類	深鉢?	胴部	刻目、沈線、異原羽状縄文	0段多条	
252	遺構外	J-10付近	II～III層	II群c・d類	深鉢	胴部	刻目、沈線、異原羽状縄文	0段多条	
253	遺構外	J-7付近	II～III層	II群c・d類	深鉢	胴部	刻目、沈線、異原羽状縄文	0段多条?	
254	遺構外	H-14付近	II～III層	II群c・d類	深鉢?	胴部	沈線、異原羽状縄文	0段多条	
255	遺構外	J-7付近	II～III層	II群c・d類	深鉢?	胴部	沈線、縄文	不明	
256	遺構外	H-16	II層	II群c・d類	深鉢?	胴部	沈線、異原羽状縄文	0段多条	
257	遺構外	F-19	II～III層	II群c・d類?	深鉢	胴部	沈線、縄文	単節	
258	遺構外	H-13	III層	II群c・d類	深鉢	底部	沈線、異原羽状縄文	0段多条	底: 6.7
259	遺構外	I-23	II層	II群c・d類	深鉢	胴部～底部	沈線、異原羽状縄文	0段多条?	底: 6.9
260	遺構外	I-15	II層	II群c・d類	壺もしくは注口	口縁部	沈線、縄文	0段多条	口: 19.6
261	遺構外	I-12	III層	II群c・d類	壺もしくは注口	口縁部	沈線、縄文	単節	
262	遺構外	I-13	II層	II群c・d類	注口?	口縁部	刻目、沈線	—	
263	遺構外	H-14	II～III層	II群c・d類	注口?	口縁部	刻目、沈線	—	
264	遺構外	E-19、E-20、F-20、G-21	II～III層	II群d1類	注口	胴部、底部	貼瘤、刻目、沈線、異原羽状縄文	0段多条	
265	遺構外	H-14付近	II～III層	II群c・d類	壺もしくは注口	胴部	沈線、異原羽状縄文	0段多条	
266	遺構外	H-15	II層	II群c・d類	壺もしくは注口	胴部	貼瘤、沈線、異原羽状縄文	0段多条	
267	遺構外	H-13	III層	II群c・d類	注口?	胴部	刻目、沈線、縄文	0段多条	
268	遺構外	J-10付近	II～III層	II群c・d類	壺もしくは注口	胴部	沈線、異原羽状縄文	0段多条	
269	遺構外	I-12	II層、II～III層	II群c・d類	注口?	胴部	沈線、縄文	0段多条?	
270	遺構外	H-16	II層	II群c・d類	注口	胴部	貼瘤、刻目、沈線、異原羽状縄文	0段多条	
271	遺構外	G-16	II～III層	II群c・d類	注口?	胴部	沈線、異原羽状縄文	0段多条	
272	遺構外	G-16	II～III層	II群c・d類	注口?	胴部	沈線、異原羽状縄文	0段多条	
273	遺構外	F-20	II～III層	II群c・d類	注口	胴部	沈線、縄文	0段多条	
274	遺構外	I-12	III層	II群c・d類	注口?	胴部	沈線、縄文	0段多条?	
275	遺構外	H-14	II～III層	II群d1類	注口	胴部	口縁突起、貼瘤、刻目、沈線、異原羽状縄文	0段多条	口: 7.8、器: 15.2、底: 4.4
276	遺構外	J-8、J-8(風倒木)	II～III層	II群c類	注口	胴部	口縁突起、貼瘤、刻目、沈線、異原羽状縄文	0段多条	口: 8.0、器: 18.1、底: 4.8
277	遺構外	H-17	II層	II群c・d類	注口	注口部	—	—	
278	遺構外	不明	II～III層	II群c・d類	注口	注口部	縄文	0段多条	
279	遺構外	H-13、H-14付近	II～III層	II群d1類?	壺もしくは注口	胴部～底部	沈線、縄文	0段多条?	
280	遺構外	H-26、I-27	II層	II群c・d類	注口?	胴部	沈線、縄文	0段多条	
281	遺構外	H-13、I-12、I-13	II層、III層	II群d1類?	注口	胴部	沈線、縄文	単節?	
282	遺構外	H-12、H-13	II～III層	II群c・d類	壺もしくは注口	胴部～底部	沈線、縄文	0段多条	
283	遺構外	H-15	II層	II群c・d類	注口?	口縁部	口縁突起、貼瘤、刻目、沈線	—	口: 8.3
284	遺構外	H-12	II～III層	II群c・d類	鉢	口縁部～底部	刻目、沈線	—	口: 9.5、器: 4.8、底: 2.5
285	遺構外	G-16、H-14付近	II～III層	II群c・d類	鉢	口縁部～底部	口縁突起、刻目、沈線、羽状縄文	0段多条	口: 12.0
286	遺構外	H-17	II層	II群c・d類	鉢?	底部	刻目、沈線、内面に黒色の付着物	—	底: 4.4
287	遺構外	H-16	II層	II群c・d類	台付き土器	台部	刻目、沈線	—	ミニチュア土器か。底: 3.3
288	遺構外	H-13	III層	II群c・d類	台付き土器	台部	刻目、沈線	—	ミニチュア土器か。
289	遺構外	H-12	II～III層	II群c・d類	香炉形	底部	沈線、縄文	無節L	底: 2.3
290	遺構外	H-14	III層	II群?	深鉢	口縁部	沈線、縄文	0段多条?	
291	遺構外	I-14	II層	II群?	深鉢	胴部	沈線、縄文	0段多条?	
292	遺構外	I-10、J-10付近	II～III層、III層	II群	深鉢	胴部	沈線、羽状縄文	0段多条?	
293	遺構外	H-17	II層	III群	鉢	口縁部	平行沈線、粘土瘤、口縁内側横走沈線	—	大洞A式
294	遺構外	G-16	II～III層	III群	鉢	口縁部	平行沈線、粘土瘤、口縁内側横走沈線	—	大洞A式
295	遺構外	H-17	II層	III群	鉢形?	口縁部～胴部	口縁部突起、工字文、縄文、口縁内側横走沈線	単節	大洞A式
296	遺構外	H-18	II層	III群	広口壺	口縁部～底部	穿孔、縄文、外面に炭化物付着	単節	晩期。口: <25.2>、器: <33.5>、底: <8.6>
297	遺構外	E-20	II～III層	III群	深鉢?	口縁部	平行沈線、粘土瘤、縄文	単節?	大洞A式
298	遺構外	F-19	II～III層	III群	深鉢?	胴部	平行沈線、粘土瘤	—	大洞A式

番号	出土遺構	出土グリッド	出土層位	分類	器種	部位	文様等の属性	縄文	備考
299	遺構外	I-12付近	Ⅱ～Ⅲ層	Ⅲ群	深鉢?	口縁部	平行沈線、粘土瘤、縄文	単節	大洞A式
300	遺構外	表探		Ⅲ群	深鉢	口縁部	波状口縁、縄文	単節	晩期
301	遺構外	G-17付近	Ⅱ～Ⅲ層	Ⅲ群	深鉢?	口縁部	波状口縁、縄文	単節	晩期
302	遺構外	H-14付近	Ⅱ～Ⅲ層	Ⅱ群e類	鉢	口縁部～底部	縄文	単節?	口:9.2、器:7.8、底:4.4
303	遺構外	I-10、I-10付近、J-10付近	Ⅱ～Ⅲ層、Ⅲ層	Ⅱ群e類	鉢	口縁部～底部	縄文	0段多条?	口:<12.7>、器:<5.4>、底:<2.8>
304	遺構外	G-16、G-17	Ⅱ～Ⅲ層	Ⅱ群e類	深鉢	胴部	縄文	単軸絡条体5類	
305	遺構外	H-16付近	Ⅱ～Ⅲ層	Ⅱ群e類	深鉢	胴部	縄文	単軸絡条体5類	
306	遺構外	E-19	Ⅱ～Ⅲ層	Ⅱ群e類	深鉢	胴部	条痕文	—	
307	遺構外	H-14付近	Ⅱ～Ⅲ層	Ⅱ群e類	深鉢	胴部	縄文	単節?	
308	遺構外	G-16、G-17	Ⅱ～Ⅲ層	Ⅱ群e類	深鉢	口縁部～胴部	縄文	0段多条	口:<31.2>
309	遺構外	H-15、H-16、I-15	Ⅱ層	Ⅱ群e類	深鉢	口縁部	異原羽状縄文	0段多条	
310	遺構外	G-15、G-16付近、H-14付近	Ⅱ～Ⅲ層、Ⅲ層	Ⅱ群e類	深鉢	口縁部～胴部	縄文	0段多条	
311	遺構外	I-15	Ⅱ層	Ⅱ群e類	深鉢	口縁部	異原羽状縄文、外面に炭化物付着	0段多条	
312	遺構外	G-17	Ⅱ～Ⅲ層	Ⅱ群e類	深鉢	口縁部	羽状縄文	0段多条	
313	遺構外	G-16、G-17	Ⅱ～Ⅲ層	Ⅱ群e類	深鉢	口縁部	縄文	0段多条?	
314	遺構外	H-14	Ⅲ層	Ⅱ群e類	深鉢	口縁部	羽状縄文	0段多条	
315	遺構外	H-16	Ⅱ層	Ⅱ群e類	深鉢	口縁部	異原羽状縄文	0段多条?	
316	遺構外	H-16	Ⅲ層	Ⅱ群e類	深鉢	口縁部	異原羽状縄文	0段多条	
317	遺構外	H-13	Ⅲ層	Ⅱ群e類	深鉢	口縁部	縄文	単節?	
318	遺構外	J-7付近	Ⅱ～Ⅲ層	Ⅱ群e類	深鉢	口縁部	縄文	単節?	
319	遺構外	H-16	Ⅱ層	Ⅱ群e類	深鉢	口縁部	縄文、内面に炭化物付着	0段多条	
320	遺構外	H-14付近	Ⅱ～Ⅲ層	Ⅱ群e類	深鉢?	口縁部	縄文	単節?	
321	遺構外	I-15	Ⅱ層	Ⅱ群e類	深鉢	口縁部～胴部	縄文	0段多条	口:<35.6>
322	遺構外	I-13	Ⅱ層	Ⅱ群e類	深鉢	口縁部～胴部	異原羽状縄文、外面に炭化物付着	単節	
323	遺構外	H-12	Ⅲ層	Ⅱ群e類	深鉢	口縁部	縄文	不明	
324	遺構外	H-17	Ⅱ層	Ⅱ群e類	深鉢	胴部	異原羽状縄文	0段多条	
325	遺構外	I-14	Ⅱ層	Ⅱ群e類	深鉢	口縁部～胴部	異原羽状縄文、外面に炭化物付着	0段多条	
326	遺構外	H-14	Ⅲ層	Ⅱ群e類	深鉢	口縁部		—	
327	遺構外	F-20	Ⅱ～Ⅲ層	Ⅱ群e類	深鉢?	口縁部		—	
328	遺構外	I-13	Ⅱ層	Ⅱ群e類	深鉢?	口縁部		—	
329	遺構外	J-10付近	Ⅱ～Ⅲ層	Ⅱ群e類	深鉢	底部	内外面にわずかに赤色顔料残存	—	底:4.6
330	遺構外	J-10付近	Ⅱ～Ⅲ層	Ⅱ群e類	深鉢	底部	縄文	単節	底:6.5
331	遺構外	I-13	Ⅱ層	Ⅱ群e類	深鉢	底部	縄文、底面網代痕	0段多条	底:10.9
332	遺構外	H-16	Ⅱ層	Ⅱ群e類	深鉢	底部	異原羽状縄文	0段多条	底:10.7
333	遺構外	J-26	Ⅱ層	Ⅱ群e類	深鉢	底部	底面網代痕	—	
334	遺構外	I-13	Ⅱ層	Ⅱ群e類	鉢?	胴部～底部	沈線、縄文	単節?	
335	遺構外	H-16	Ⅱ層	Ⅱ群e類	注口?	底部		—	

土製品観察表

※()は残存値である。

番号	出土遺構	出土グリッド	出土層位	器種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	部位	文様等の属性	縄文	備考
88	SI-7		床面	スタンプ形土製品	62	(49)	40	85.5	—	貼付、刺突、刻目、沈線、 異原羽状縄文	0段多条	人面部分一部 欠損
336	遺構外	H-16	II層	円盤状土製品	27	26	7	5.7	—	沈線、羽状縄文	0段多条	

剥片石器観察表

番号	出土位置	グリッド	層位	器種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石 材	備 考
1	SI-1		3層	石鏃(無茎石鏃・尖基)	36.7	20.9	9.1	5.6	鉄石英	基部欠損か
2	SI-1		覆土	石鏃(無茎石鏃・尖基)	46.0	14.5	8.3	4.0	珩質頁岩	
3	SI-1	I-11	覆土上層	石鏃(棒状)	53.5	9.3	8.9	3.2	珩質頁岩	
4	SI-1		覆土	石匙(横長身部)	36.4	43.8	10.0	9.0	珩質頁岩	
5	SI-1		覆土	スクレイパー (急角度刃部・搔器)	51.2	51.3	13.9	39.6	珩質頁岩	
6	SI-1		5層	スクレイパー(削器)	62.0	23.3	10.6	9.7	珩質頁岩	
7	SI-1		覆土	スクレイパー(削器)	47.7	41.4	12.8	24.7	玉髓	
13	SI-2		1層	スクレイパー(削器)	89.8	34.4	12.6	33.7	珩質頁岩	破線は節理面
19	SI-3		覆土	石鏃(つまみ部明瞭)	27.1	24.8	7.1	3.4	玉髓	
20	SI-3		覆土	スクレイパー(削器)	62.5	34.6	11.7	16.6	珩質頁岩	
21	SI-3	I-26	覆土	スクレイパー(削器)	63.4	34.5	10.7	18.4	珩質頁岩	
22	SI-3		覆土	スクレイパー(削器)	42.8	45.7	12.3	18.3	黒曜石	
23	SI-4		覆土	石鏃(有茎石鏃)	27.4	11.6	6.2	1.4	珩質頁岩	
24	SI-4		覆土	石鏃(有茎石鏃)	27.7	12.4	3.3	0.6	珩質頁岩	
25	SI-4		覆土	石槍(5cm以上)	55.2	22.4	9.3	9.1	珩質頁岩	基部欠損
26	SI-4		覆土	石筥(大石平型石筥)	45.9	28.1	12.0	11.3	珩質頁岩	
27	SI-4		覆土	スクレイパー(削器)	33.6	58.9	13.9	18.8	珩質頁岩	
28	SI-5		覆土	スクレイパー (急角度刃部・搔器)	62.9	37.8	17.1	33.9	珩質頁岩	
31	SI-7		覆土	石鏃(無茎石鏃・凹基)	18.2	17.9	6.4	2.1	玉髓	基部残存
32	SI-7		覆土	石匙(縦長身部)	64.5	20.9	9.2	9.9	珩質頁岩	
33	SI-7		覆土	石匙(縦長身部)	81.0	36.4	12.4	26.5	珩質頁岩	
34	SI-7		覆土	スクレイパー(削器)	78.6	33.4	19.1	23.0	珩質頁岩	
35	SI-7		覆土	スクレイパー(削器)	95.0	38.5	18.1	46.9	珩質頁岩	
36	SI-7		覆土	スクレイパー(削器)	36.4	39.3	8.8	14.2	珩質頁岩	下半欠損
37	SI-7		覆土	スクレイパー(削器)	64.4	45.9	15.5	47.5	玉髓	
38	SI-7		覆土	スクレイパー(削器)	73.0	60.2	16.6	42.0	珩質頁岩	
47	SK-24		2層	スクレイパー (急角度刃部・搔器)	77.5	44.0	13.3	41.0	珩質頁岩	
49	遺構外	H-17	II層	石鏃(無茎石鏃・凹基)	18.4	13.2	2.5	0.4	玉髓	
50	遺構外	G-15	II～III	石鏃(無茎石鏃・凹基)	32.7	18.5	5.0	2.1	珩質頁岩	
51	遺構外	H-16	II層	石鏃(無茎石鏃・凹基)	42.2	12.1	3.8	1.4	珩質頁岩	
52	遺構外	H-16	II層	石鏃(棒状)	48.0	15.9	9.1	5.2	珩質頁岩	
53	遺構外	I-23(攪乱)	攪乱	石筥(撥形)	51.7	37.7	17.1	31.2	珩質頁岩	
54	遺構外	K-6(風倒木)	覆土	石筥(撥形)	85.1	36.7	20.3	58.4	珩質頁岩	
55	遺構外	表探	-	スクレイパー(削器)	81.6	29.3	12.9	23.8	珩質頁岩	
56	遺構外	I-13	II層	スクレイパー(削器)	35.3	21.3	9.0	5.4	珩質頁岩	
57	遺構外	H-26	覆土	スクレイパー(削器)	38.5	17.0	6.7	4.6	玉髓	
58	遺構外	I-23(攪乱)	攪乱	スクレイパー (急角度刃部・搔器)	63.6	94.9	16.5	82.3	珩質頁岩	破線は節理面
59	遺構外	I-12	II～III	スクレイパー(削器)	30.3	31.9	10.3	10.6	玉髓	下半欠損
60	遺構外	I-13	II層	スクレイパー(削器)	117.2	43.7	13.9	44.7	珩質頁岩	
61	遺構外	H-16	II層	スクレイパー(削器)	65.4	58.3	24.8	87.9	珩質頁岩	
62	遺構外	H-22(風倒木)、 H-23(風倒木)		スクレイパー(削器)	61.7	35.6	11.6	21.5	珩質頁岩	白抜きはガジリ
63	遺構外	I-13	II層	スクレイパー(削器)	69.0	42.2	13.6	23.2	珩質頁岩	
64	遺構外	J-9	II～III	二次加工剥片	43.2	35.3	12.6	15.1	玉髓	
65	遺構外	I-12	II～III	二次加工剥片(石鏃未成品)	33.5	27.6	9.2	7.7	珩質頁岩	
66	遺構外	H-13	II～III	二次加工剥片(石鏃未成品)	29.2	20.2	6.5	3.1	鉄石英	
67	遺構外	J-10	III	微細剥離痕のある剥片	66.2	76.1	15.2	49.0	珩質頁岩	
68	遺構外	I-13	III	石核	38.0	45.2	18.2	34.0	珩質頁岩	

礫石器観察表

番号	出土位置	グリッド	層位	器種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石材	備考
8	SI-1		床面	磨製石斧	72	51	28	161.5	安山岩	刃部残存。整形時の敲打痕残る。
9	SI-1	I-12	覆土上層	磨製石斧	32	17	6	4.6	粘板岩	基部～刃部残存。
10	SI-1		5層	磨製石斧	54	35	15	48.4	緑色片岩	刃部残存。欠損部に敲打痕。二次利用？
11	SI-1		5層	石皿・ 台石類	180	97	79	1740.9	安山岩	表裏両面・両側面に凹み。
14	SI-2	J-12	1層・ 覆土上層	磨製石斧	160	59	30	706.3	粗粒玄武岩	基部～刃部残存。左右非対称の刃部。側縁に敲打痕。基部側先端欠損。
15	SI-2		1層	磨製石斧	106	47	21	149.7	粗粒玄武岩	刃部の一部欠損。整形時の敲打痕残る。
16	SI-2		1層	磨製石斧	99	44	33	198.3	粗粒玄武岩	基部残存。欠損部縁辺に敲打痕。二次利用？
17	SI-2		1層	敲磨石類	114	88	56	823.0	花崗閃緑岩	表裏両面に磨り、表面に凹み。
18	SI-2		床面直上	石皿・ 台石類	403	460	91	25240.0	安山岩	石皿。表裏両面に磨り。使用部分以外は自然面。
29	SI-6		4層	磨製石斧	103	40	22	151.9	安山岩	刃部残存。側縁に敲打痕。
30	SI-6		7層	敲磨石類	182	92	42	1156.4	安山岩	表面に凹み。表面にわずかに磨り痕か？
39	SI-7		覆土	敲磨石類	90	69	32	254.6	安山岩	表裏両面に凹み。
40	SI-7	I-14	覆土	敲磨石類	103	76	43	464.7	安山岩	表面に凹み。
41	SI-7		覆土	敲磨石類	101	73	24	329.1	安山岩	下半は欠損か。表裏両面に凹み。
42	SI-7		覆土	敲磨石類	96	51	40	241.3	安山岩	使用により欠損。表裏両面に凹み。
43	SI-7		覆土	敲磨石類	75	76	23	214.0	緑色凝灰岩	表裏両面に凹みと磨り。
44	SB-1 ピット22	G-17	Ⅲ層 (確認面)	磨製石斧	112	50	27	192.1	安山岩	基部残存。
45	SN-2		覆土	敲磨石類	101	80	50	551.8	安山岩	表裏両面に凹みと磨り。
46	SN-2		覆土	石皿・ 台石類	230	239	117	8200.0	安山岩	表面に磨りだが形成弱い。
48	SK-24		2層	石皿・ 台石類	154	155	42	900.9	頁岩	石皿。表面に磨り。側縁は打ち欠いて整形か。表面黒く変色。
69	遺構外	H-22 (風倒木)		磨製石斧	114	50	26	207.6	安山岩	基部残存。欠損後、剥離部分を含め再研磨して使用するも再度欠損。
70	遺構外	I-15	Ⅱ層	磨製石斧	47	37	14	44.0	緑色片岩	刃部残存。
71	遺構外	表採		敲磨石類	180	75	57	1230.5	安山岩	表裏両面・両側面に磨り、裏面に凹み。上下両端にもわずかに敲打痕か？
72	遺構外	H-15	Ⅱ層	敲磨石類	140	67	36	402.1	緑色凝灰岩	表面に凹みと磨り。左側面に敲打痕。
73	遺構外	I-10	Ⅱ～Ⅲ層	敲磨石類	127	74	37	360.8	緑色凝灰岩	使用により欠損後も使用。表裏両面に凹み、表面磨り。
74	遺構外	H-17	Ⅱ層	敲磨石類	94	86	36	499.5	安山岩	表裏両面に凹み、表面磨り。
75	遺構外	H-15	Ⅱ層	敲磨石類	169	98	35	756.4	安山岩	表裏両面に凹み、右側面に磨り。
76	遺構外	表採		敲磨石類	170	58	33	474.2	緑色凝灰岩	表裏両面に凹み。
77	遺構外	H-17	Ⅱ層	敲磨石類	128	80	46	462.3	安山岩	表裏両面に凹み。
78	遺構外	I-14	Ⅱ層	敲磨石類	86	93	40	439.1	安山岩	表面に凹み。
79	遺構外	H-14、 I-14	Ⅱ層、 Ⅱ～Ⅲ層	石皿・ 台石類	262	308	58	5364.1	安山岩	石皿。使用部分以外は自然面。

石製品観察表

番号	出土位置	グリッド	層位	器種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石材	備考
12	SI-1	I-11	覆土上層	石棒	464	69	52	2767.5	粘板岩	
80	遺構外	H-11	Ⅱ～Ⅲ層	石刀	439	35	28	688.8	粘板岩	上半欠損
81	遺構外	I-13	Ⅱ～Ⅲ層	石製品	47	38	8	20.1	細粒凝灰岩	下半欠損



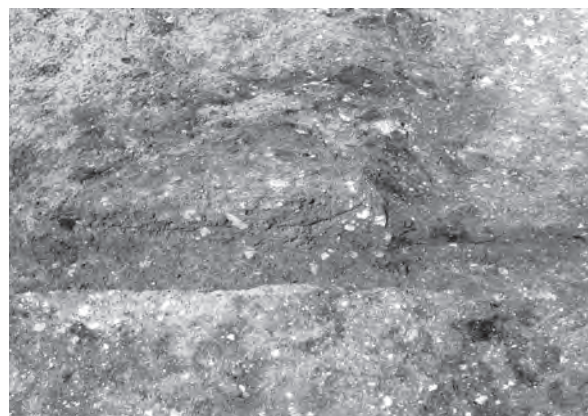
SI-1 土層(A-A') S →



SI-1 土層(B-B') SE →



SI-1 遺物出土状況 S →



SI-1 炉 土層 S →

写真1 第1号竪穴住居跡

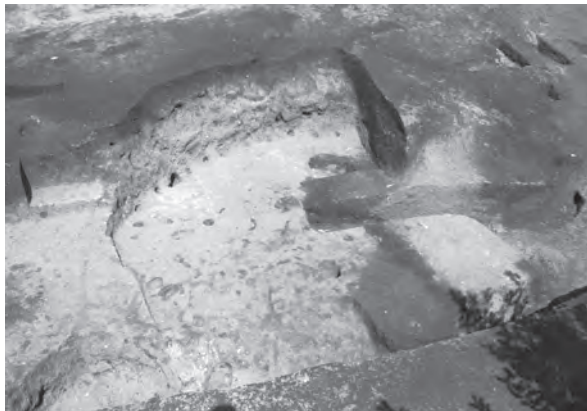


SI-2 遺物出土状況 S →



SI-2 土層(A-A'・B-B') S →

写真2 第2号竖穴住居跡



SI-3 完掘 S →



SI-3 土層(B-B') W →



SI-3 炉 検出 S →



SI-3 土層(C-C' 西側) S →



SI-9 土層(A-A') NE →



SI-9 遺物出土状況 N →



SK-23 土層 N →



SK-23 完掘 S →

写真3 第3・9号竪穴住居跡/第23号土坑



SI-4 完掘 S →



SI-4 土層(B-B') W →



SI-4 遺物出土状況 S →



SI-4 炉 検出 S →

写真4 第4号竖穴住居跡



SI-5 完掘 S →



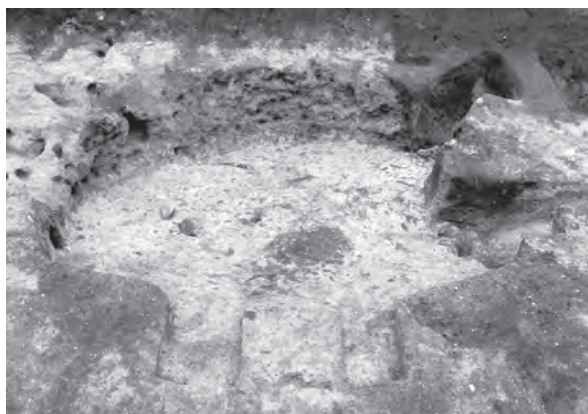
SI-5 土層(A-A') SE →



SI-5 炉 検出 NE →



SI-5 炉 土層 NE →



SI-8 完掘 S →



SI-8 土層(B-B') S →



SI-8 土層(A-A') W →



SI-8 炉 土層 S →

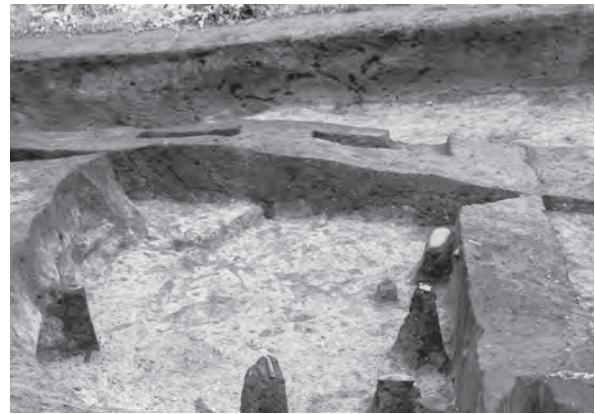
写真5 第5・8号竪穴住居跡



SI-6 炭化材出土状況 S →



SI-6 新段階完掘 S →



SI-6 土層(B-B' 東側) N →



SI-6 土層(A-A' 北側) W →

写真6 第6号竪穴住居跡(1)



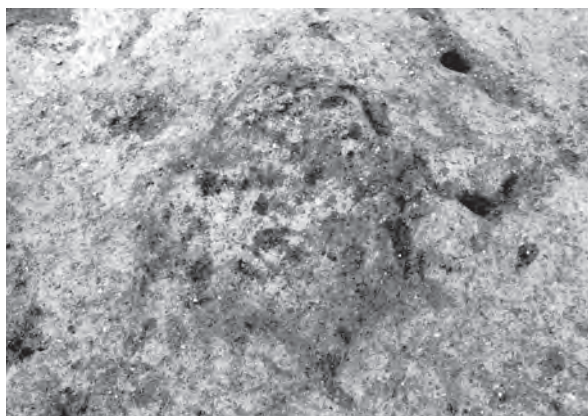
SI-6 旧段階完掘 S →



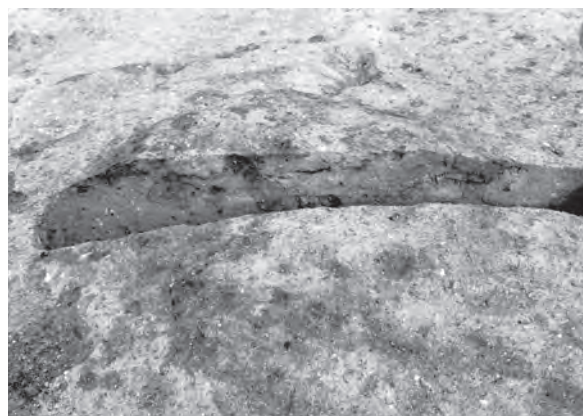
SI-6 貼床土層(C-C') NE →



SI-6 出入口施設 完掘 S →



SI-6 炉 検出 S →



SI-6 炉 土層 W →

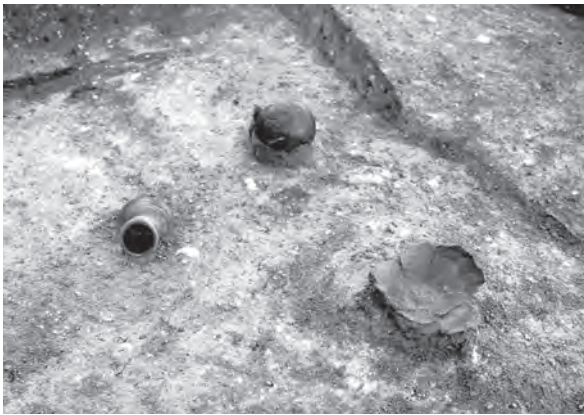
写真7 第6号竖穴住居跡(2)



SI-7 完掘 SW →



SI-7 土層(A-A')・遺物出土状況 SE →



SI-7 遺物出土状況 N →



SI-7 炉 土層 W →

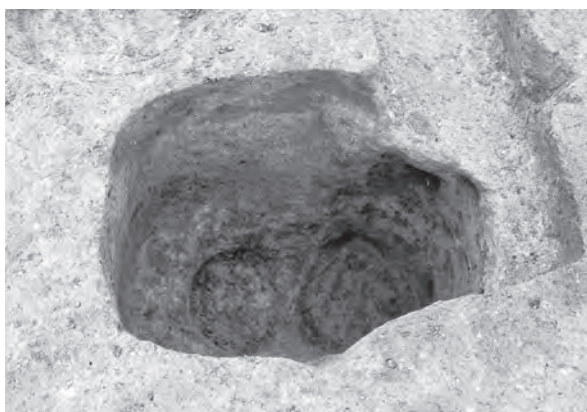
写真8 第7号竪穴住居跡



SB-1 配石遺構検出 SW →



SB-1 完掘 SE →



ピット17(左)・ピット13(右) 完掘 E →



SK-3・ピット22 土層 SE →



ピット25 完掘 S →



ピット26 完掘 S →



SN-2 検出 S →

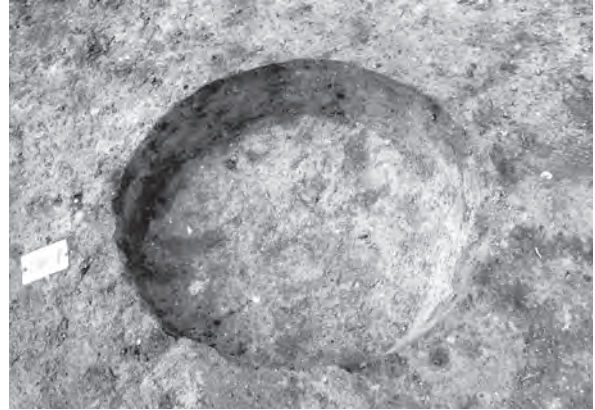


SN-2 土層 E →

写真9 第1号掘立柱建物跡/第3号土坑/第2号焼土遺構



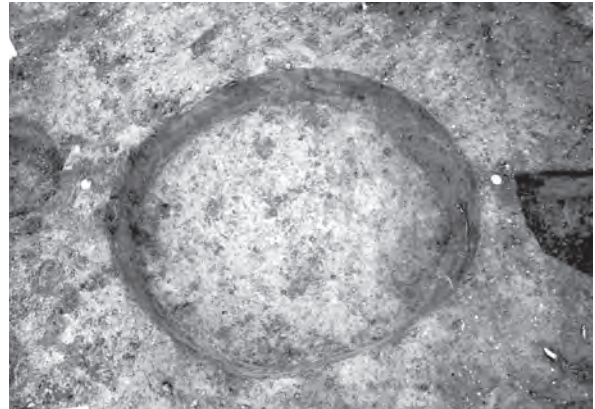
SK-1 土層 S →



SK-1 完掘 S →



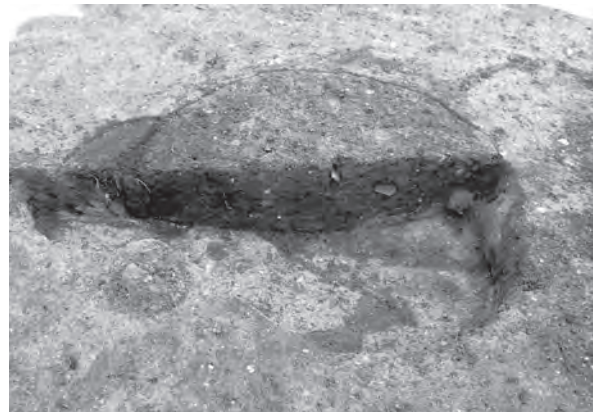
SK-2 土層 W →



SK-2 完掘 W →



SK-5 土層 W →



SK-6・7 土層 SW →



SK-8 土層 SE →

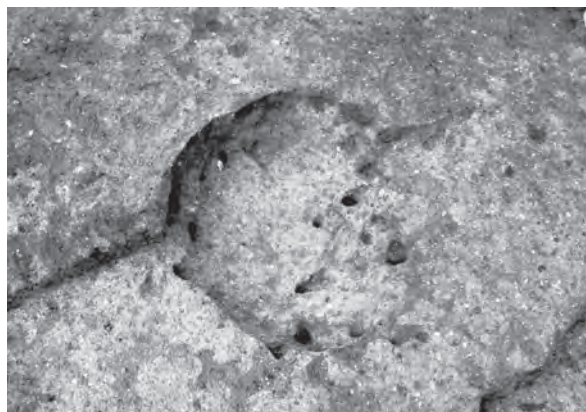


SK-8 完掘 SE →

写真10 土坑(1)



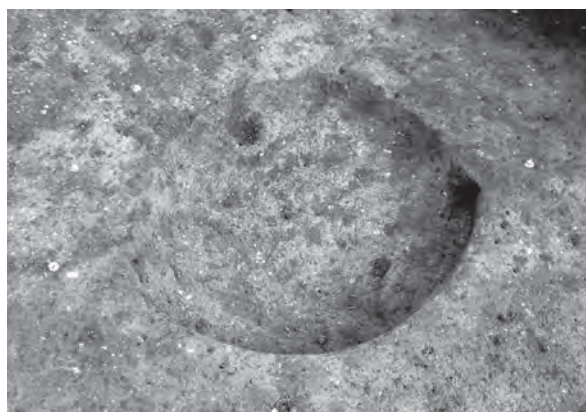
SK-9 土層 SE →



SK-9 完掘 S →



SK-12 土層 NW →



SK-12 完掘 N →



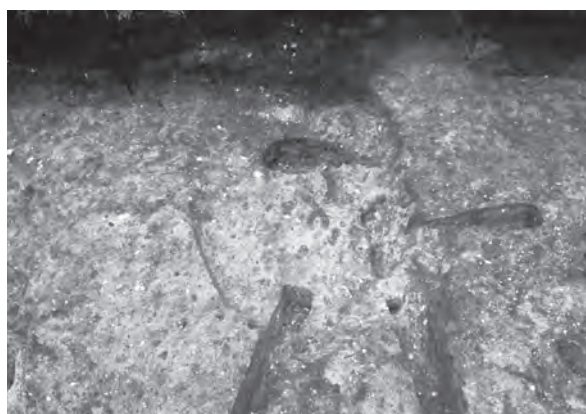
SK-14 土層 N →



SK-14 完掘 N →



SK-17・ピット12 土層(A-A') E →



SK-17・ピット12 完掘 S →

写真11 土坑 (2)



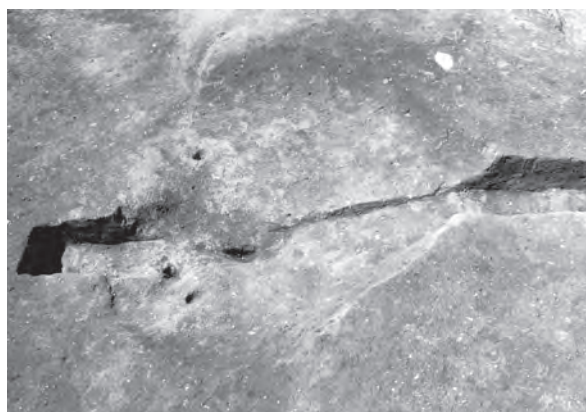
SK-18 土層 SW →



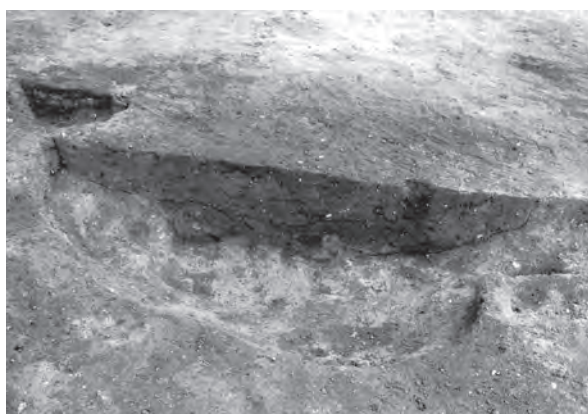
SK-18 完掘 SW →



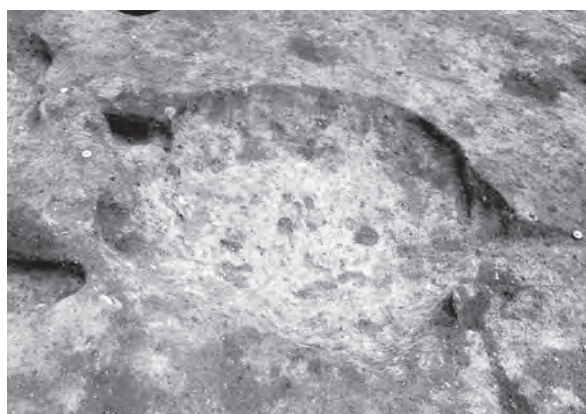
SK-19 土層 NE →



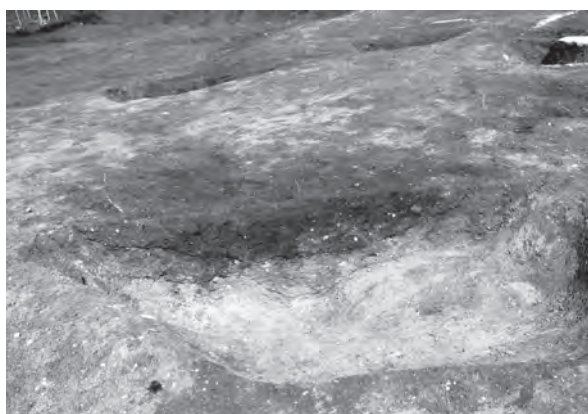
SK-19 完掘 NE →



SK-22 土層 SW →



SK-22 完掘 SW →



SK-25 土層 SE →



SK-25 完掘 SE →

写真12 土坑 (3)



SK-24 完掘 S →



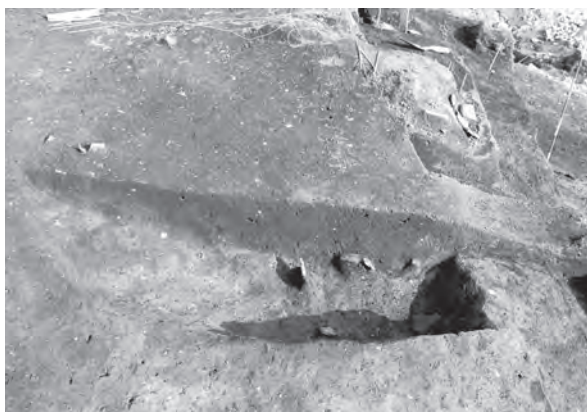
作業風景 E →



SK-24 土層(B-B') W →



SK-24 土層(A-A') NE →



SK-27 土層 NW →



SK-27 完掘 NW →

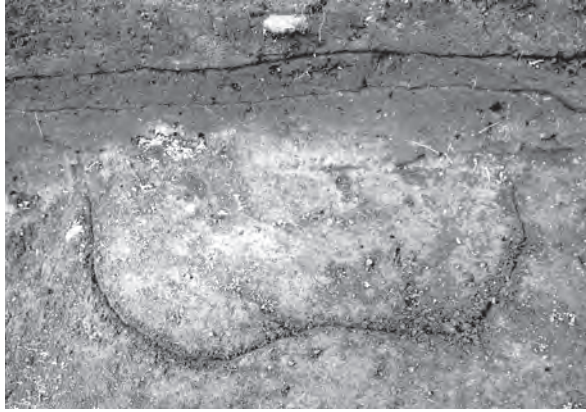


SK-28 土層 W →



SK-28 完掘 W →

写真13 土坑(4)



SN-1 検出 S →



SN-1 土層 S →



SV-1 土層・完掘 SW →



盛土範囲2・3 南側検出 E →



盛土範囲2・3 北側検出 NW →



遺跡遠景(駒木沢対岸より遺跡を望む) SE →



盛土範囲1 検出 SW →

写真14 第1号焼土遺構/第1号溝状土坑/盛土範囲

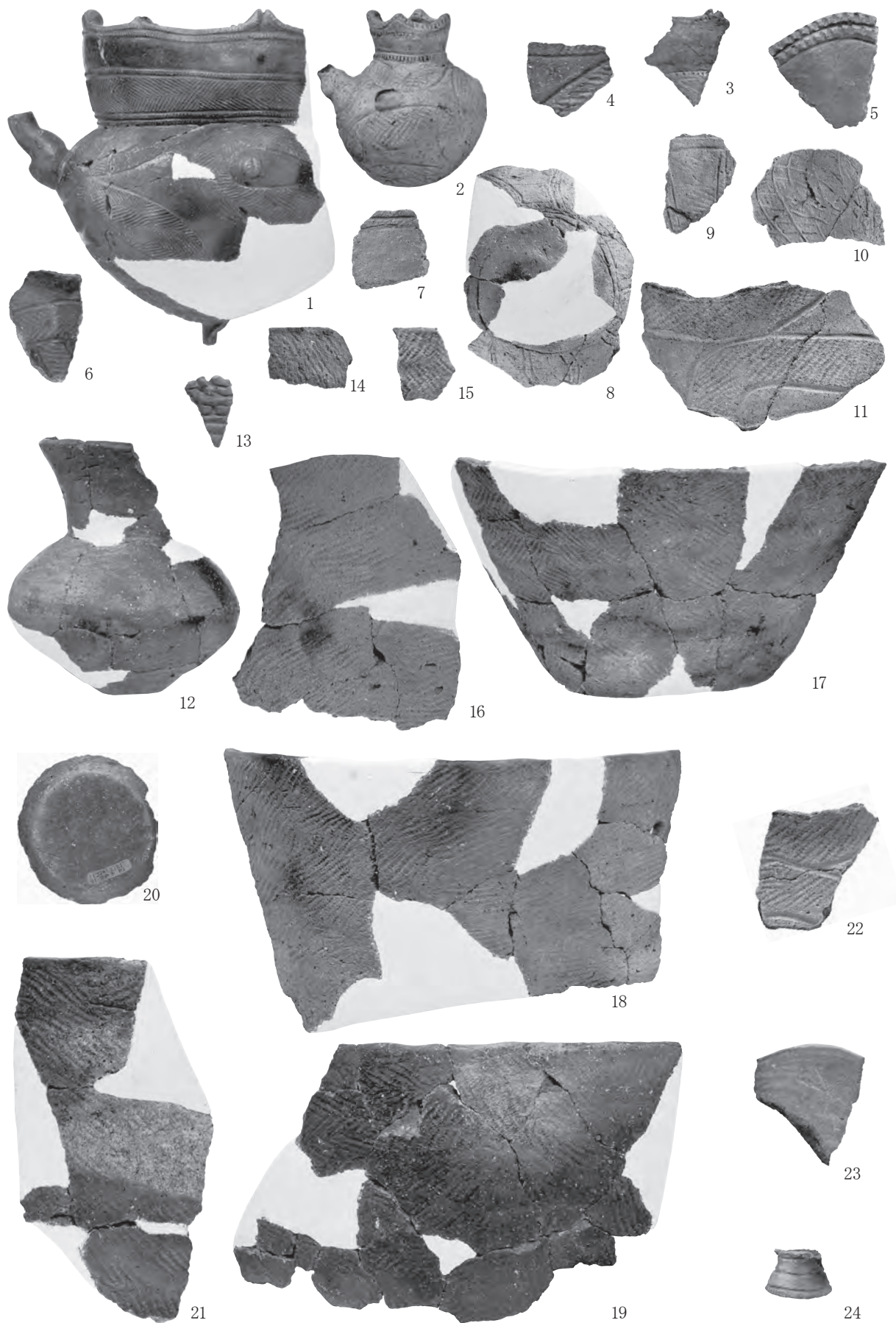


写真15 土器・土製品（1）



写真16 土器・土製品(2)

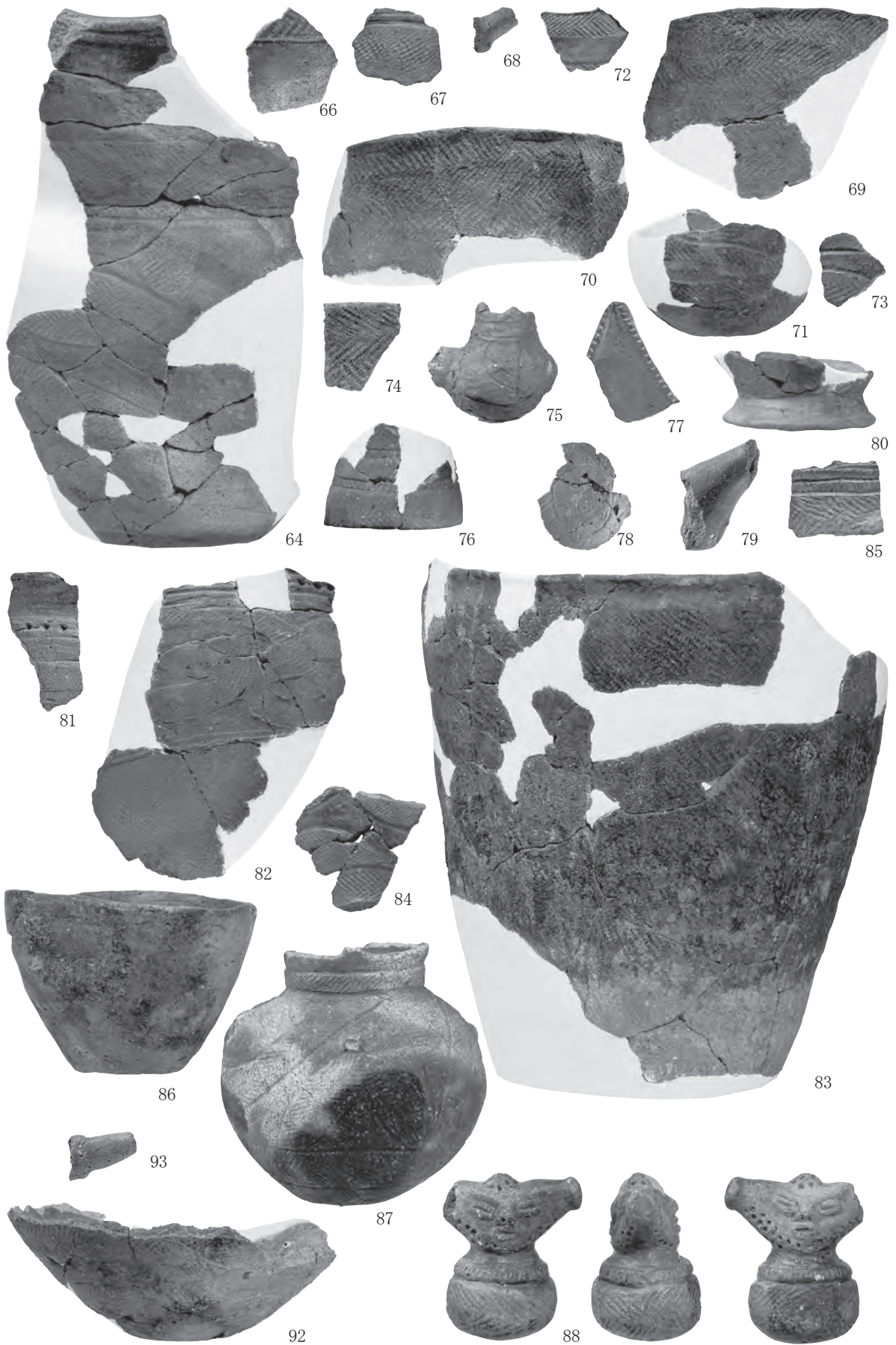


写真17 土器・土製品 (3)

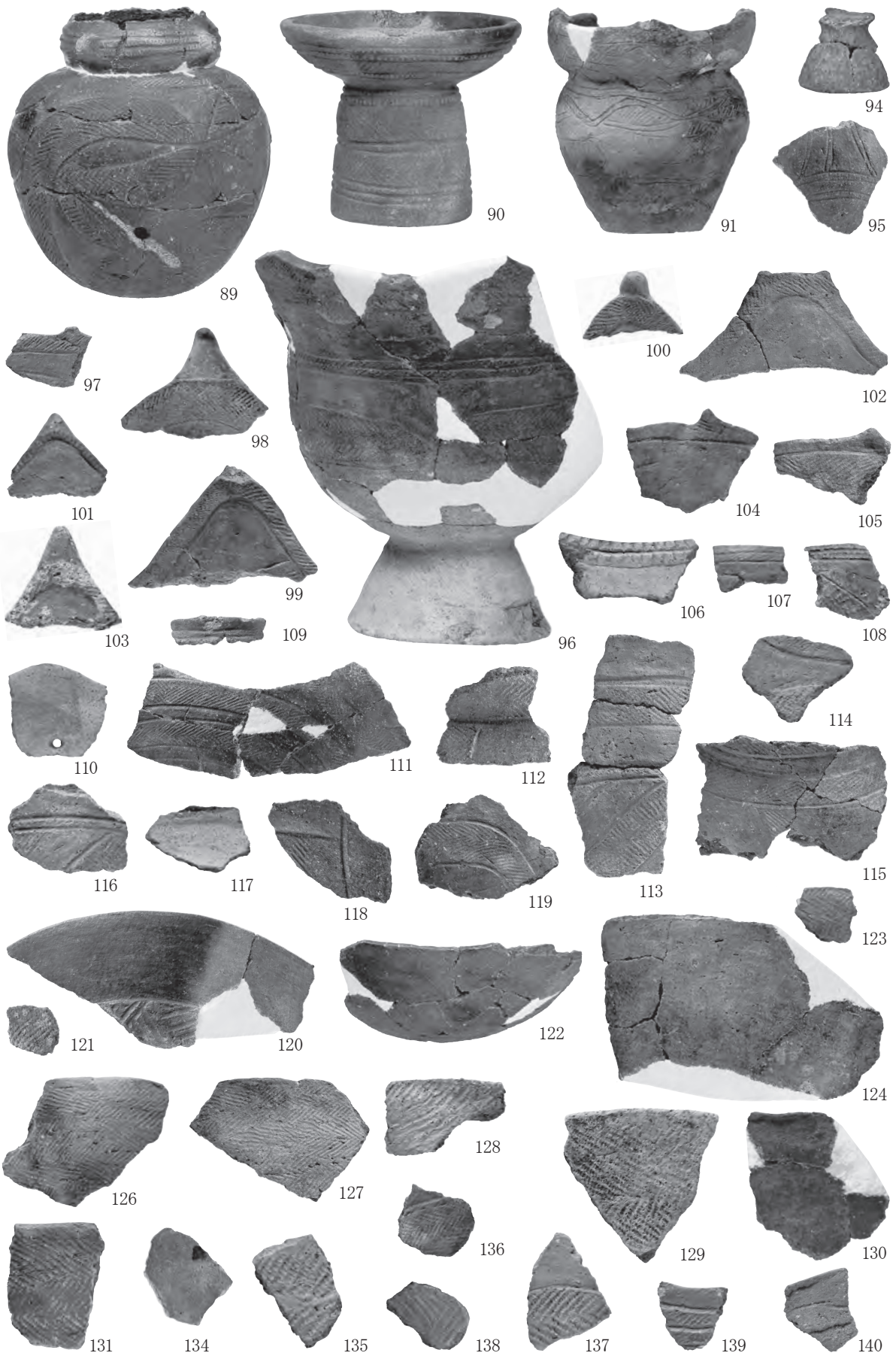


写真18 土器・土製品(4)



写真19 土器・土製品 (5)

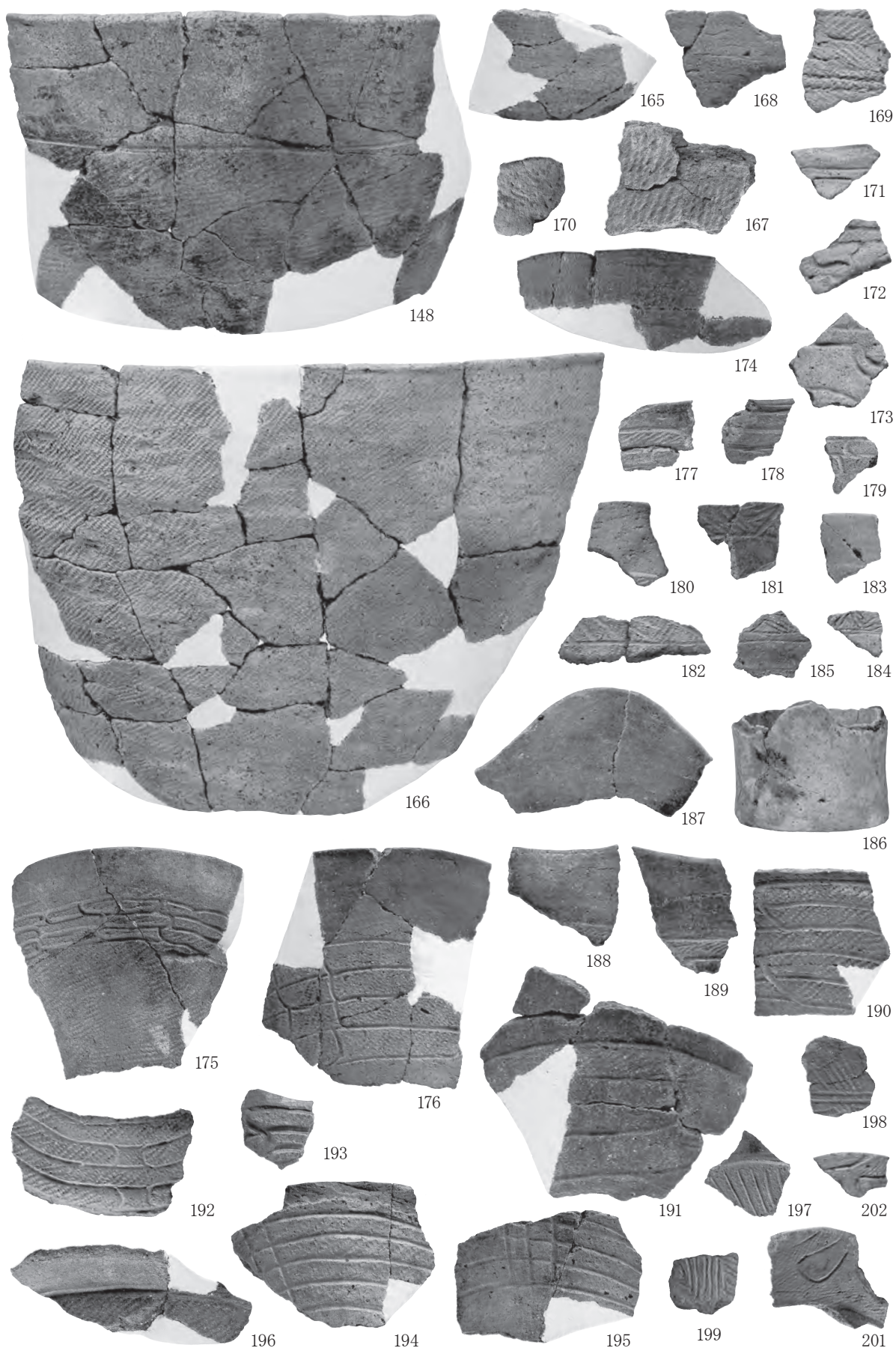


写真20 土器・土製品(6)

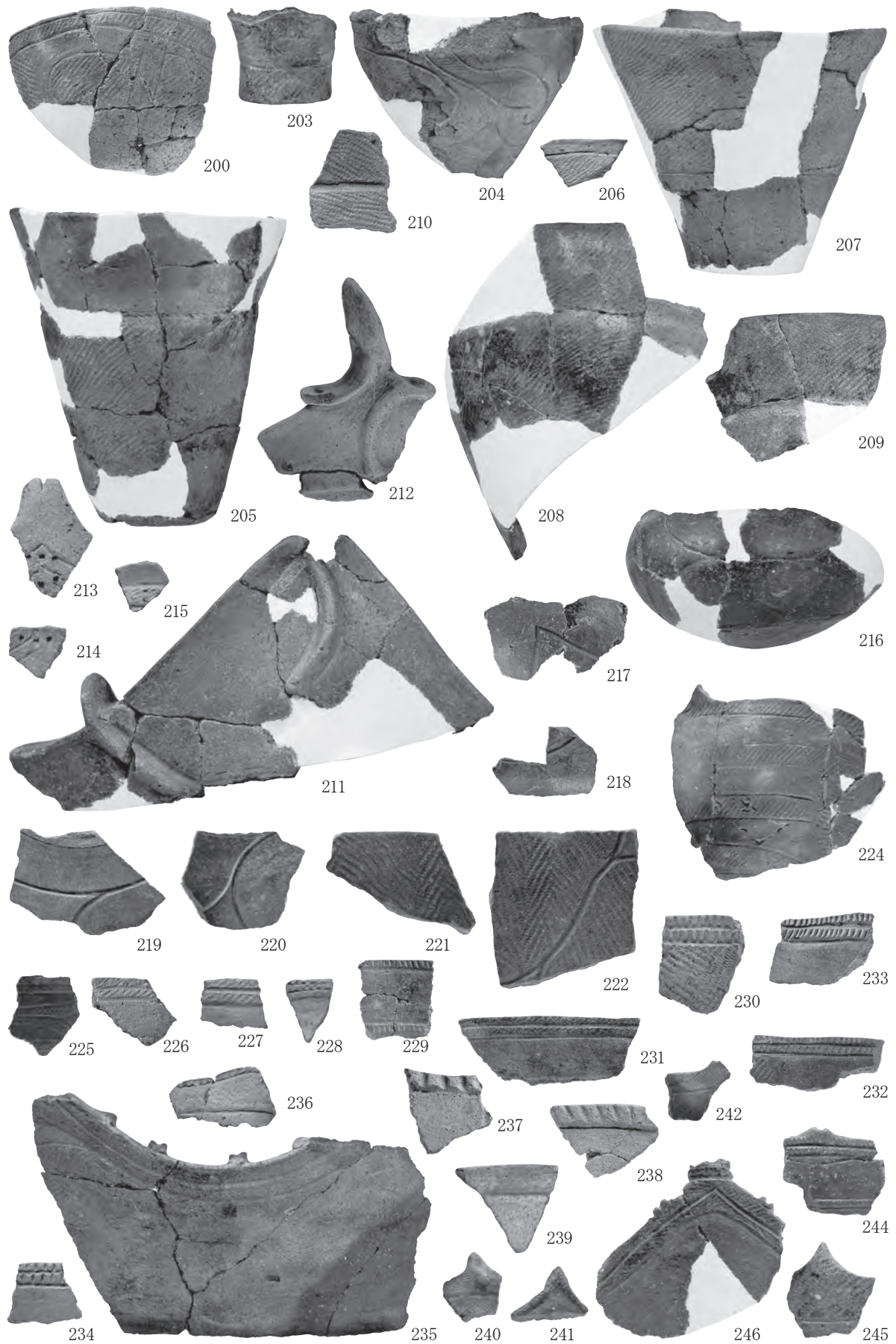


写真21 土器・土製品 (7)

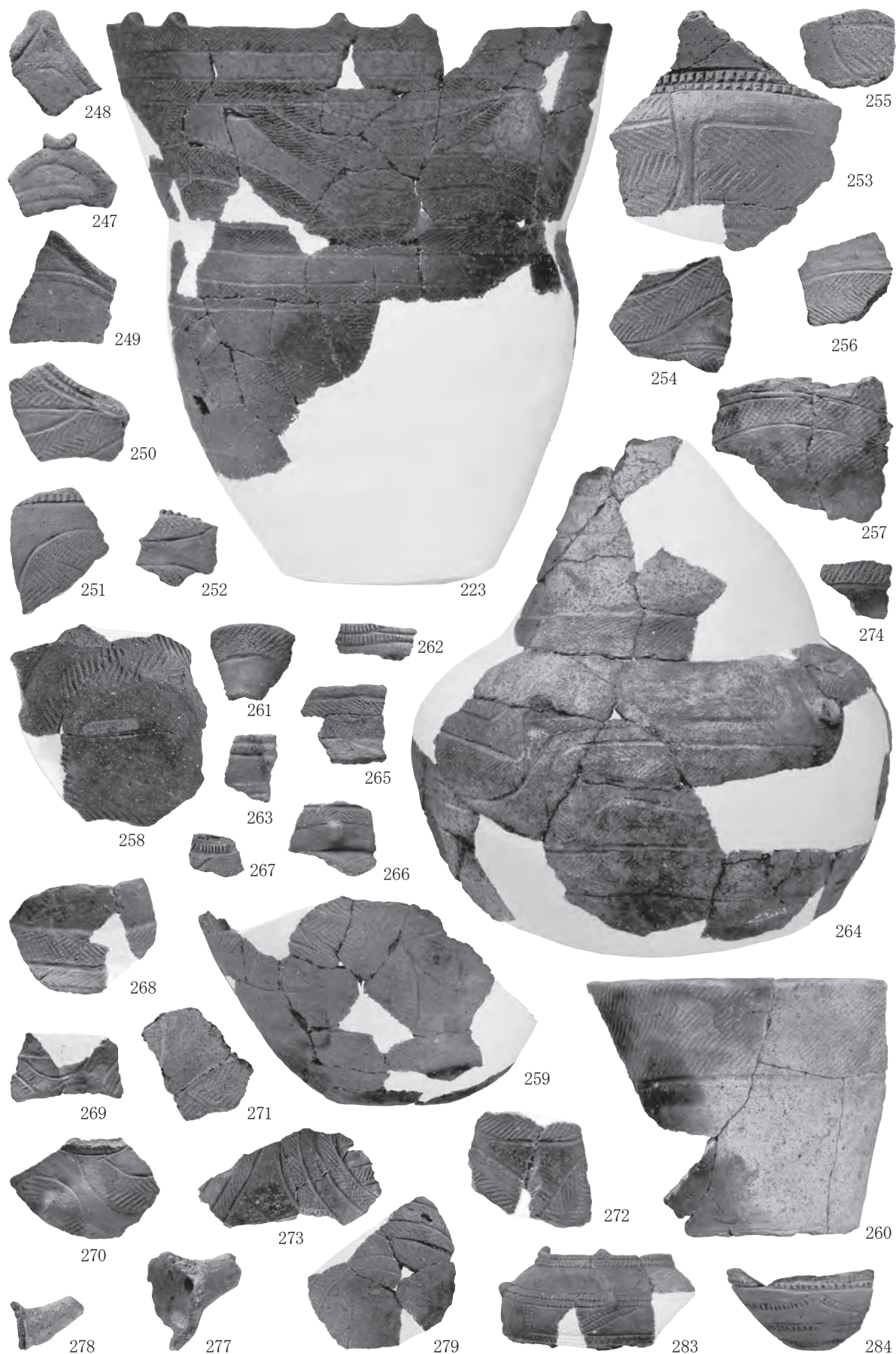


写真22 土器・土製品(8)

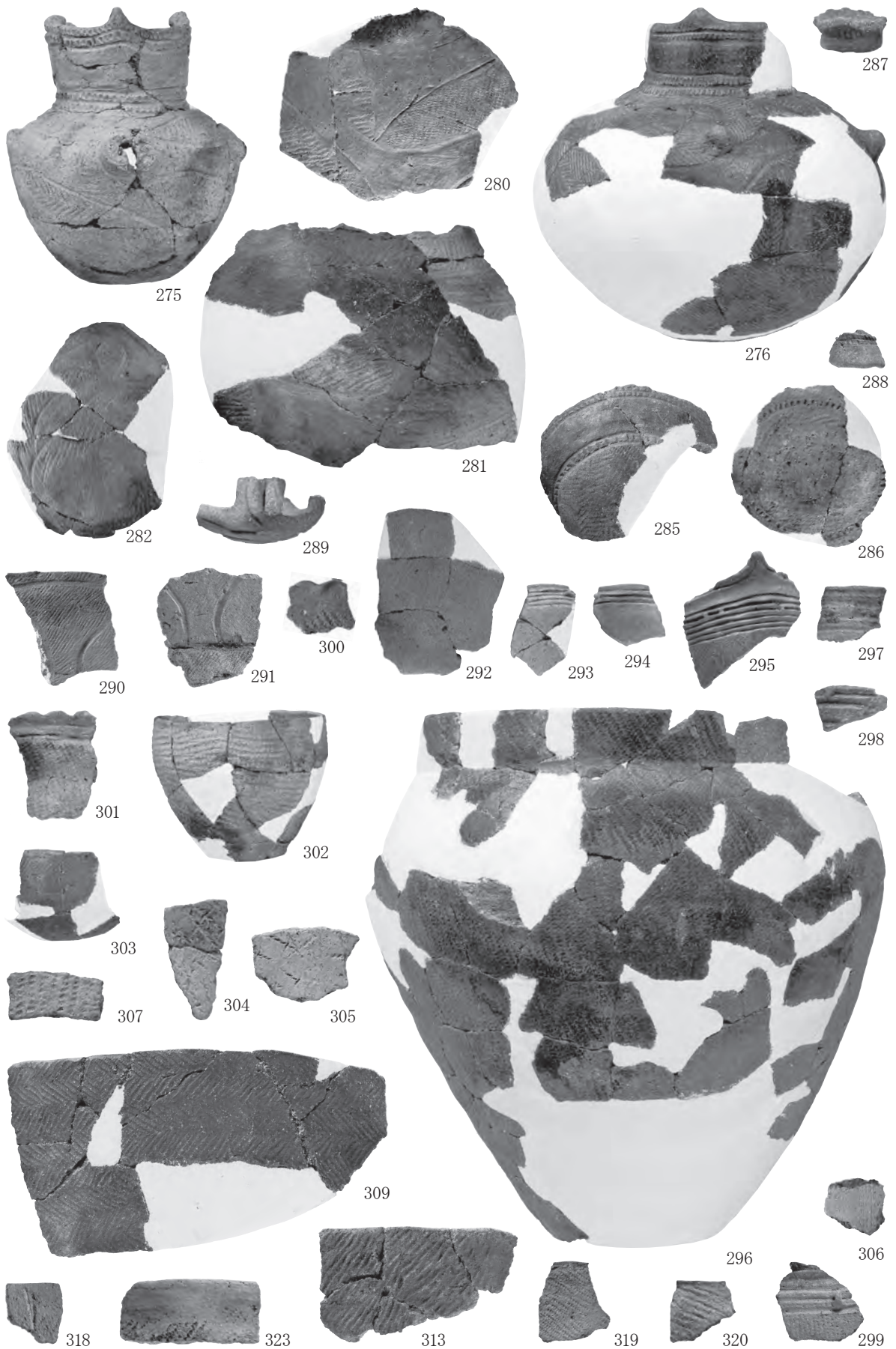


写真23 土器・土製品 (9)



写真24 土器・土製品(10) / 石器・石製品(1)

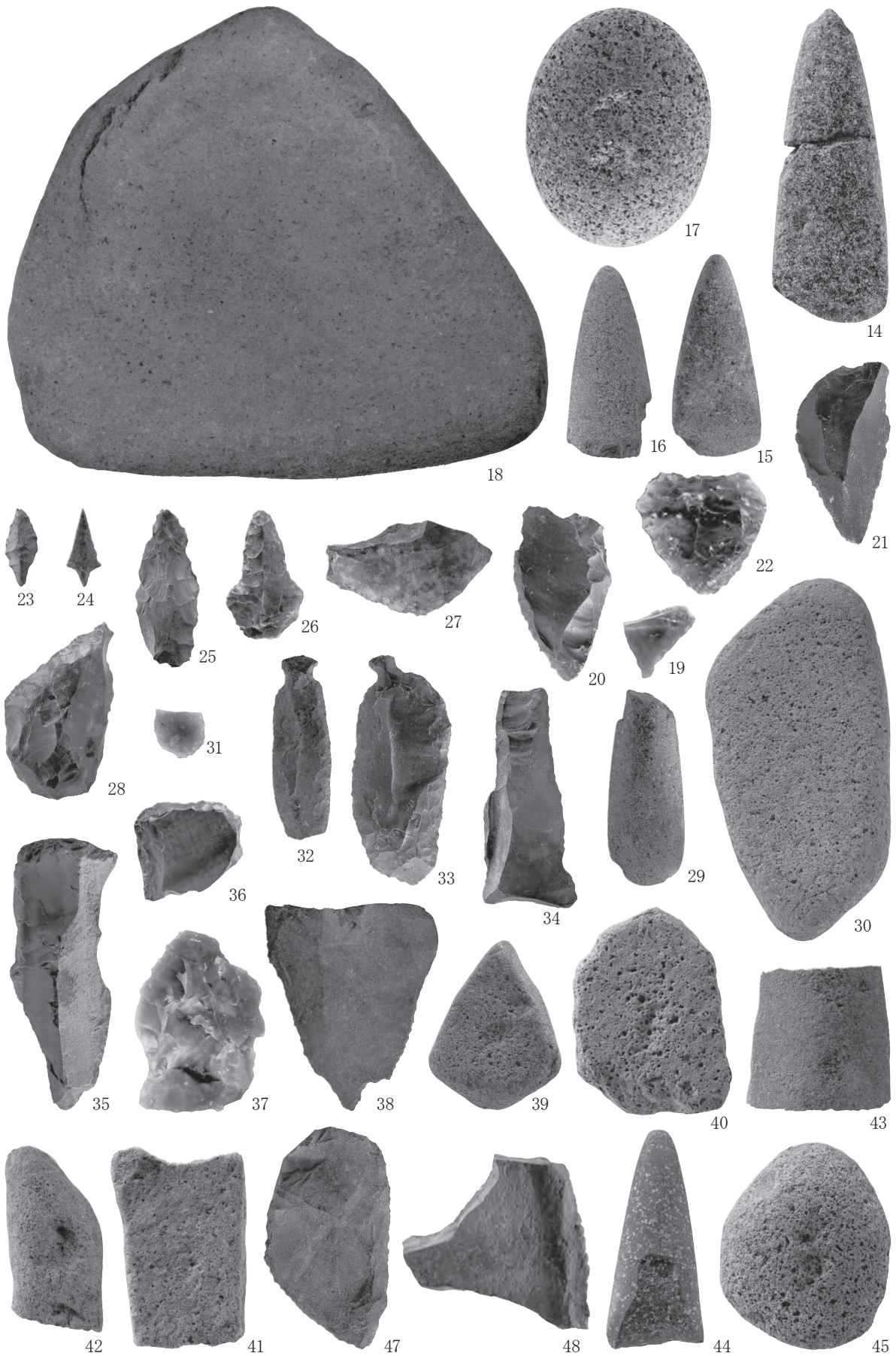


写真25 石器・石製品（2）

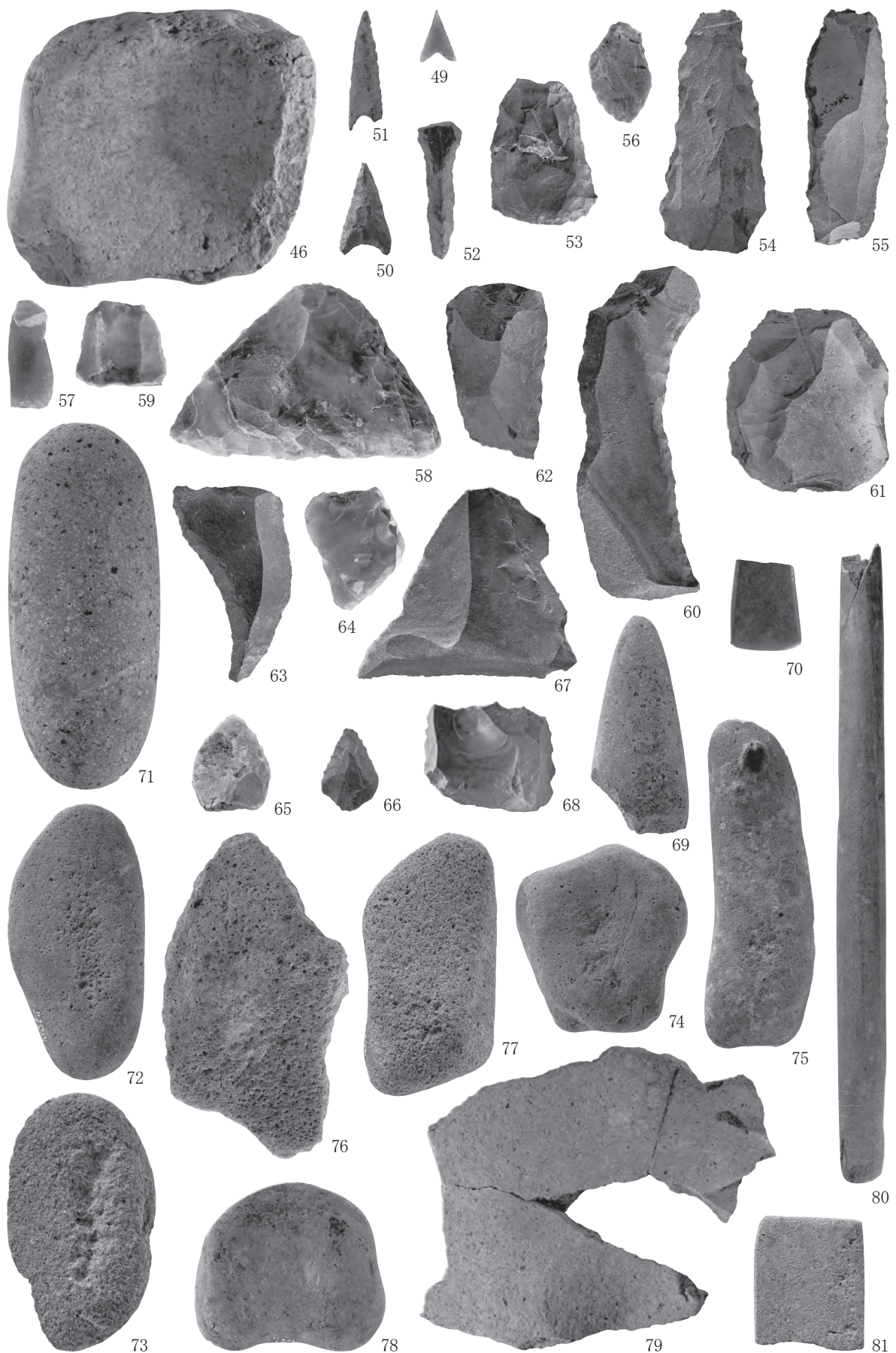


写真26 石器・石製品 (3)

報 告 書 抄 録

ふりがな	こまきざわかっこにいせき							
書名	駒木沢(2)遺跡							
副書名	県営一般農道整備事業(過疎基幹)に伴う遺跡発掘調査報告							
シリーズ名	青森県埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第532集							
編著者名	中嶋 友文・大平 哲世・荒谷 伸郎・成田 滋彦							
編集機関	青森県埋蔵文化財調査センター							
所在地	〒038-0042 青森県青森市大字新城字天田内152-15 TEL 017-788-5701							
発行機関	青森県教育委員会							
発行年月日	2013年3月27日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		世界測地系 (JGD 2000)		調査期間	調査 面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
こまきざわかっこにいせき 駒木沢(2)遺跡	あおもりけんみなつがるぐんおおむにまち 青森県南津軽郡大鰐町 おおあさながみおあさこまきざわらない 大字長峰字駒木沢地内	02362	362045	40° 31′ 24″	140° 37′ 30″	20101004 ~ 20101029 20110809 ~ 20111007	1,400	記録保存 調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
駒木沢(2)遺跡	集落	縄文時代	竪穴住居跡 9 掘立柱建物跡 1 土坑 22 焼土遺構 2 溝状土坑 1 ピット 6	縄文土器(前期・ 後期・晩期)・ 石器・土製品・ 石製品				
要約	大鰐町の長峰地区を西流する駒木沢の右岸に位置する縄文時代後期中葉～後葉の集落遺跡である。遺構は竪穴住居跡、掘立柱建物跡、土坑、焼土遺構、溝状土坑、ピットを確認した。竪穴住居跡には出入口施設を有するものがある。遺物は縄文土器、石器、土製品、石製品があり、なかでも人面が表現されたスタンプ形土製品の出土が特筆される。							

青森県埋蔵文化財調査報告書 第532集

駒木沢(2)遺跡

— 県営一般農道整備事業（過疎基幹）に伴う遺跡発掘調査報告 —

発行年月日 2013年3月27日
発行 青森県教育委員会
編集 青森県埋蔵文化財調査センター
〒030-0042 青森県青森市大字新城字天田内152-15
TEL 017-788-5701 FAX 017-788-5702
印刷所 有限会社 アート印刷
〒037-0011 青森県五所川原市金山字亀ヶ岡46-7
TEL 0173-34-4487 FAX 0173-34-4459
